「日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版）―九州地域・中国地域北方沖―」で新たに評価対象となった海域活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）

令　和　7　年　6　月
地震調査研究推進本部事務局

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、令和４年３月に「日本海南西部の海域活断層の長期評価（第一版）―九州地域・中国地域北方沖―」（以下「日本海南西部の長期評価」という）を公表しました。日本海南西部の長期評価では、主要活断層帯及び沿岸海域の主要活断層帯の選定基準や陸域への地震・津波被害を踏まえて、マグニチュード (M) 7.0 程度以上の地震を発生させる可能性がある、断層長さ 20 km 程度以上の海域活断層を主な評価対象とし、海域活断層ごとに位置・長さ・形状・活動度などを評価しました。今回、評価が行われたそれぞれの活断層で発生する地震に対するイメージを持って頂くことを目的に、想定されている地震が発生した場合にどの程度の揺れに見舞われる可能性があるかについて、計算を行いました。次ページ以降に、日本海南西部の長期評価における評価対象の海域活断層（帯）について、簡便法により予測震度分布を計算した結果を掲載しています。長期評価結果と併せて、防災対策の一助として頂ければ幸いです。なお、本資料の図中の断層については、計算のためにモデル化した簡易的なものであり、個々の断層の詳細なトレースについては、日本海南西部の長期評価の図１や図２などを参照してください。

＜予測震度分布図を掲載した評価対象の海域活断層（帯）＞

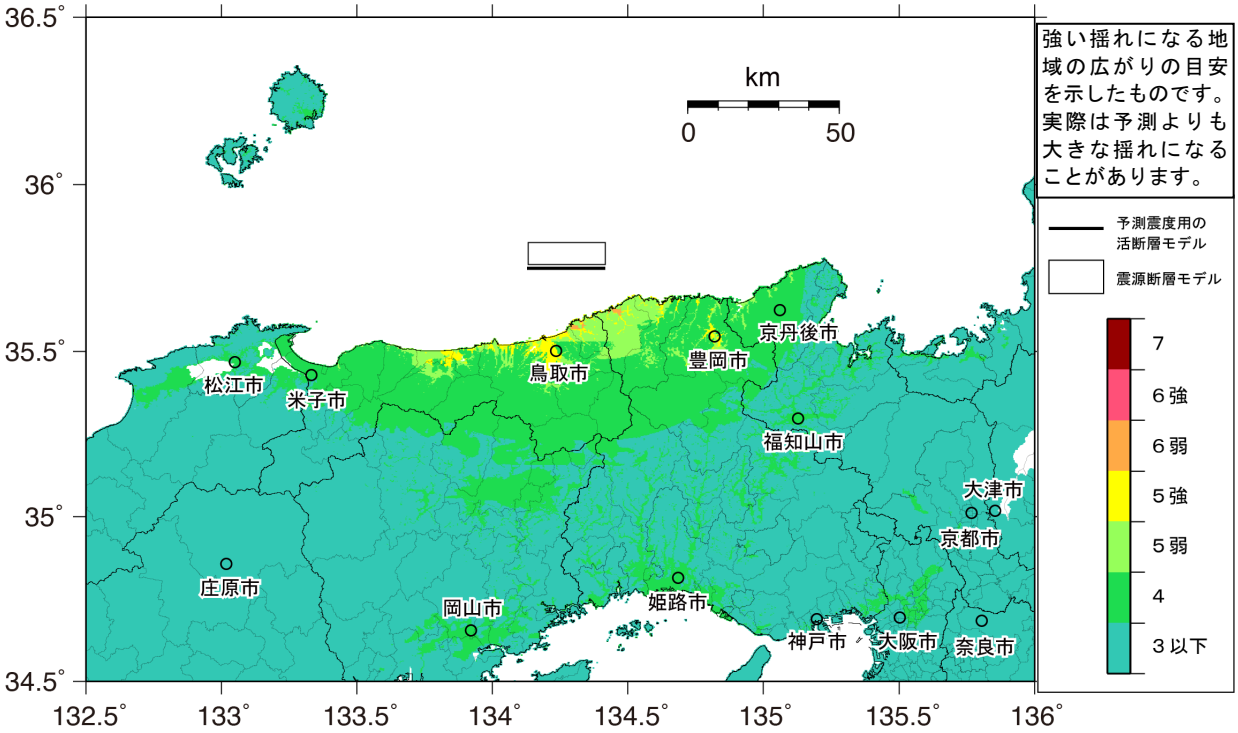
（東部地域）
- 伯耆沖断層帯
- 島根半島北方沖断層帯
- 出雲沖断層
- 島前西方沖断層
- 江津沖断層
- 日御碕沖断層帯
- 根滝グリ北方断層帯
- 十六島鼻西方沖断層帯
- 石見沖南断層
- 石見沖中断層帯
- 石見沖北断層

（中部地域）
- 浜田沖断層
- 三隅沖断層
- 須佐沖断層帯
- モドロ岬沖断層帯
- 見島近海断層
- 卯持ノ瀬東方断層
- 向津具沖断層
- 角島沖東断層
- 角島沖西断層帯
- 益田沖断層
- 千里ヶ瀬東方南断層
- 千里ヶ瀬東方北断層
- タツモチ東方断層
- ウマモチ北西断層
- 対馬海盆南方断層
- 長門はるか沖断層
- 対馬北東沖断層

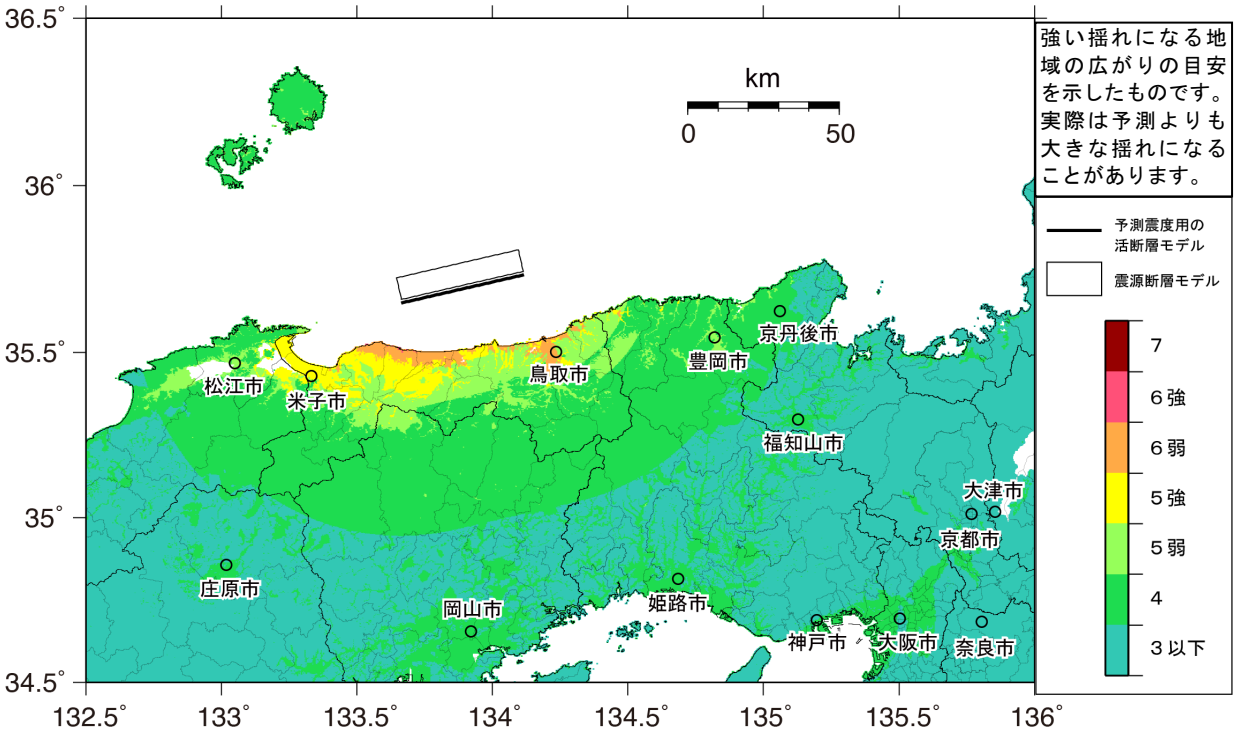
（西部地域）
- 白鳥沖断層帯
- 沖ノ島近海断層
- 小呂島近海断層帯
- 対馬東水道断層
- 対馬北方沖断層
- 対馬上県西方沖断層
- 対馬南方沖断層
- 七里ヶ曾根断層
- 第１五島堆断層帯

【参考】伯耆沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間

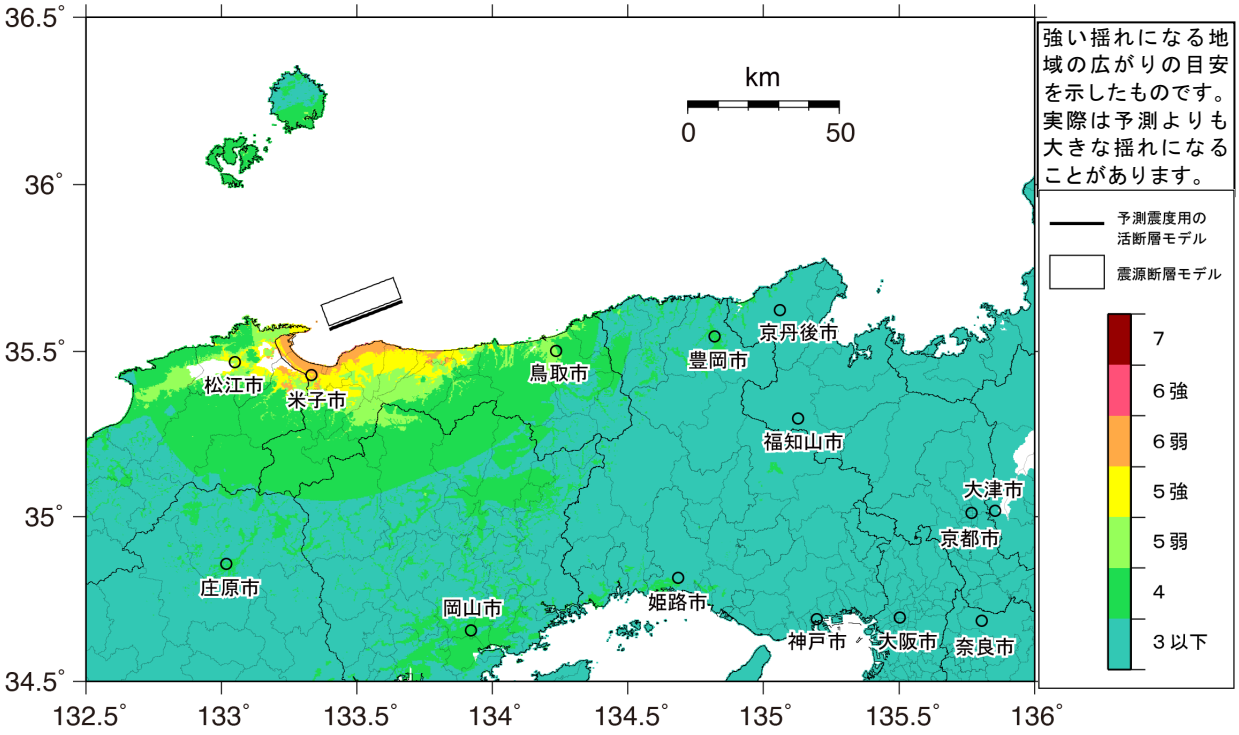


中部区間

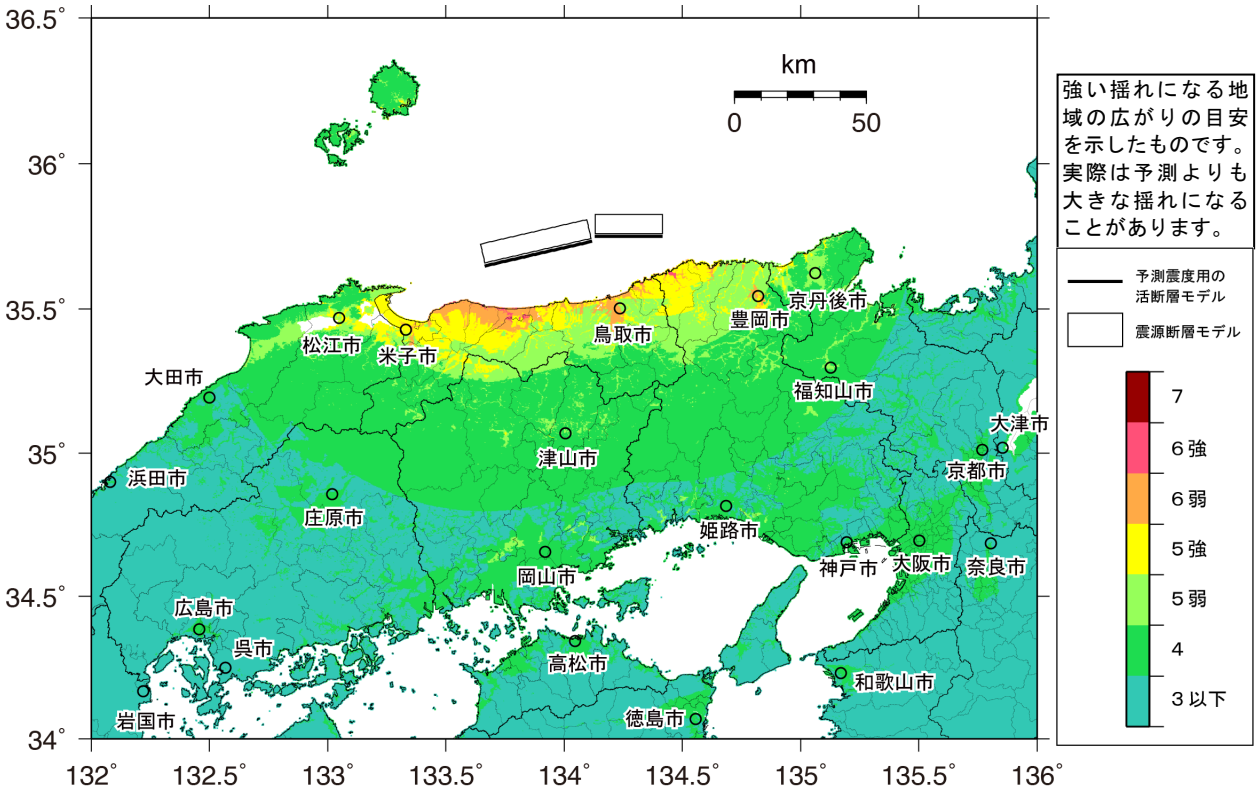


活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間

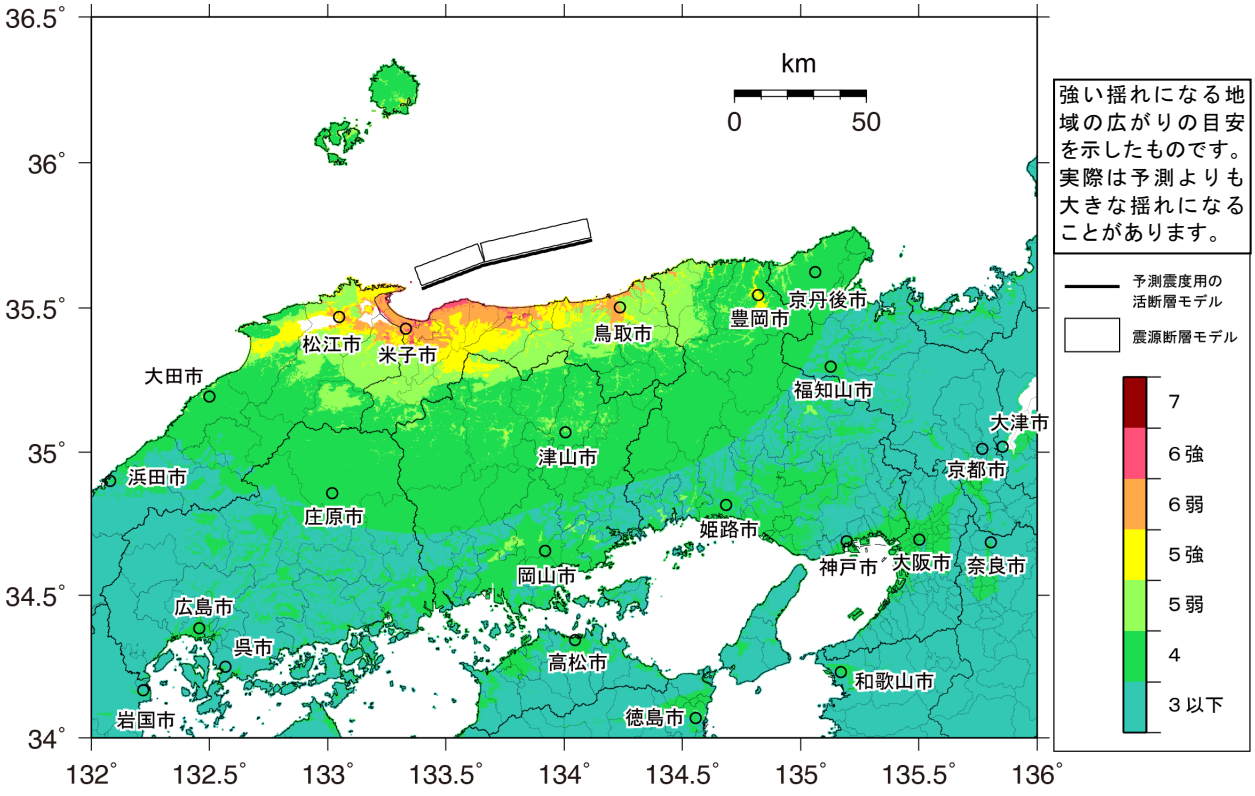


同時活動（東部区間・中部区間）



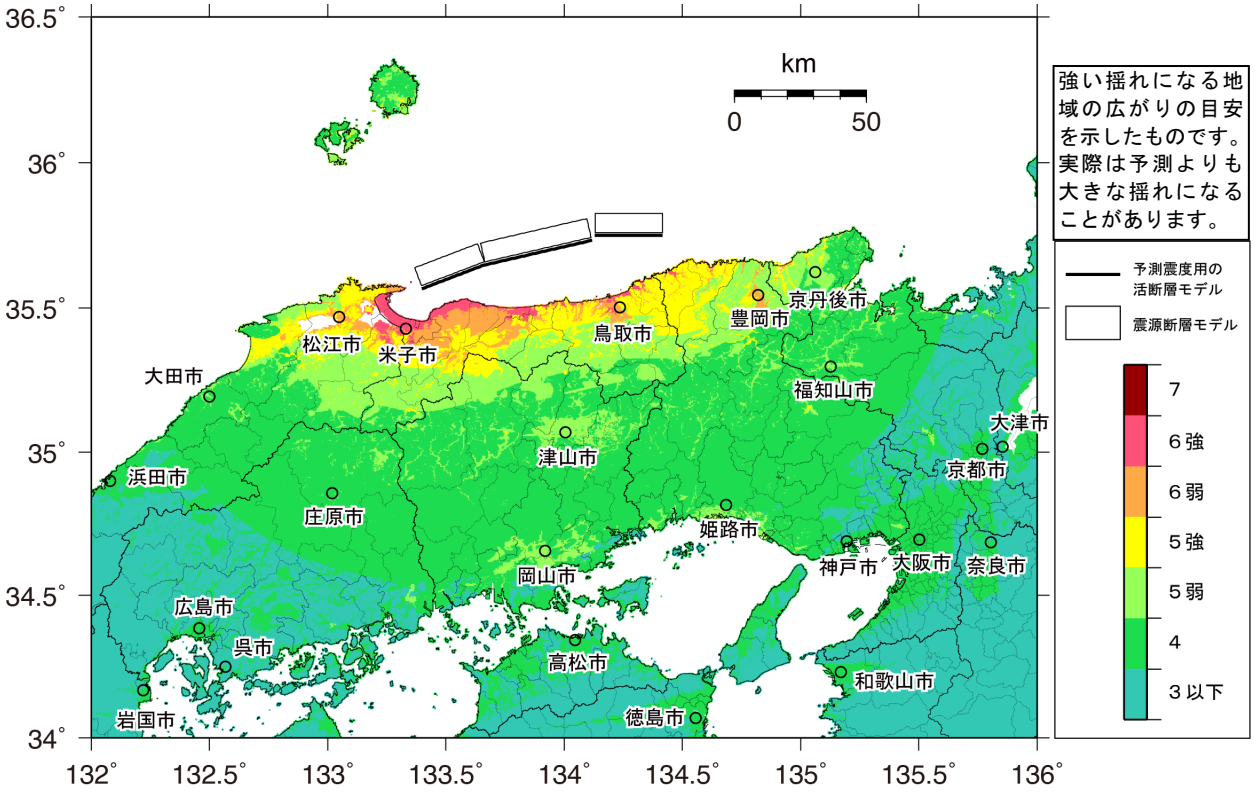
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（中部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・中部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

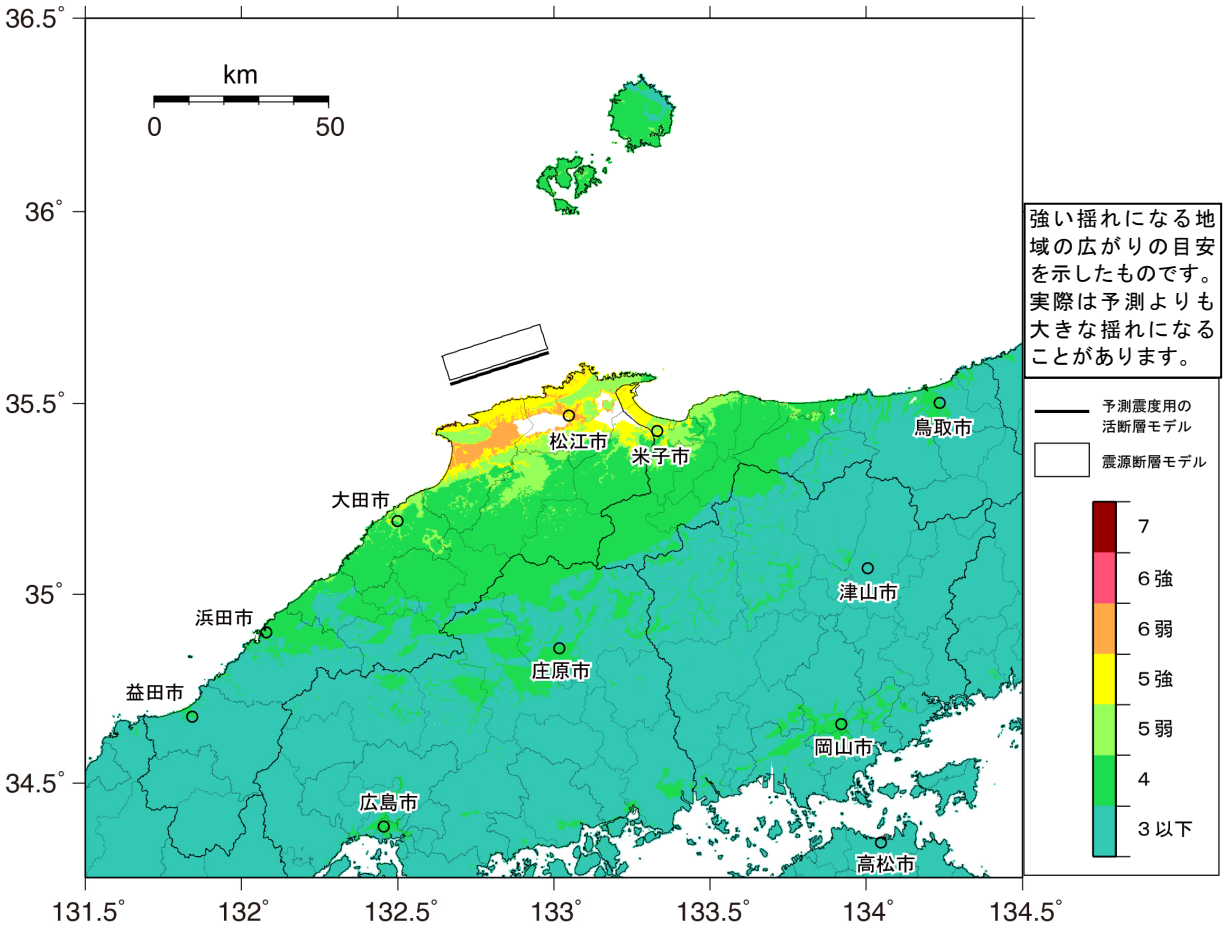
伯耆沖断層帯は、鳥取県の海岸から 10－20 km 沖に位置する長さ約 94 km、東北東－西南西走向の右横ずれ断層です。断層の走向変化や重力異常の連続性などから、東部区間、中部区間、西部区間の３区間に区分されています。

東部区間は長さ約 26 km のほぼ東西走向の右横ずれ断層です。東部区間全体が一度に活動した場合、マグニチュード（M）7.2 程度の地震が発生する可能性があります。中部区間は長さ約 42 km の東北東―西南西走向の右横ずれ断層です。中部区間全体が一度に活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。西部区間は長さ約 26 km の右横ずれ断層で、変形が不明瞭ですが、重力異常の分布から中部と区分されています。西部区間全体が一度に活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。伯耆沖断層帯全体が一度に活動した場合、M7.7 から M8.1 程度の地震が発生する可能性があります。２－５ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

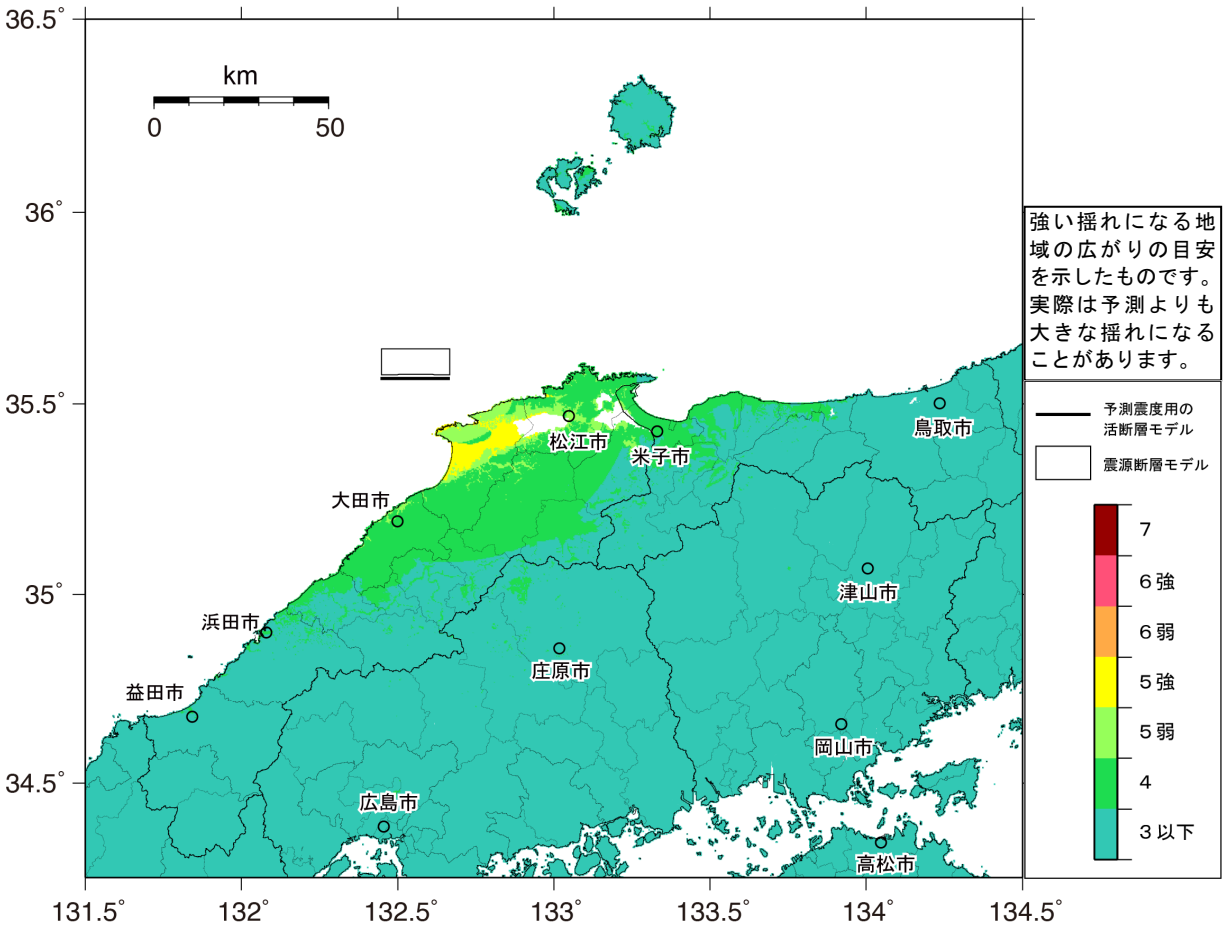
【参考】島根半島北方沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間



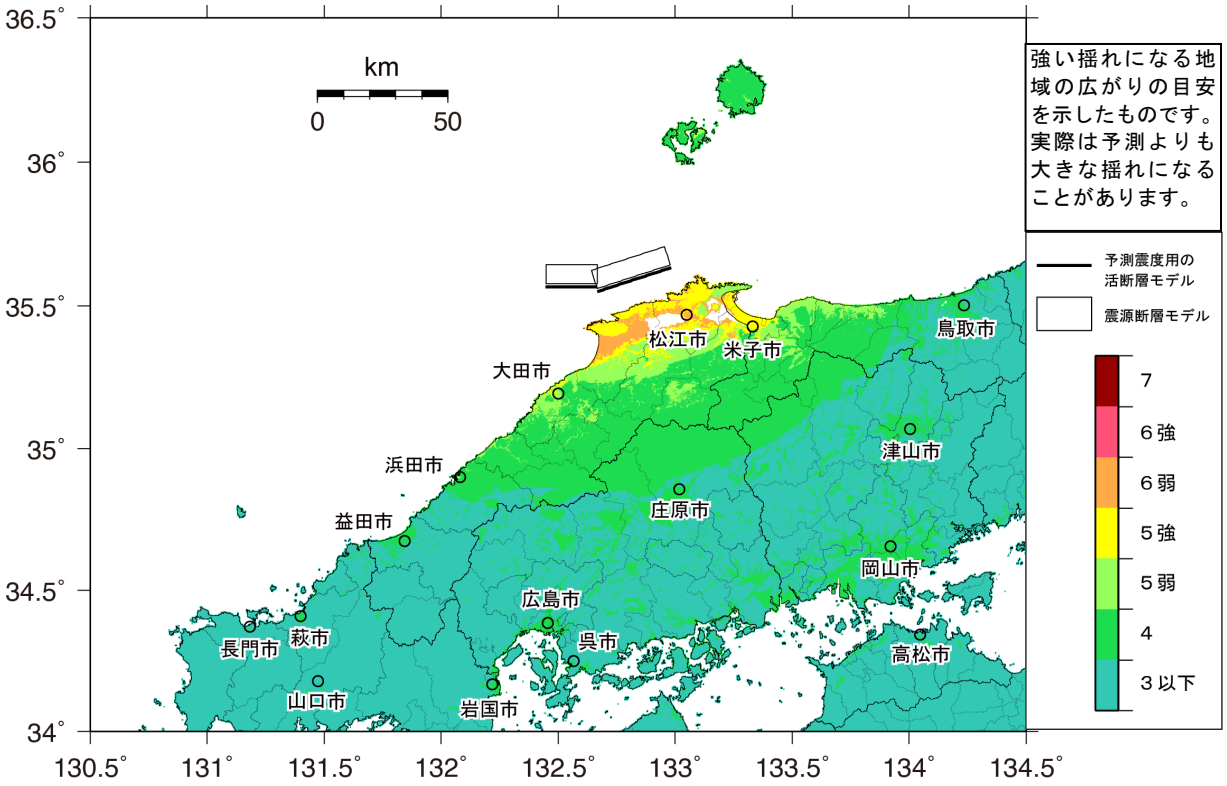
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

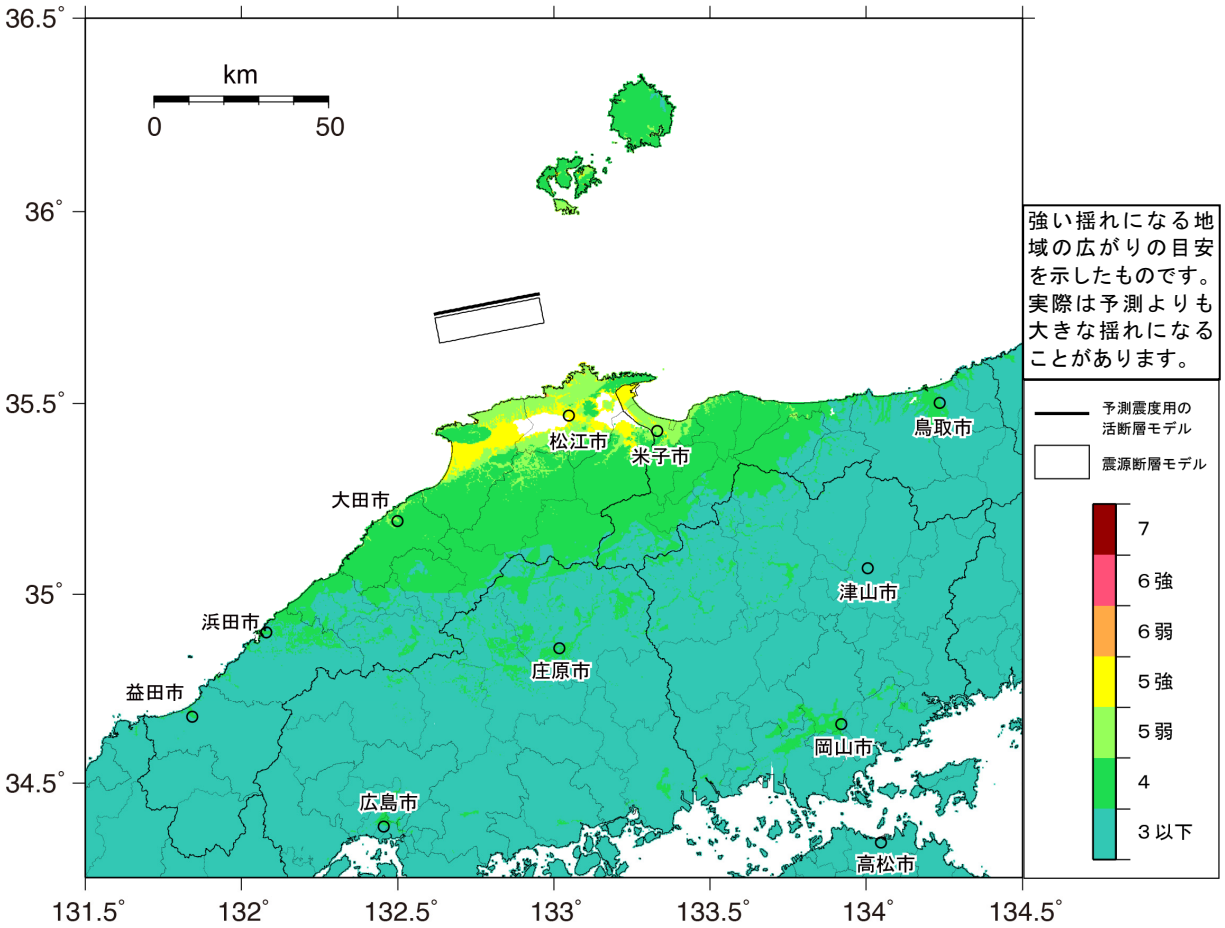
島根半島北方沖断層帯は、島根半島の北岸から約 10－20 km 沖に位置する、東北東―西南西走向の長さ約 49 km の右横ずれ断層です。

東部区間は長さ約 30 km で、東部区間全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。西部区間は長さ約 20 km で、西部区間全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。島根半島北方沖断層帯全体が一度に活動した場合、M7.7 程度の地震が発生する可能性があります。6－8 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】出雲沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

出雲沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

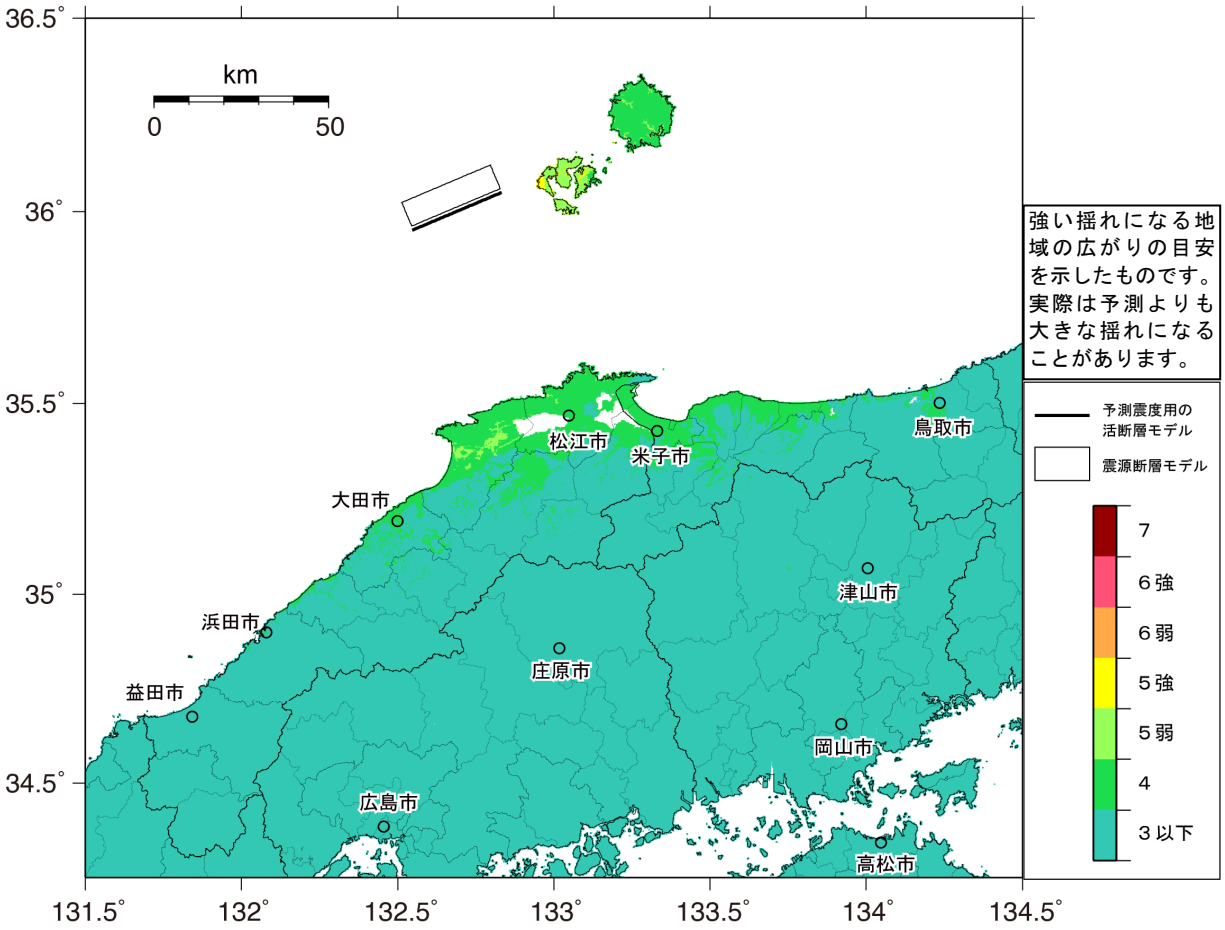
出雲沖断層は、島根半島北方沖断層帯の北方約 20 km に位置する東北東―西南西走向の長さ約 31 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】島前西方沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

島前西方沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

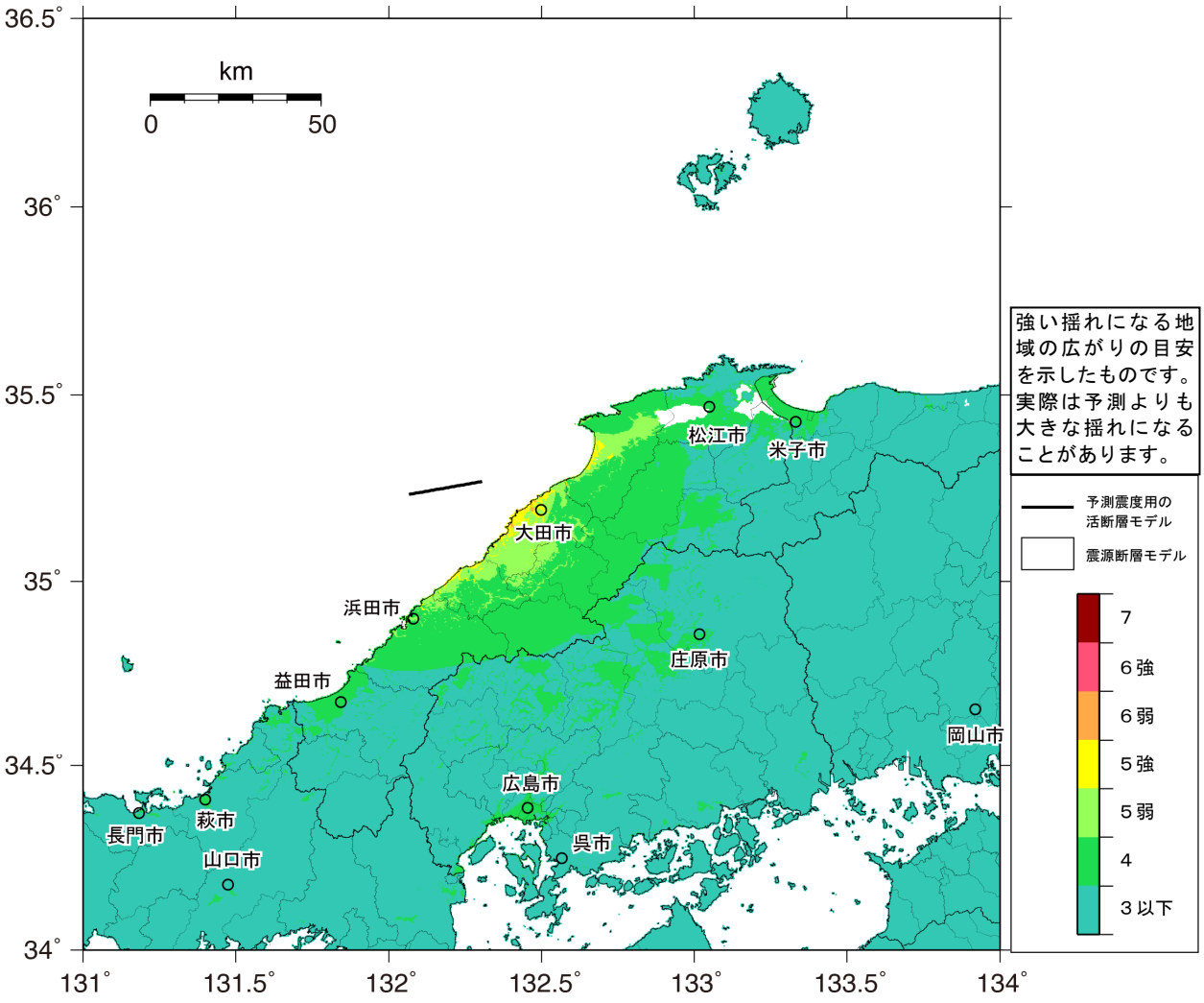
島前西方沖断層は、隠岐諸島島前の西方沖に分布する東北東－西南西走向の長さ約 28 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】江津沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

江津沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

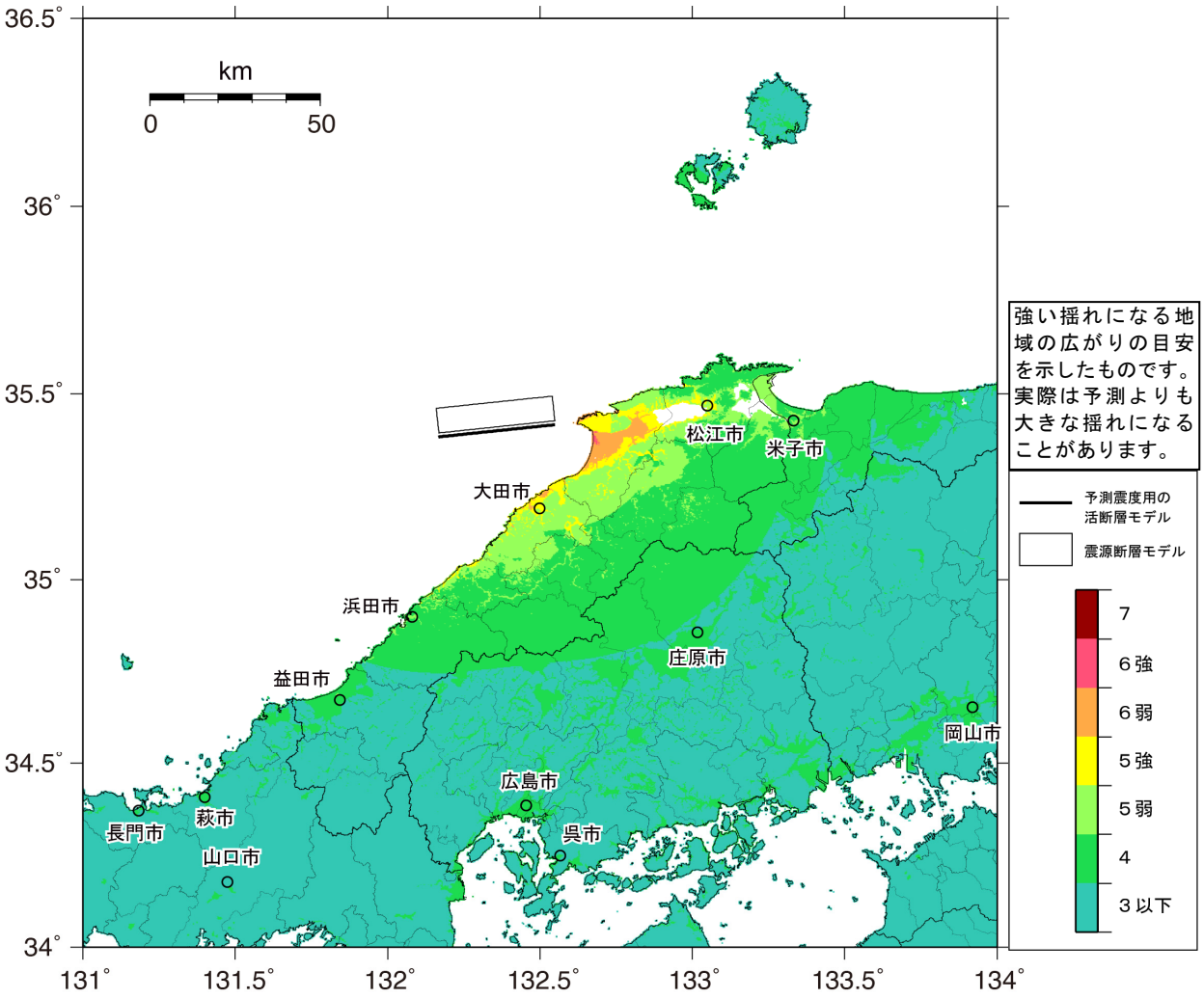
江津沖断層は、島根県江津市の北方約 25 km に発達する、ほぼ東西走向で長さ約 22 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

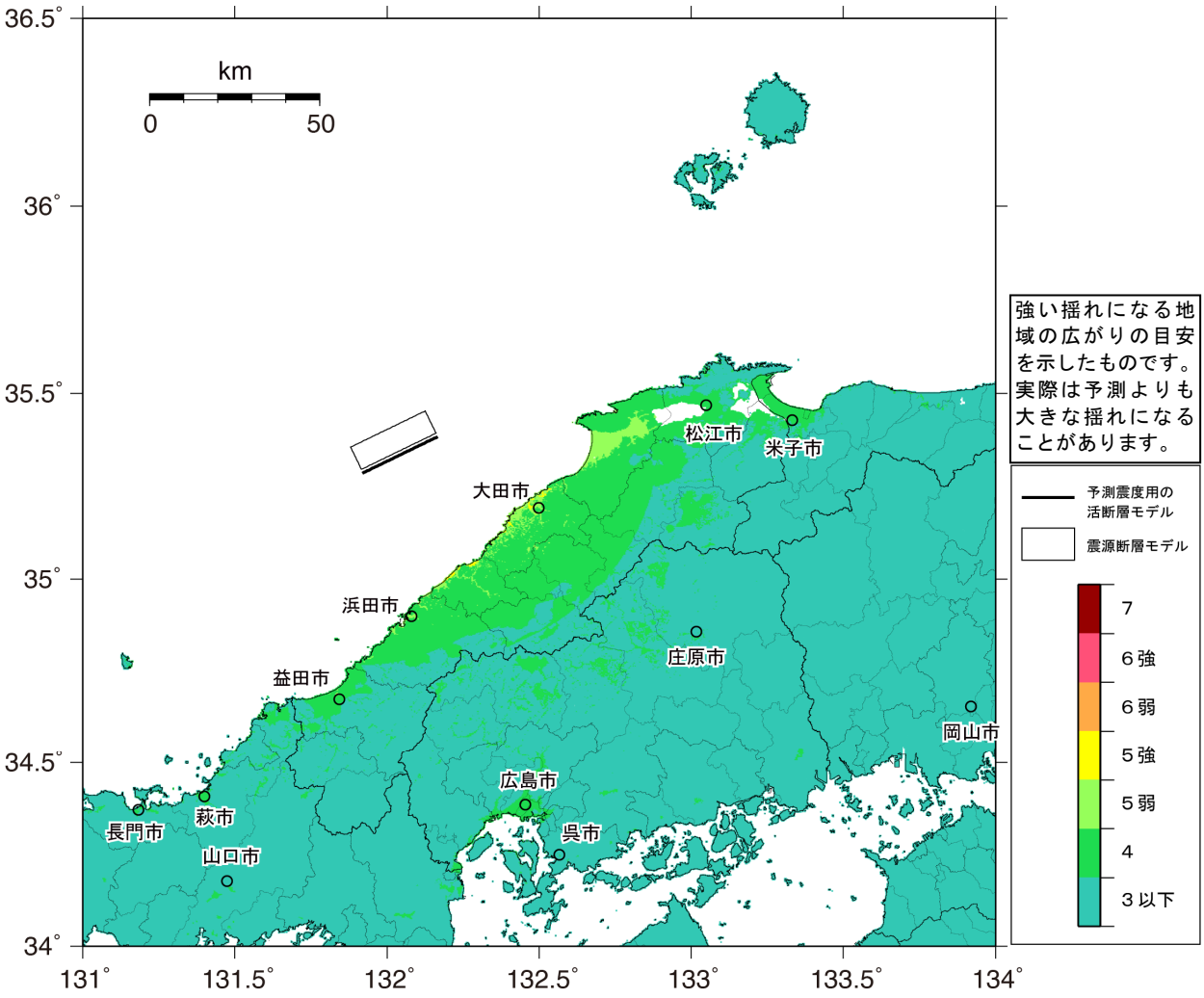
【参考】日御碕沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間



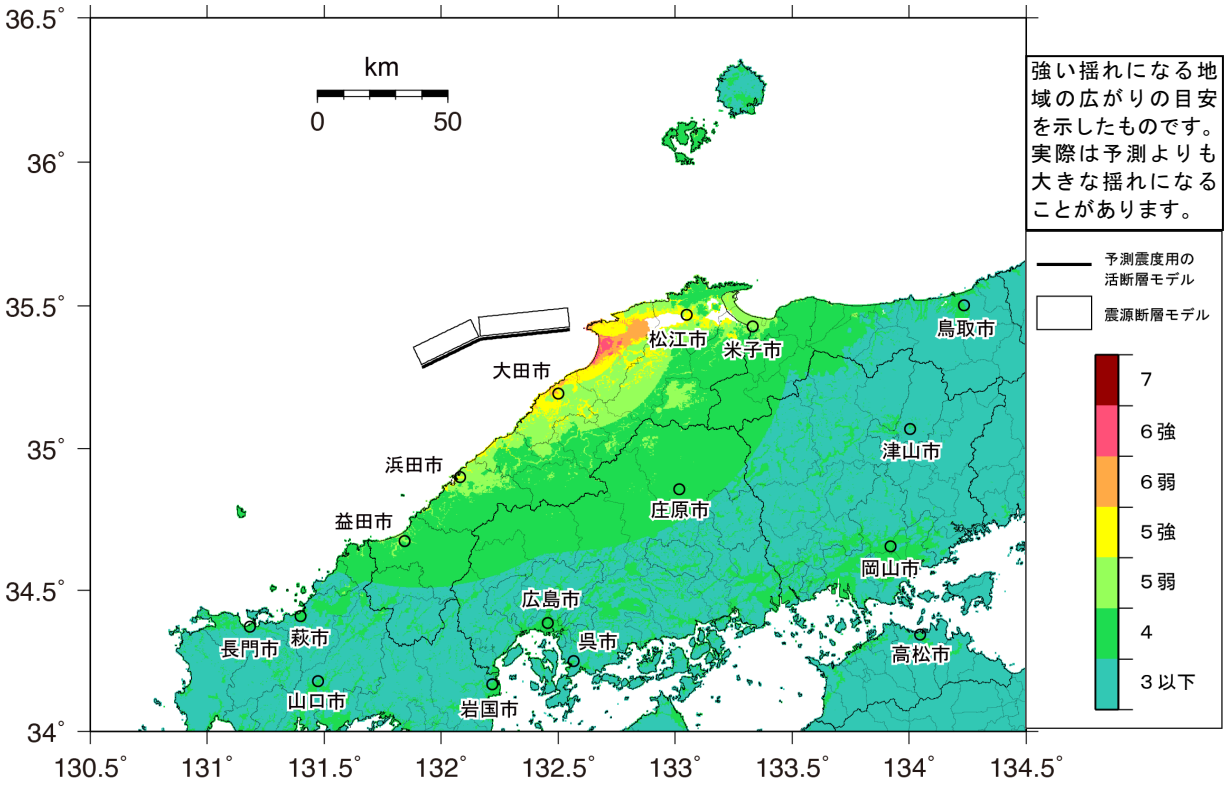
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

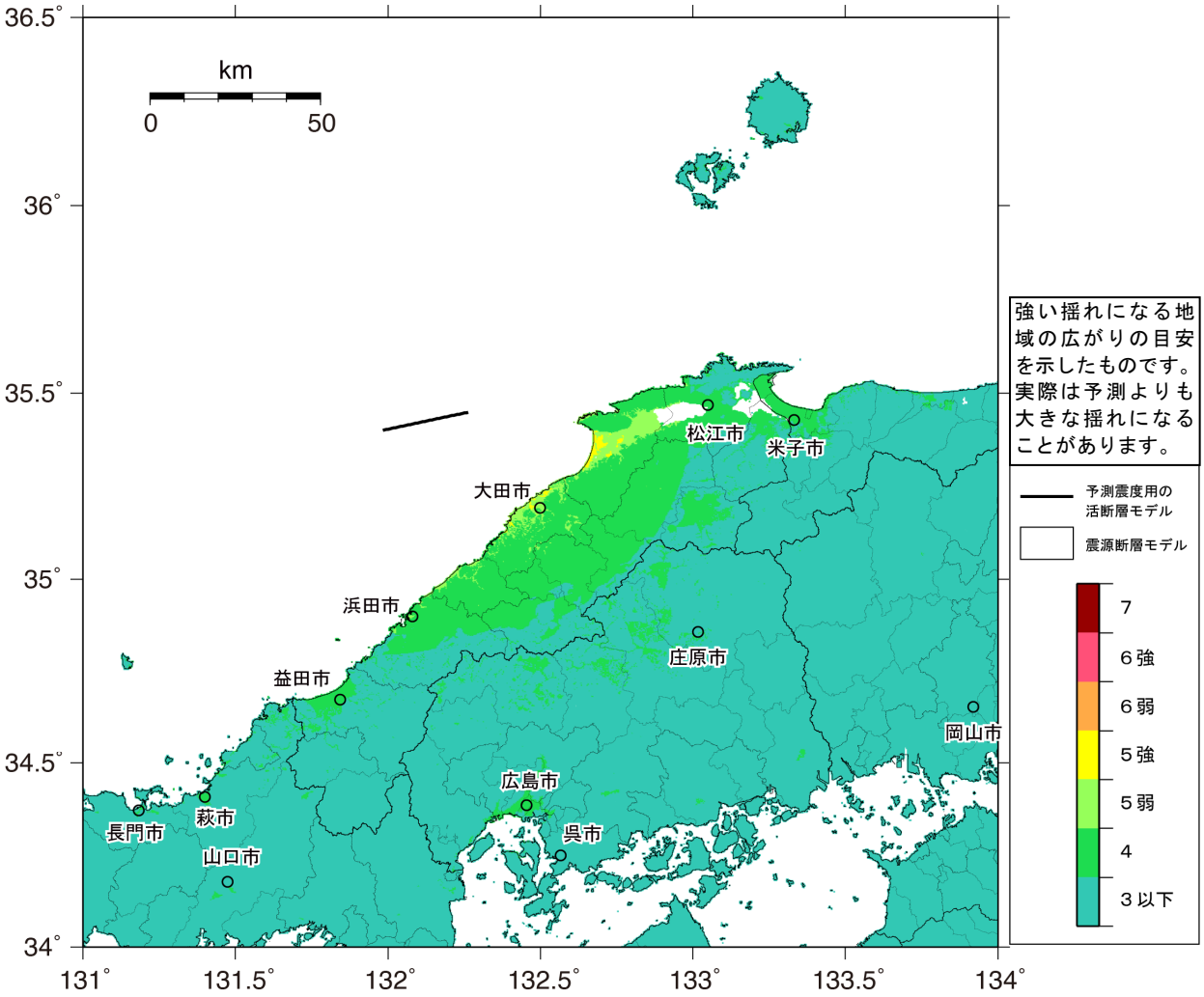
日御碕沖断層帯は、島根半島西端の日御碕西方沖に発達する東西から東北東―西南西走向の、長さ約59 km の右横ずれ断層です。断層トレースが東側ではほぼ東西走向、西側では東北東―西南西走向に変化することから、東部区間と西部区間に区分されています。

東部区間は長さ約 35 km で、東部区間全体が一度に活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。西部区間は長さ約 25 km で、西部区間全体が一度に活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.8 程度の地震が発生する可能性があります。12－14ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

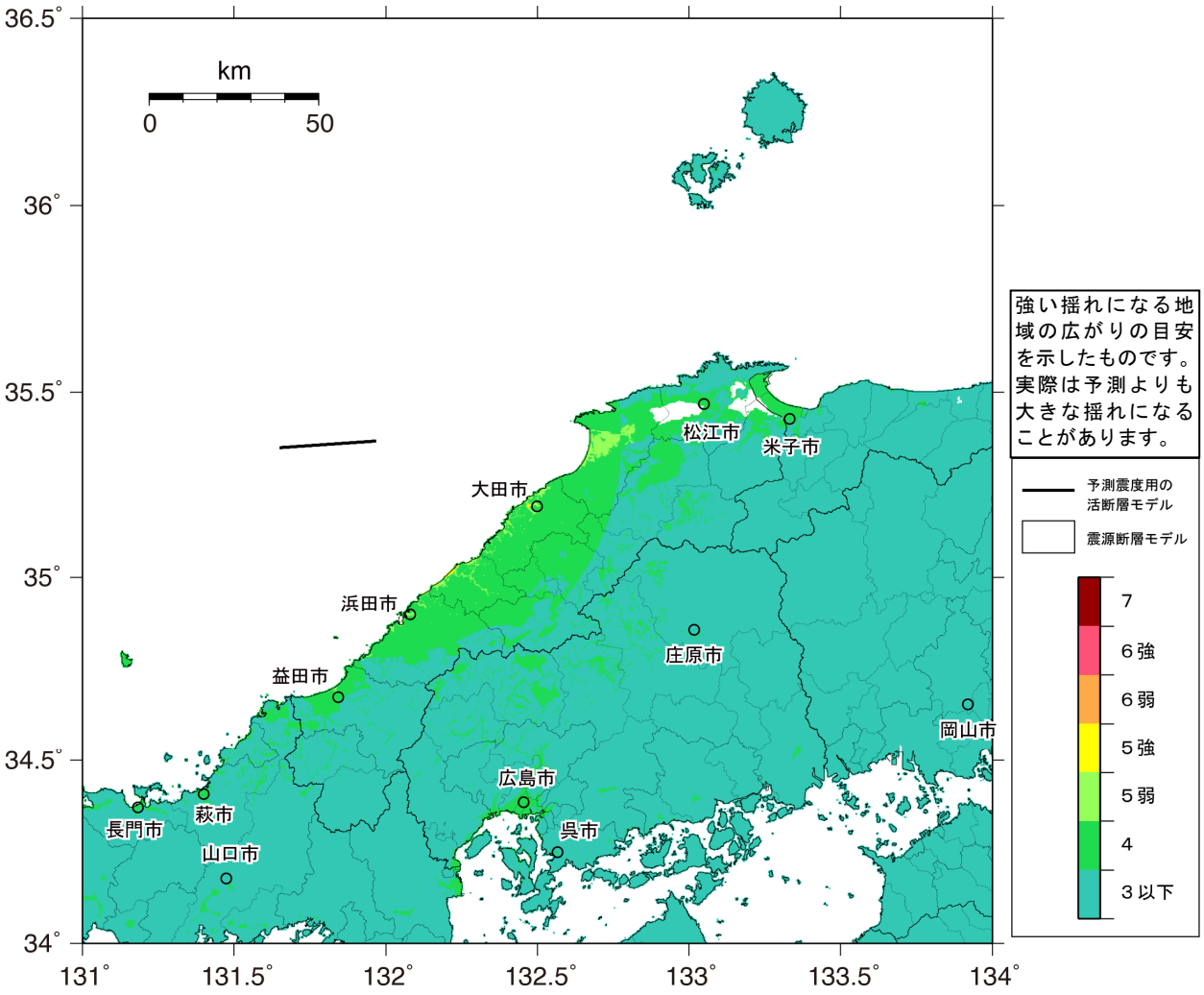
【参考】根滝グリ北方断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間



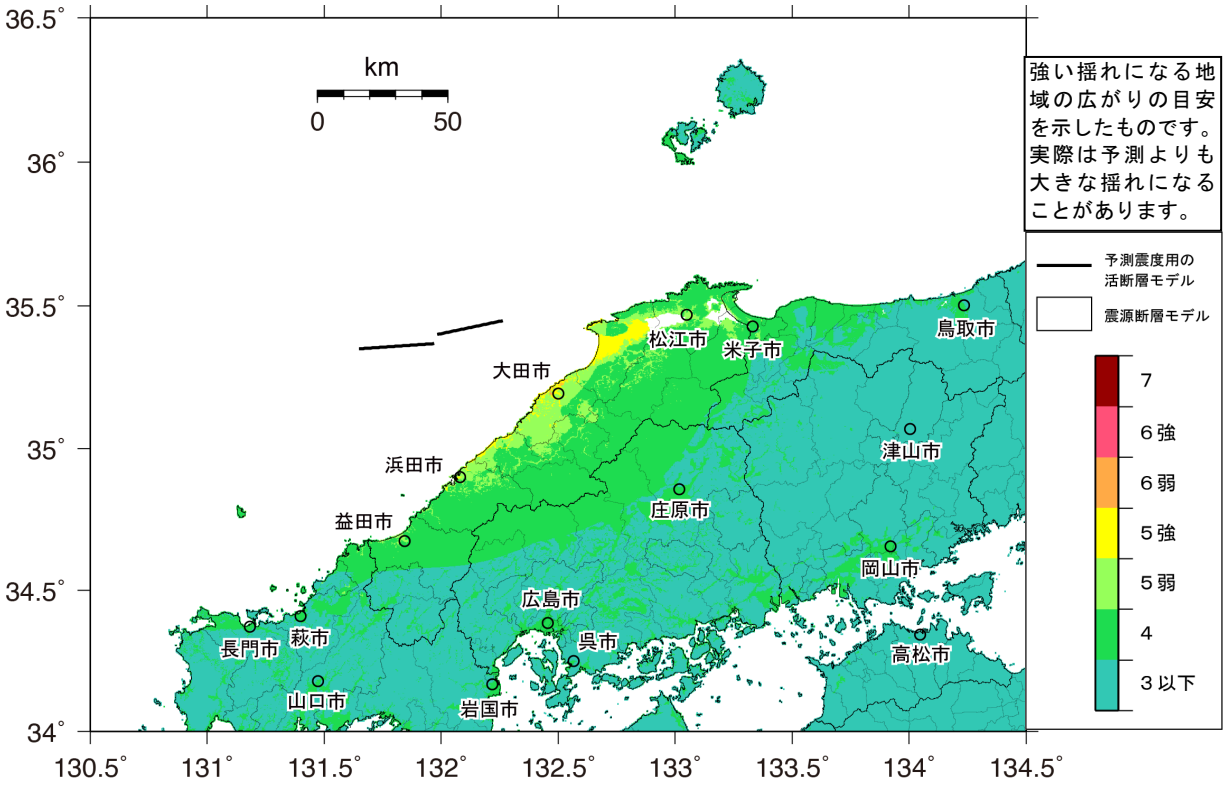
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

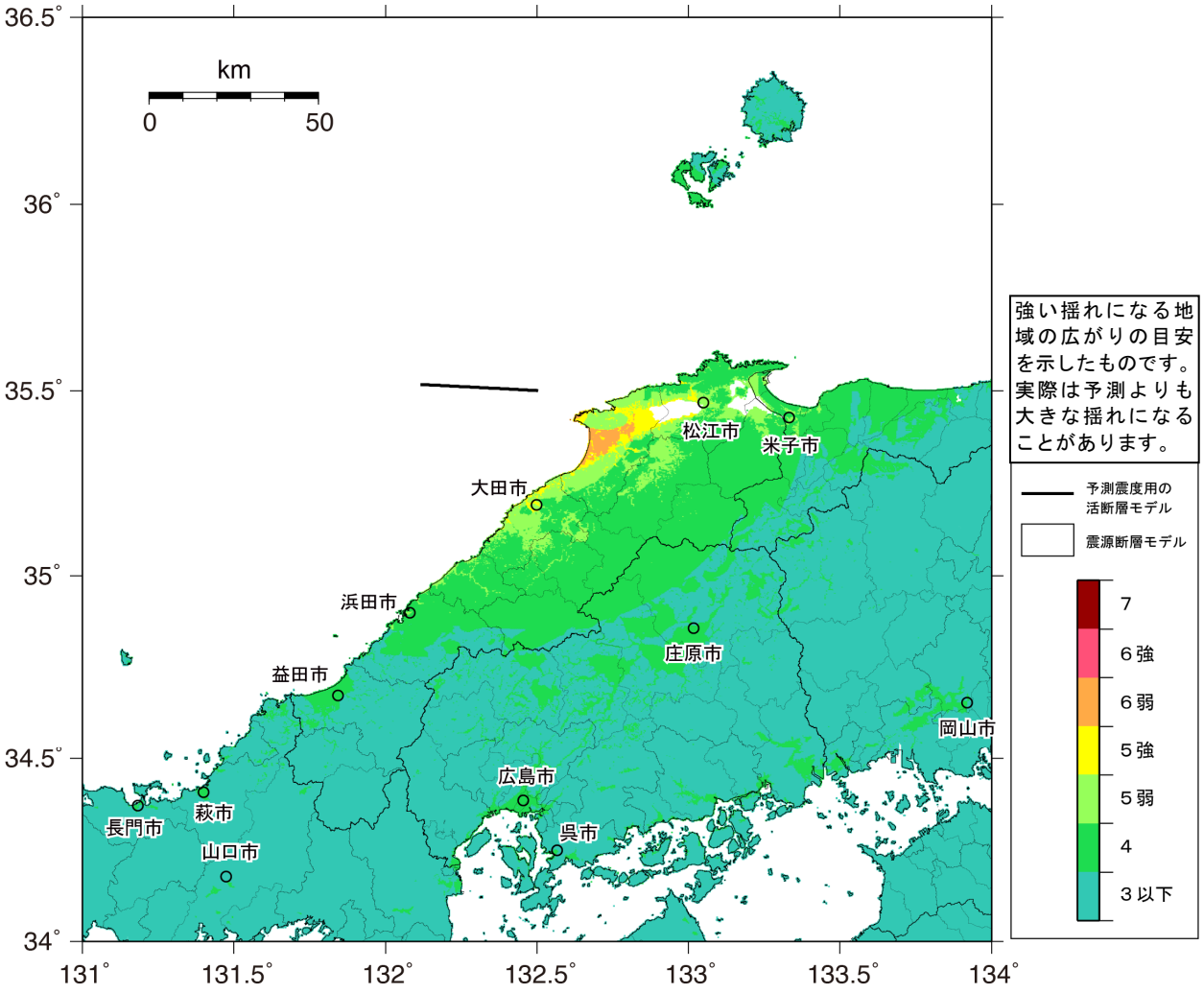
根滝グリ北方断層帯は、日御碕沖断層帯の北側 10 km に分布する東西から東北東―西南西走向の右横ずれ断層で、長さは約 57 km です。ほぼ中間部で断層トレースが左に約 2 km ステップしており、東部区間と西部区間に区分されています。

東部区間は長さ約 26 km で、東部区間全体が一度に活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。西部区間は長さ約 29 km で、西部区間全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.8 程度の地震が発生する可能性があります。15－17 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

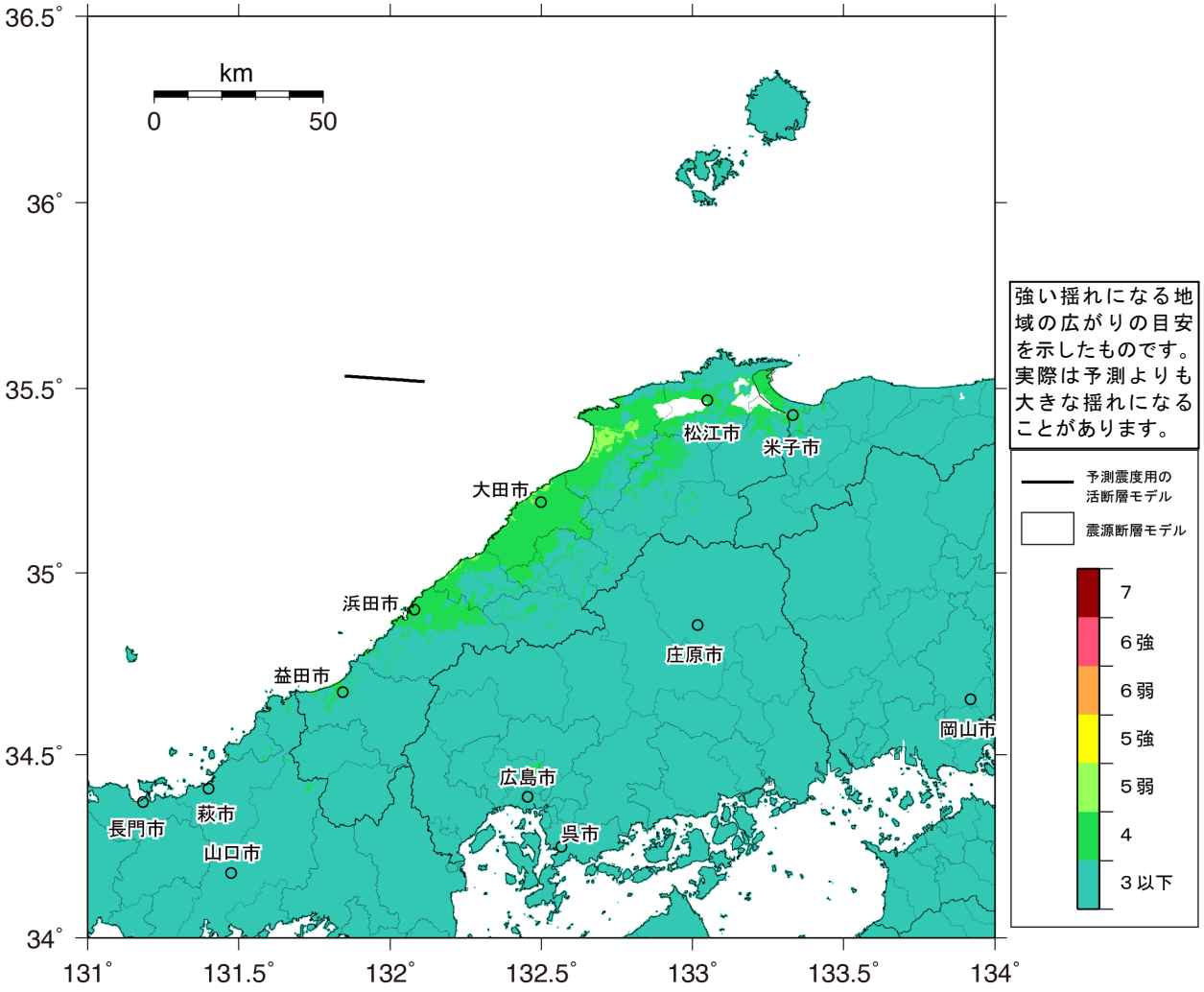
【参考】十六島鼻西方沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間



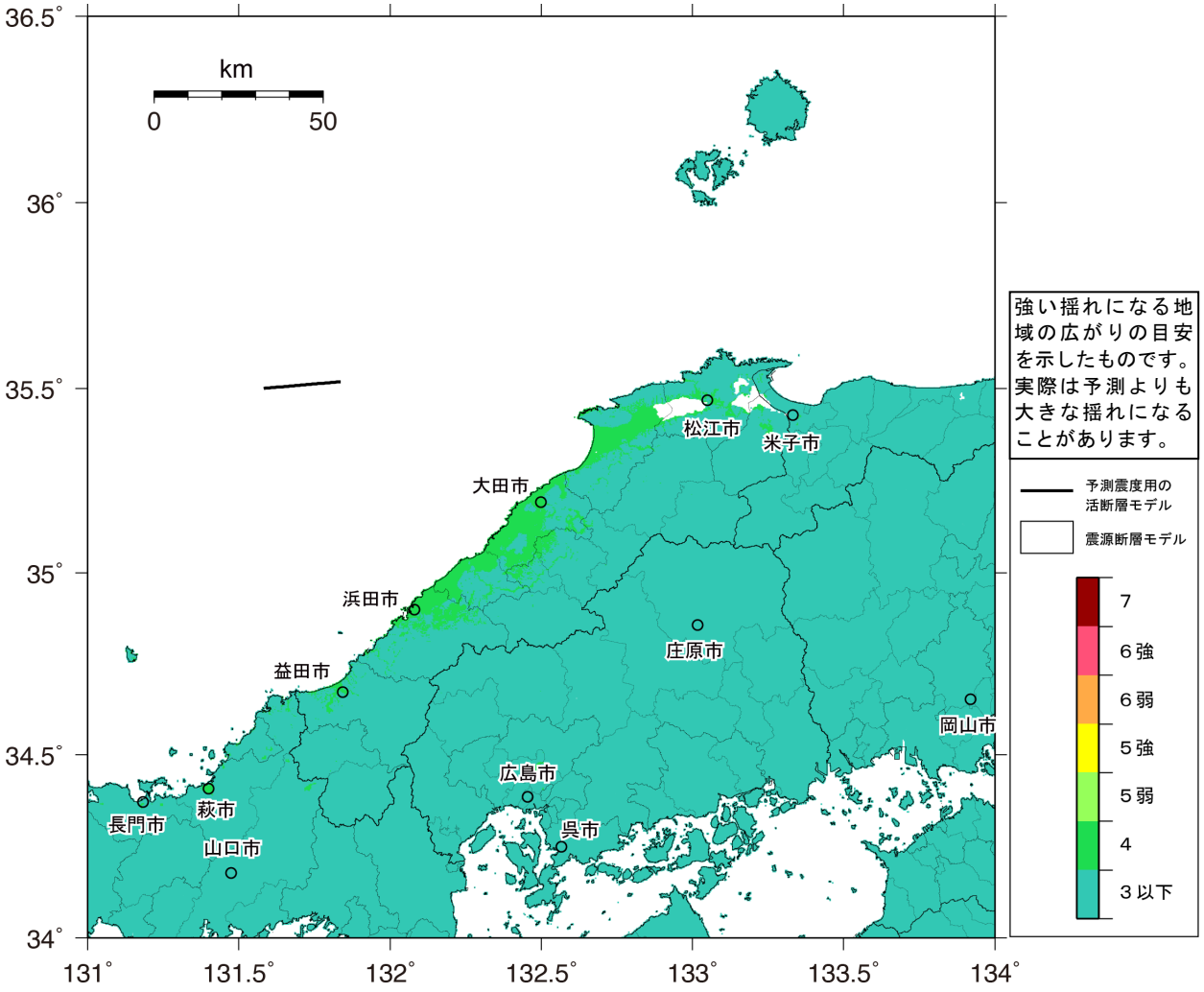
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

中部区間



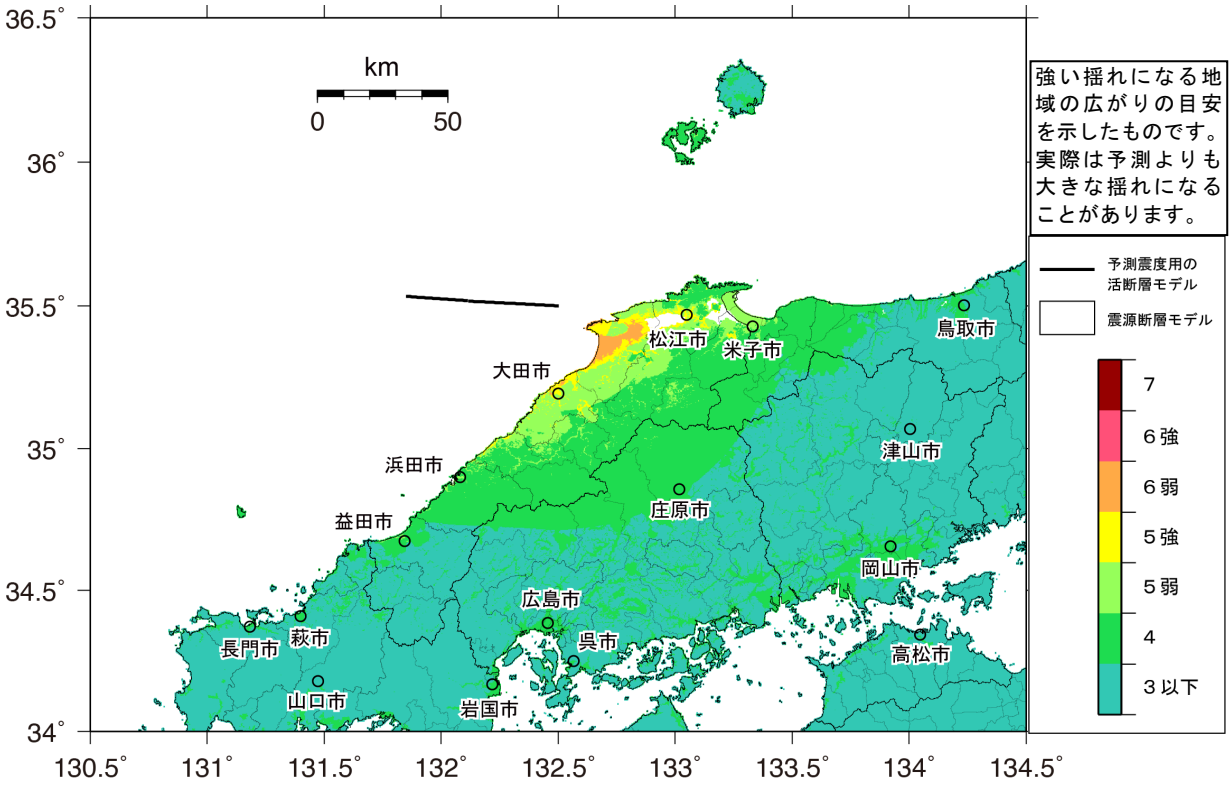
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間



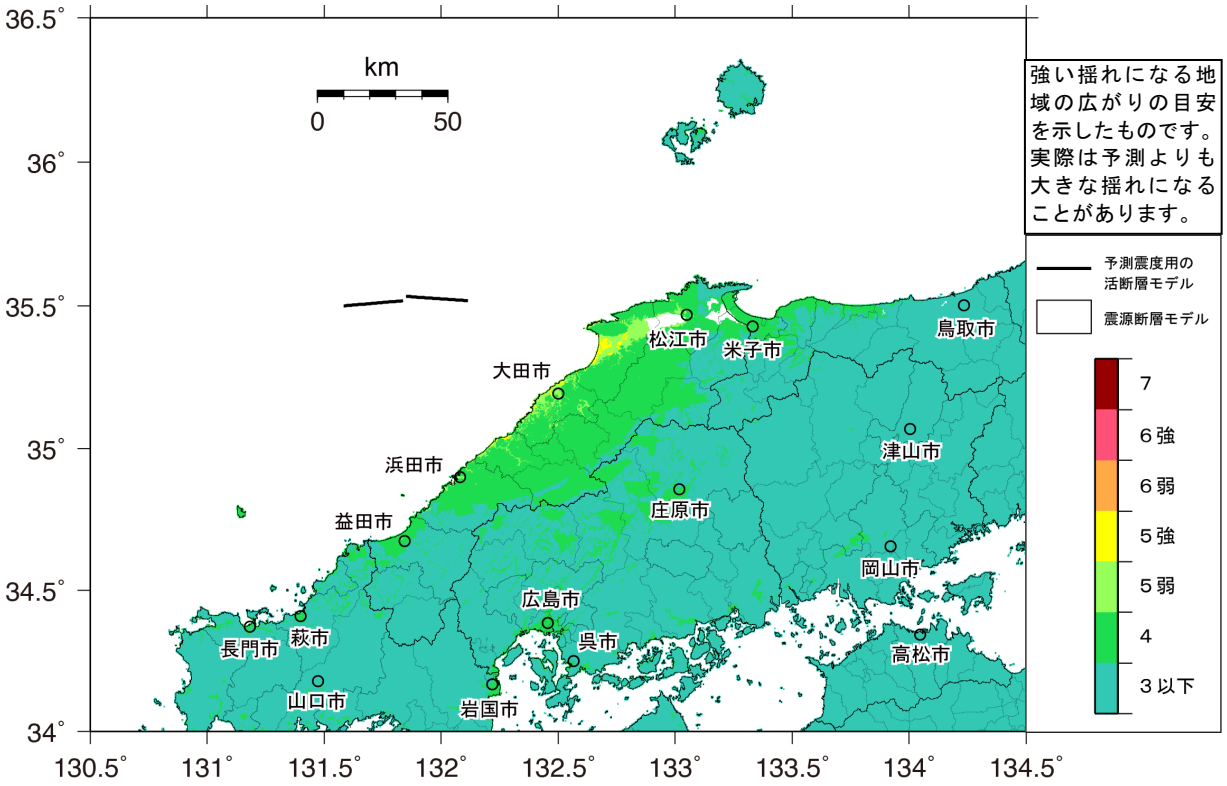
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・中部区間）



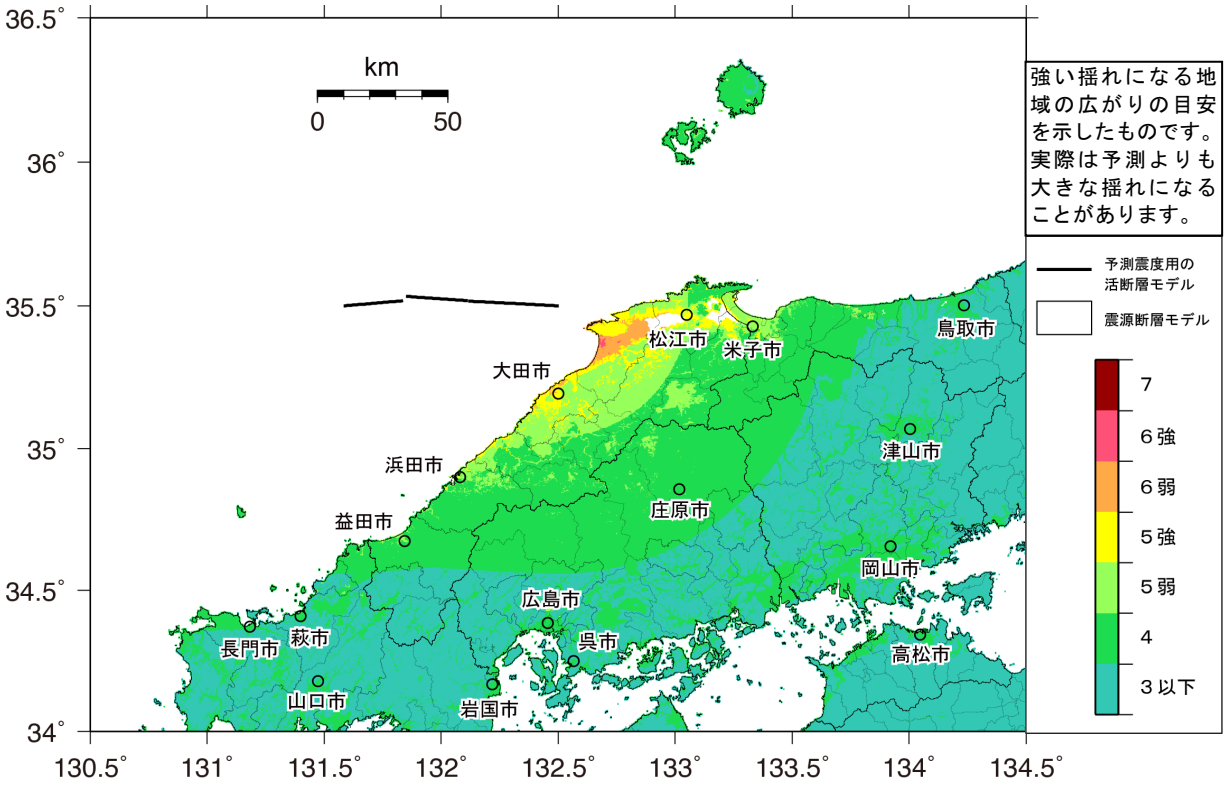
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（中部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・中部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

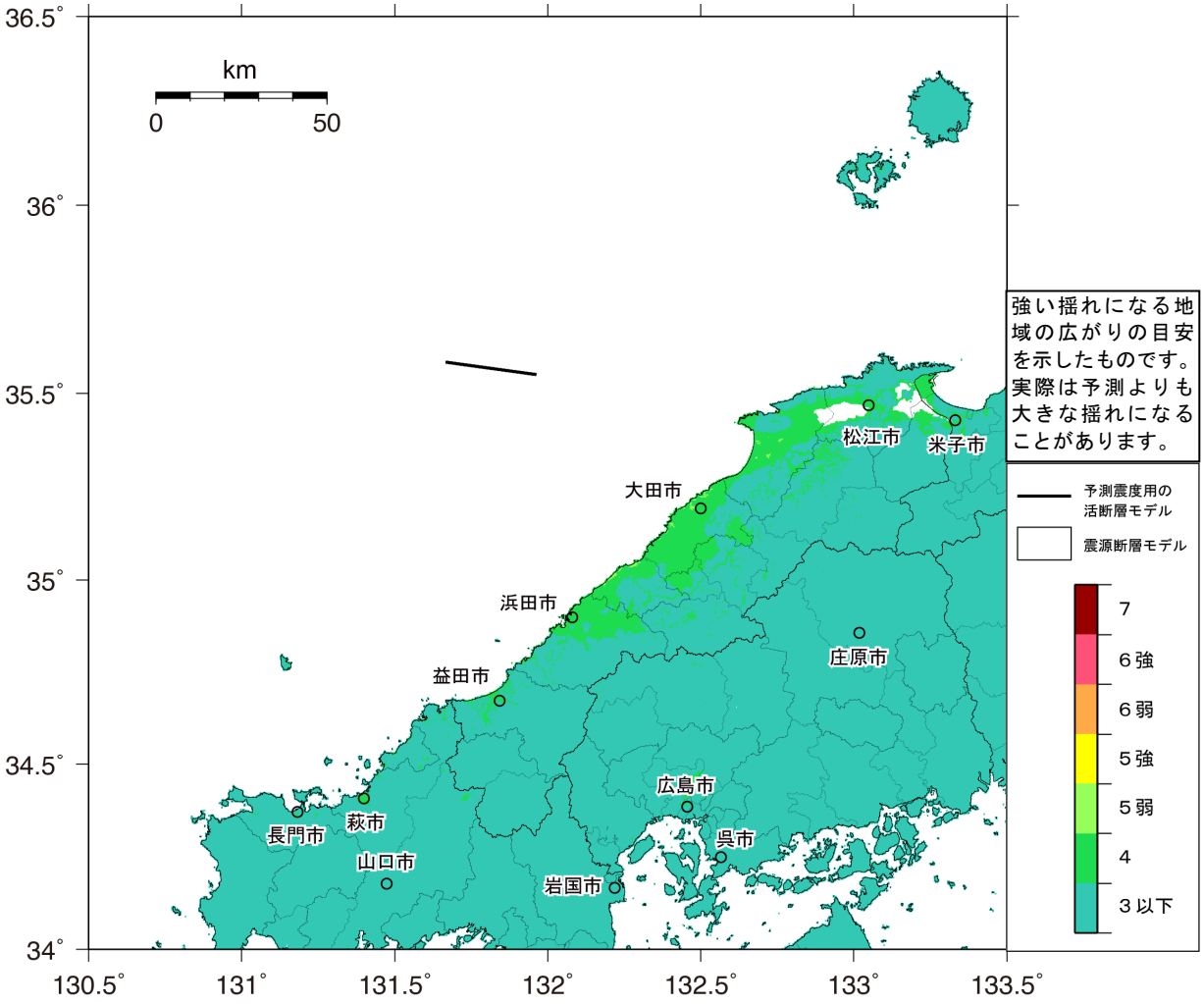
十六島鼻西方沖断層帯は、日御碕の西北西沖約 15 km 付近を東端とし、西方に約 83 km 連続する概ね東西走向の右横ずれ断層です。断層に伴う地質構造から、東部区間、中部区間、西部区間の3区間に区分されています。

東部区間は長さ約 35 km で、東部区間全体が一度に活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。中部区間は長さ約 24 km で、中部区間全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。西部区間は長さ約 23 km で、西部区間全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.9－8.0 程度の地震が発生する可能性があります。18－23 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】石見沖南断層の地震による予測震度分布（簡便法）

石見沖南断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

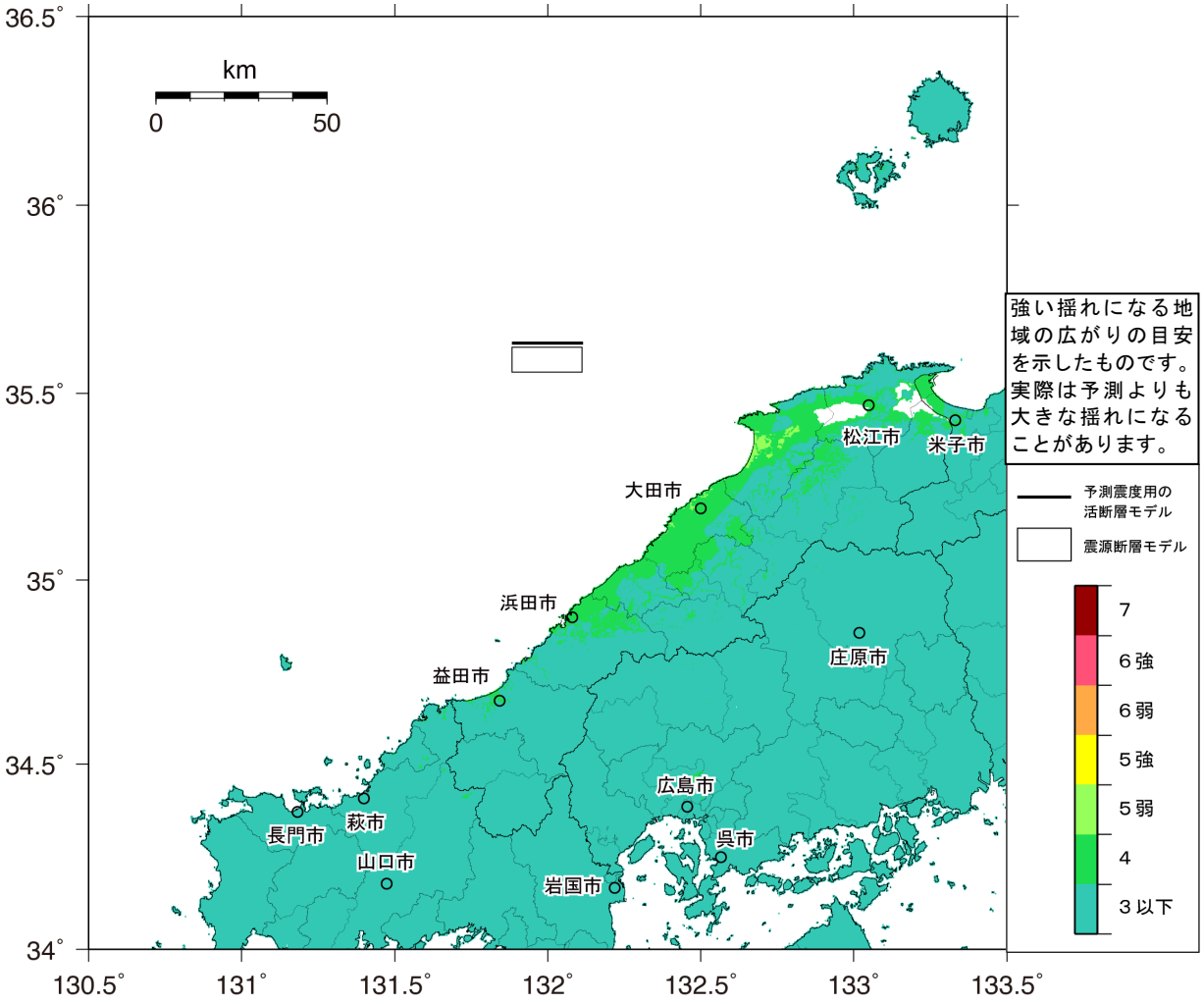
石見沖南断層は、十六島鼻西方沖断層帯西部の北方約 5－10 km に位置するほぼ東西走向の長さ約 27 km の右横ずれ断層です。

本断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

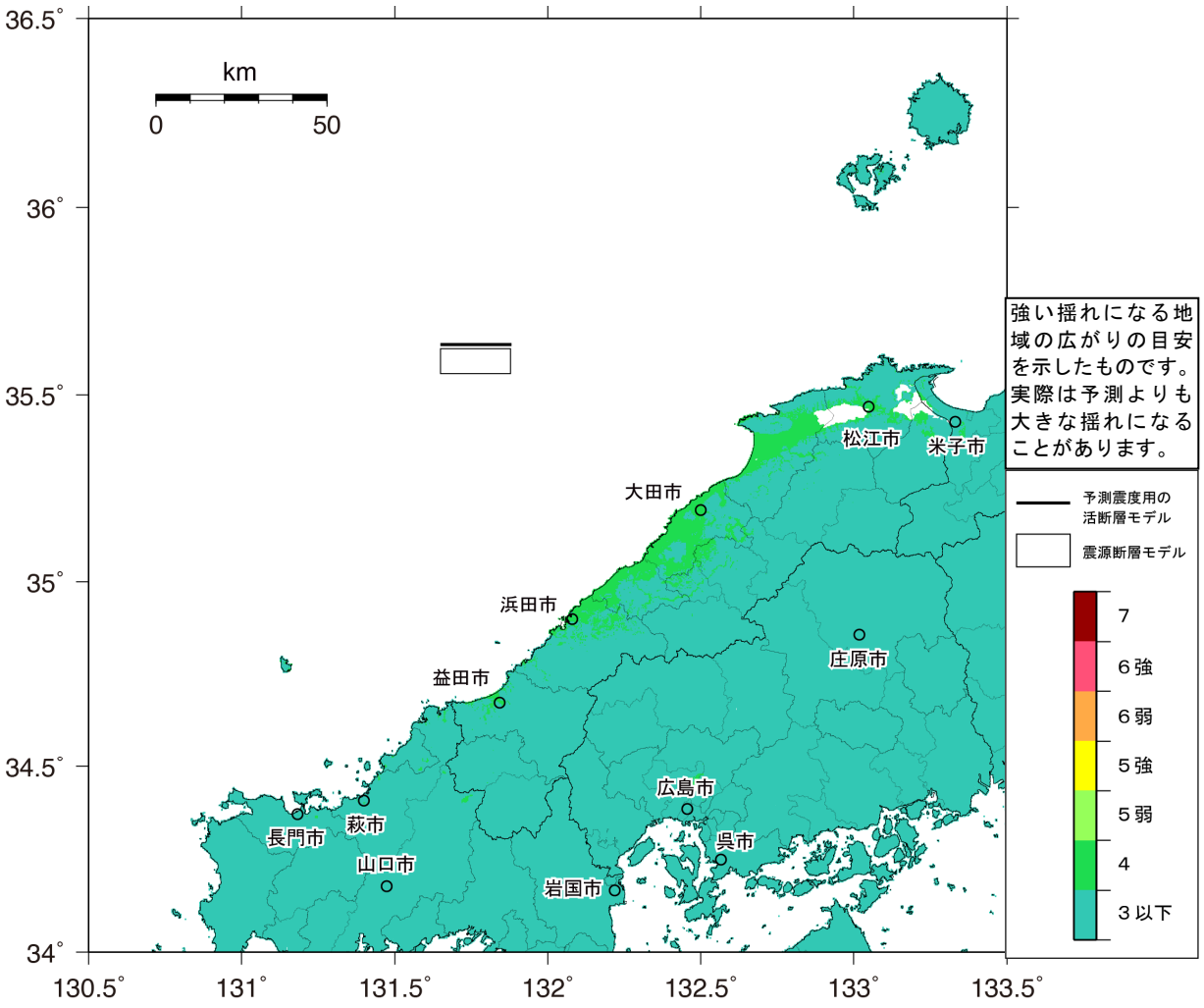
【参考】石見沖中断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

東部区間



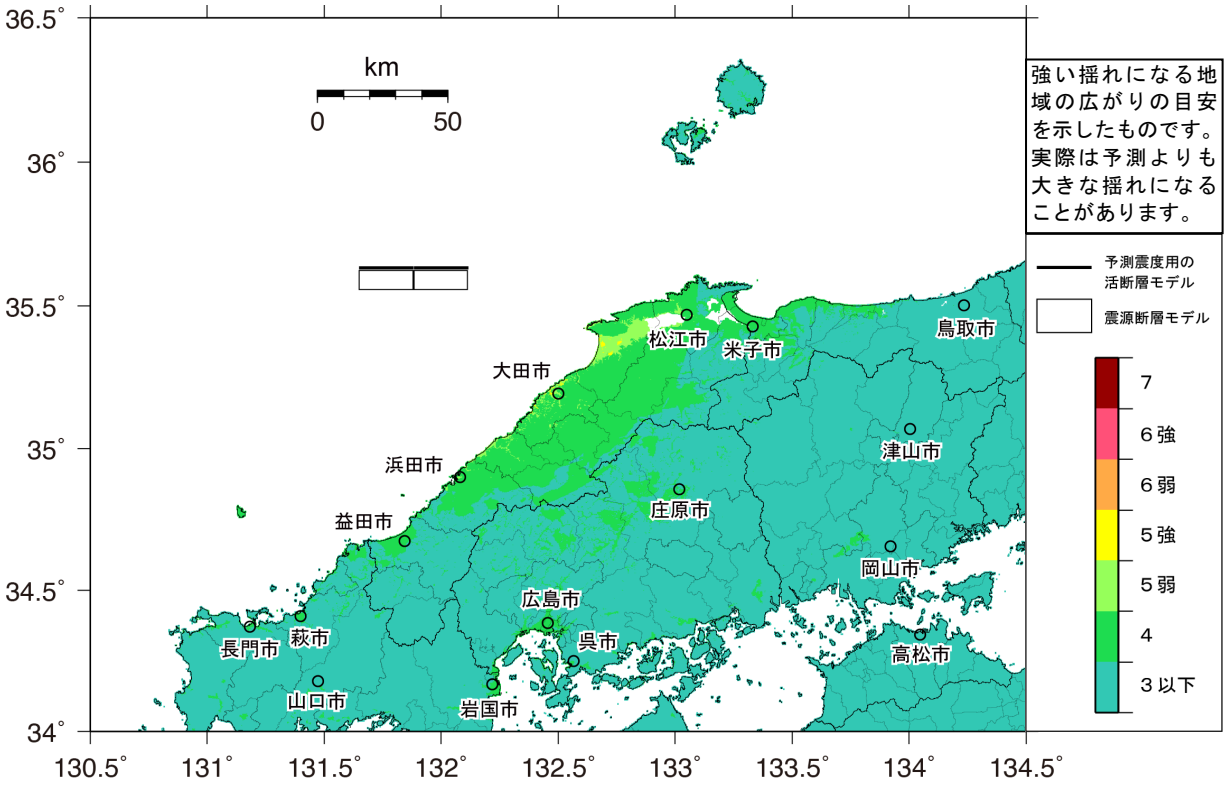
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（東部区間・西部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

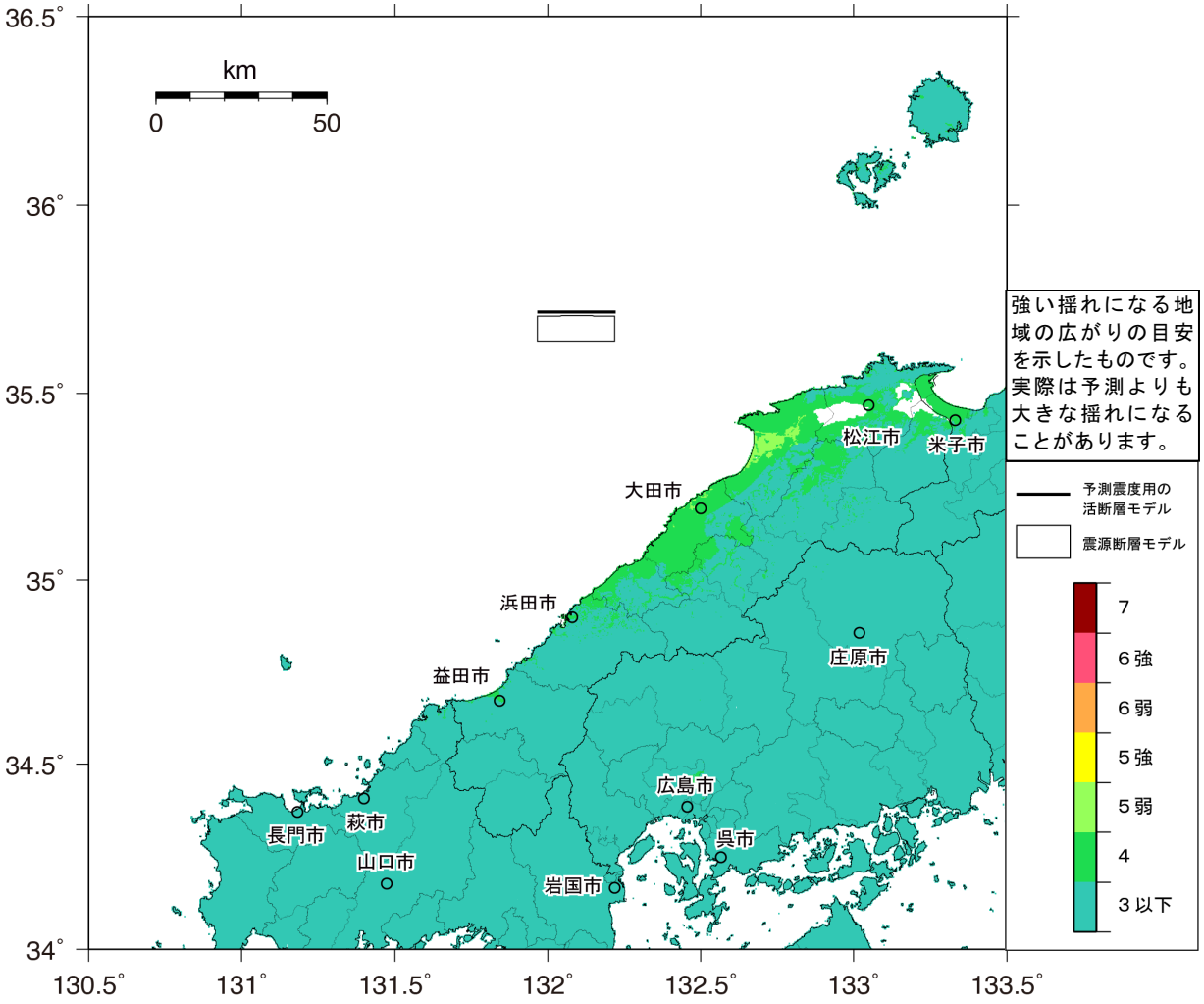
石見沖中断層帯は、十六島鼻西方沖断層帯中部から西部の北方沖約 10－15 km に位置するほぼ東西走向の長さ約 42 km の右横ずれ断層です。北側へ傾動する斜面上に分布する東部区間と傾動を伴わない西部区間に区分されています。

東部区間及び西部区間いずれも長さ約 21 km で、この断層が活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。25－27 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】石見沖北断層の地震による予測震度分布（簡便法）

石見沖北断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

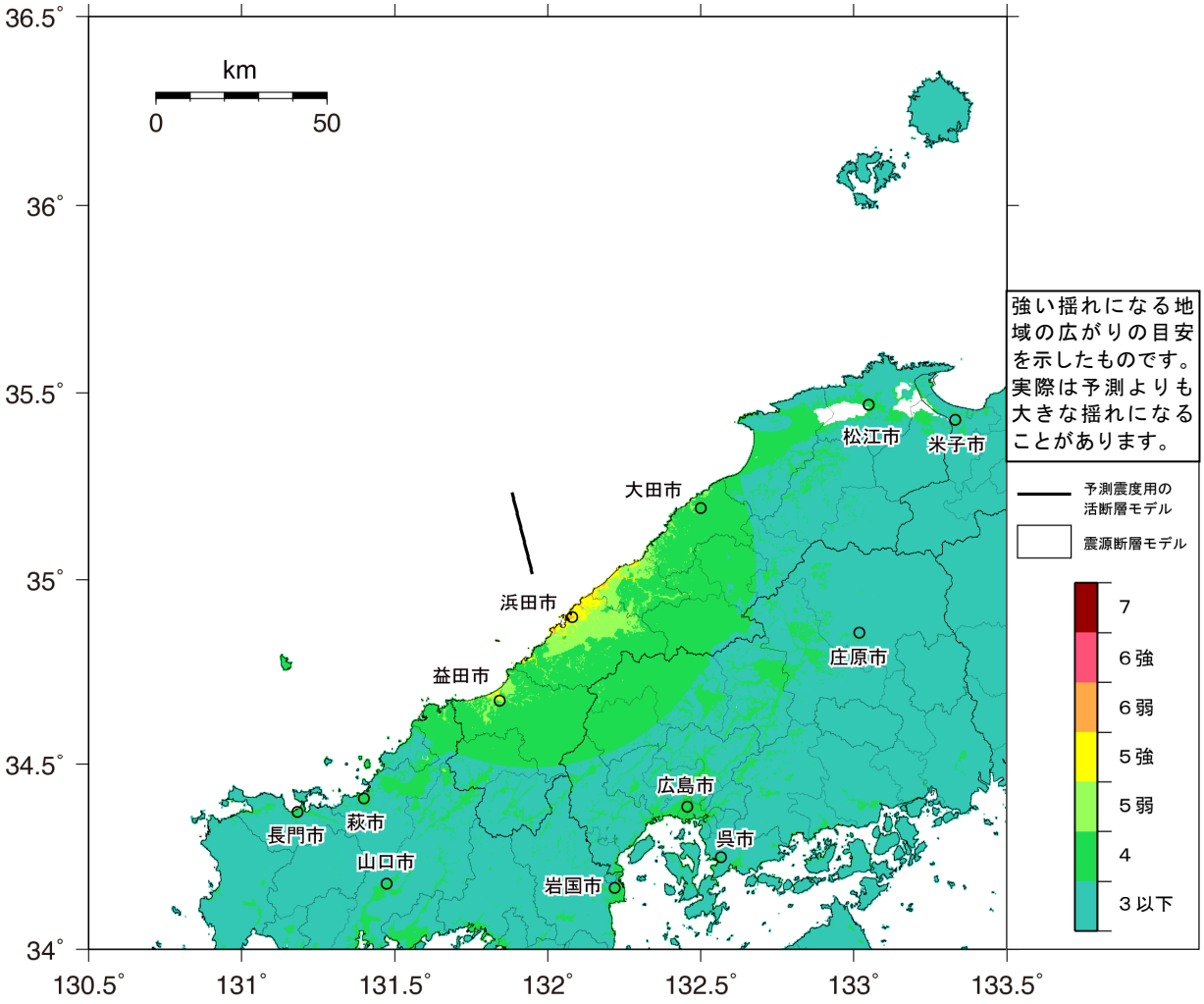
石見沖北断層は、十六島鼻西方沖断層帯中部の北方約 20 km に位置するほぼ東西走向の長さ約 23 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】浜田沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

浜田沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

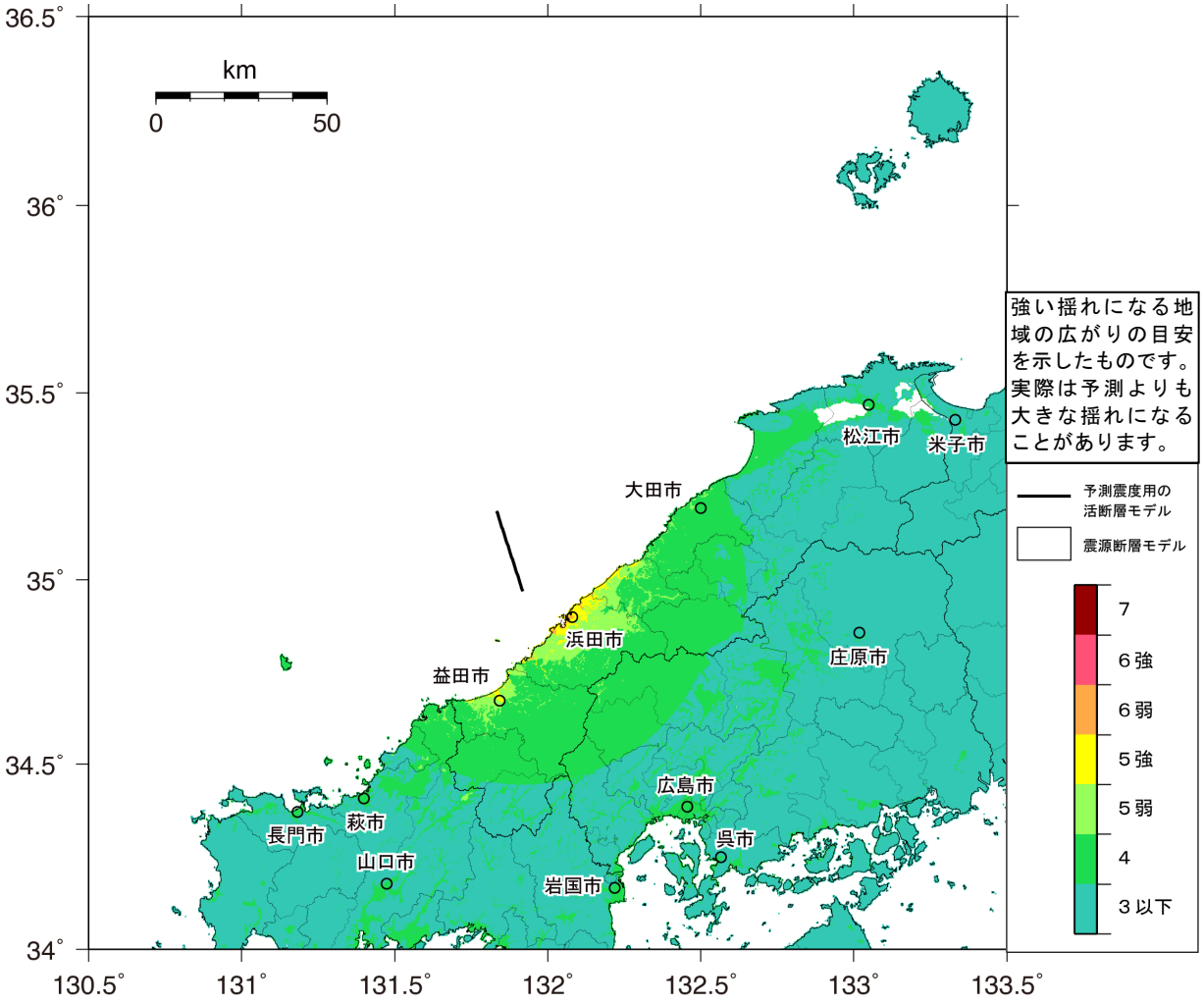
浜田沖断層は、島根県浜田市の沖合に分布する北北西－南南東走向の長さ約 25 km の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】三隅沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

三隅沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

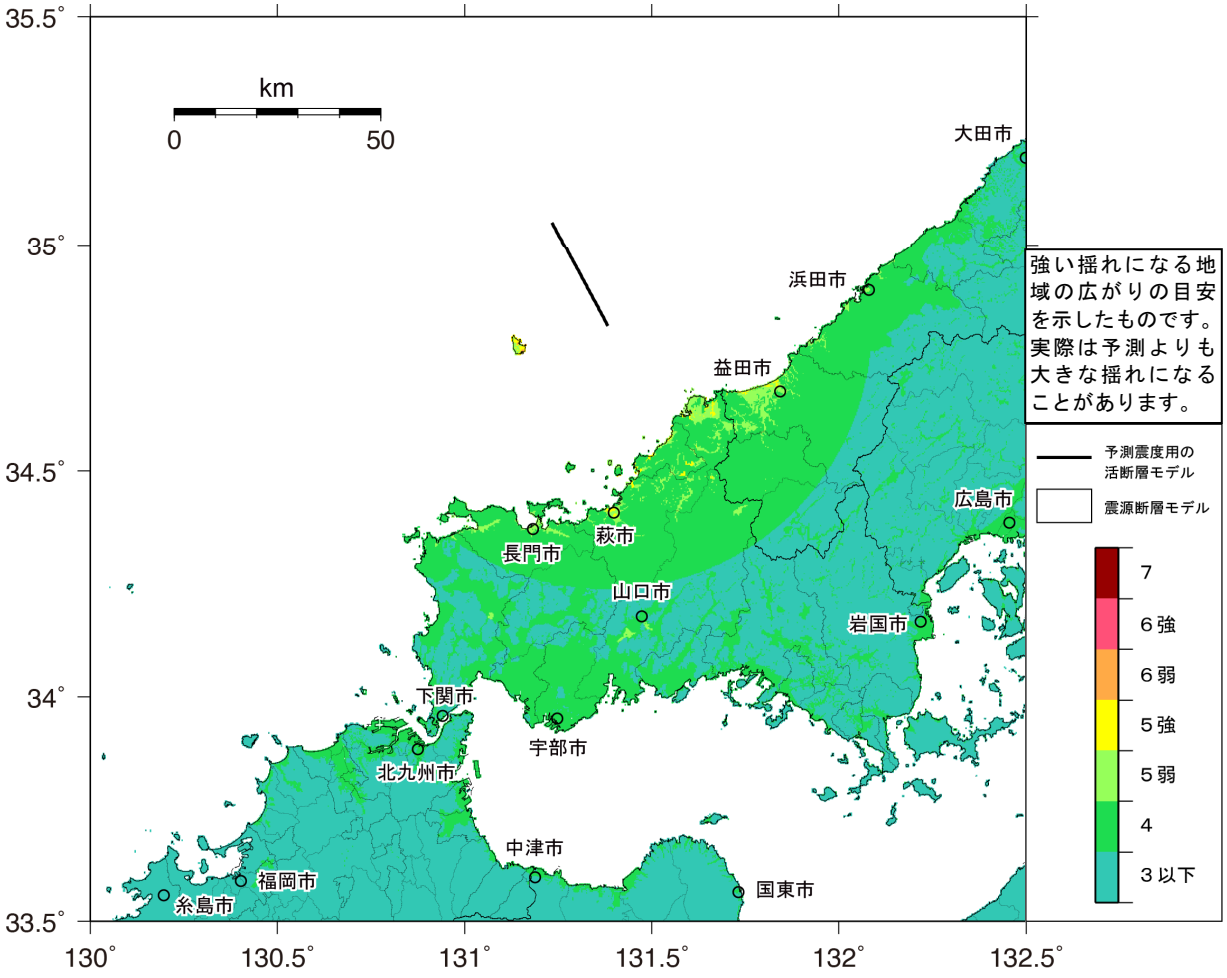
三隅沖断層は、浜田沖断層の西方約 5 km に分布する北北西－南南東走向の長さ約 25 km の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

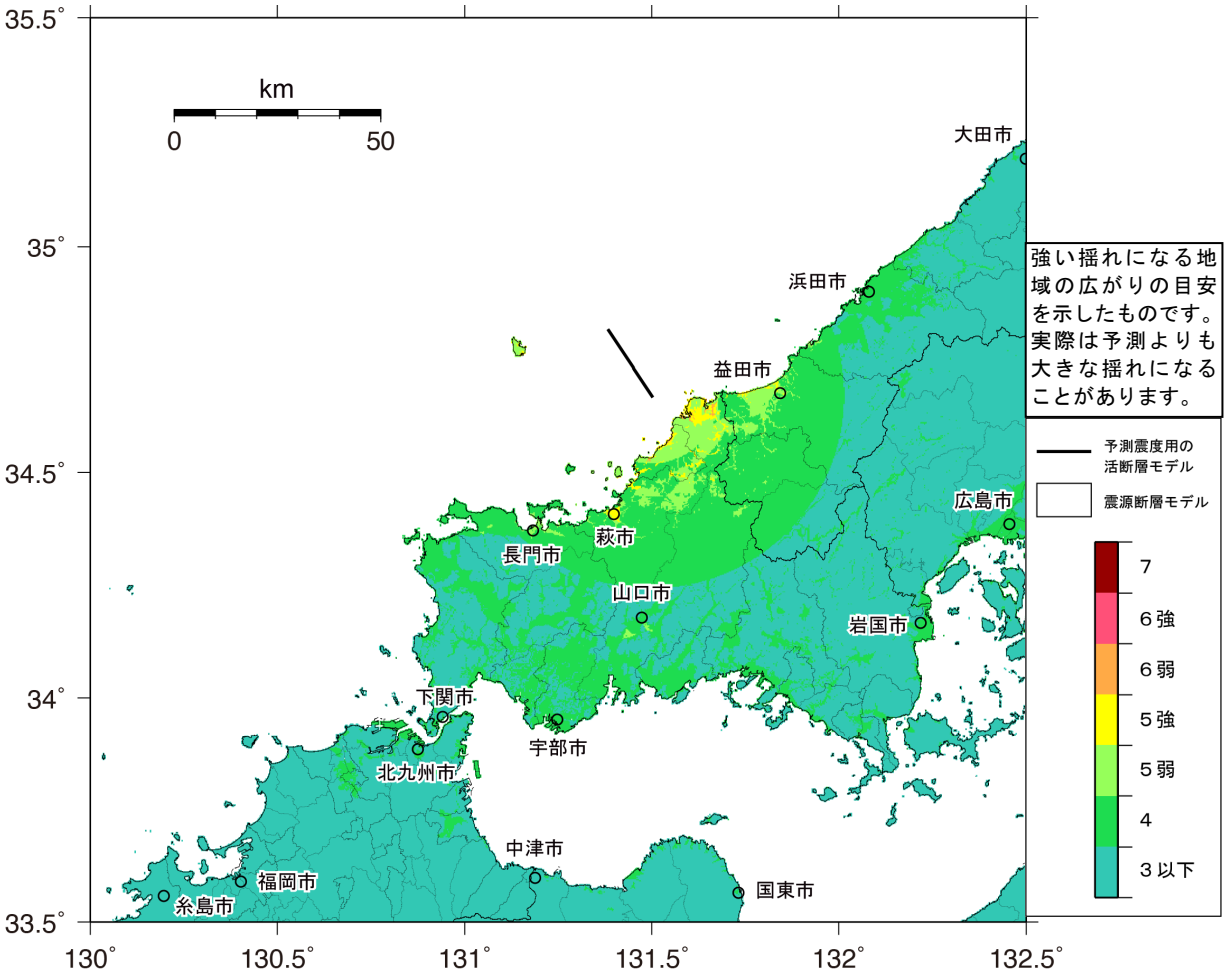
【参考】須佐沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北部区間



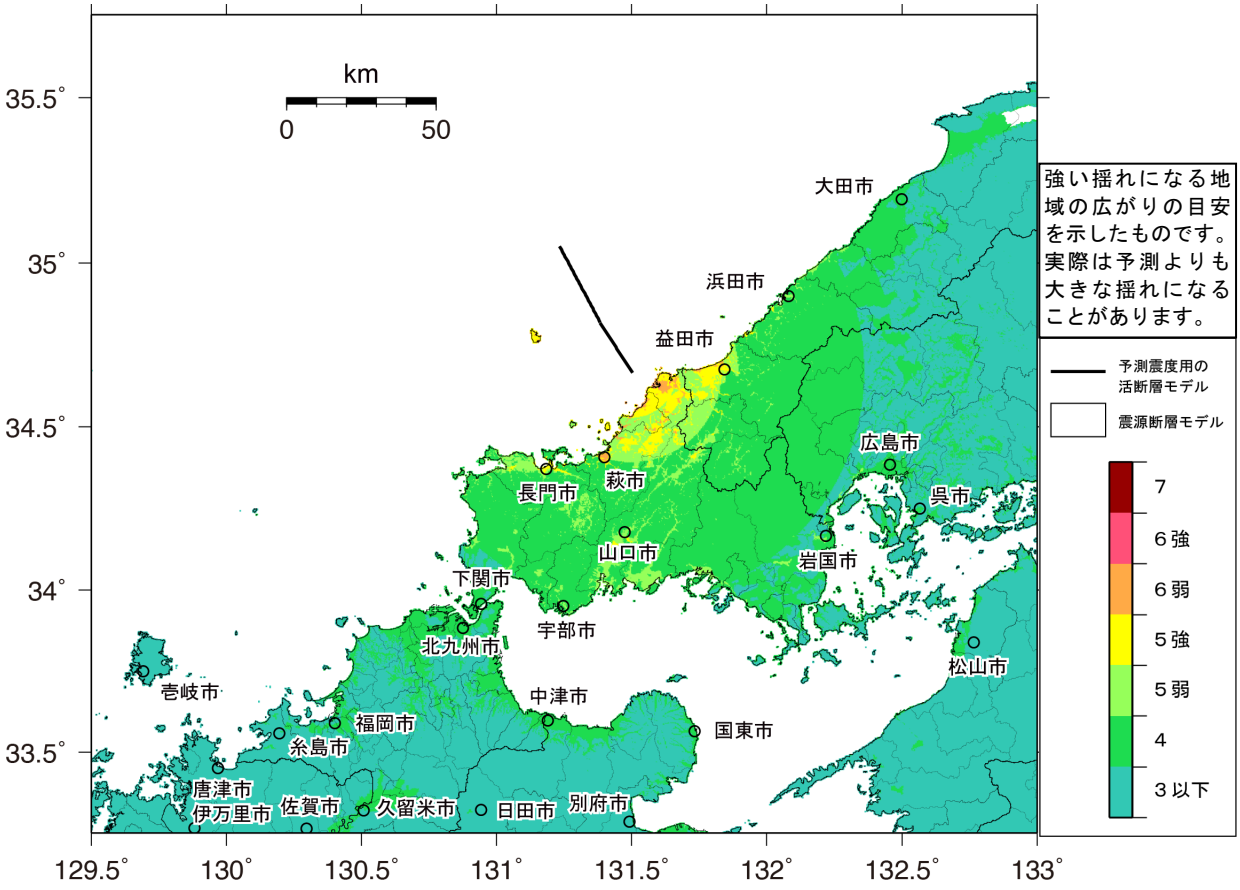
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

南部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

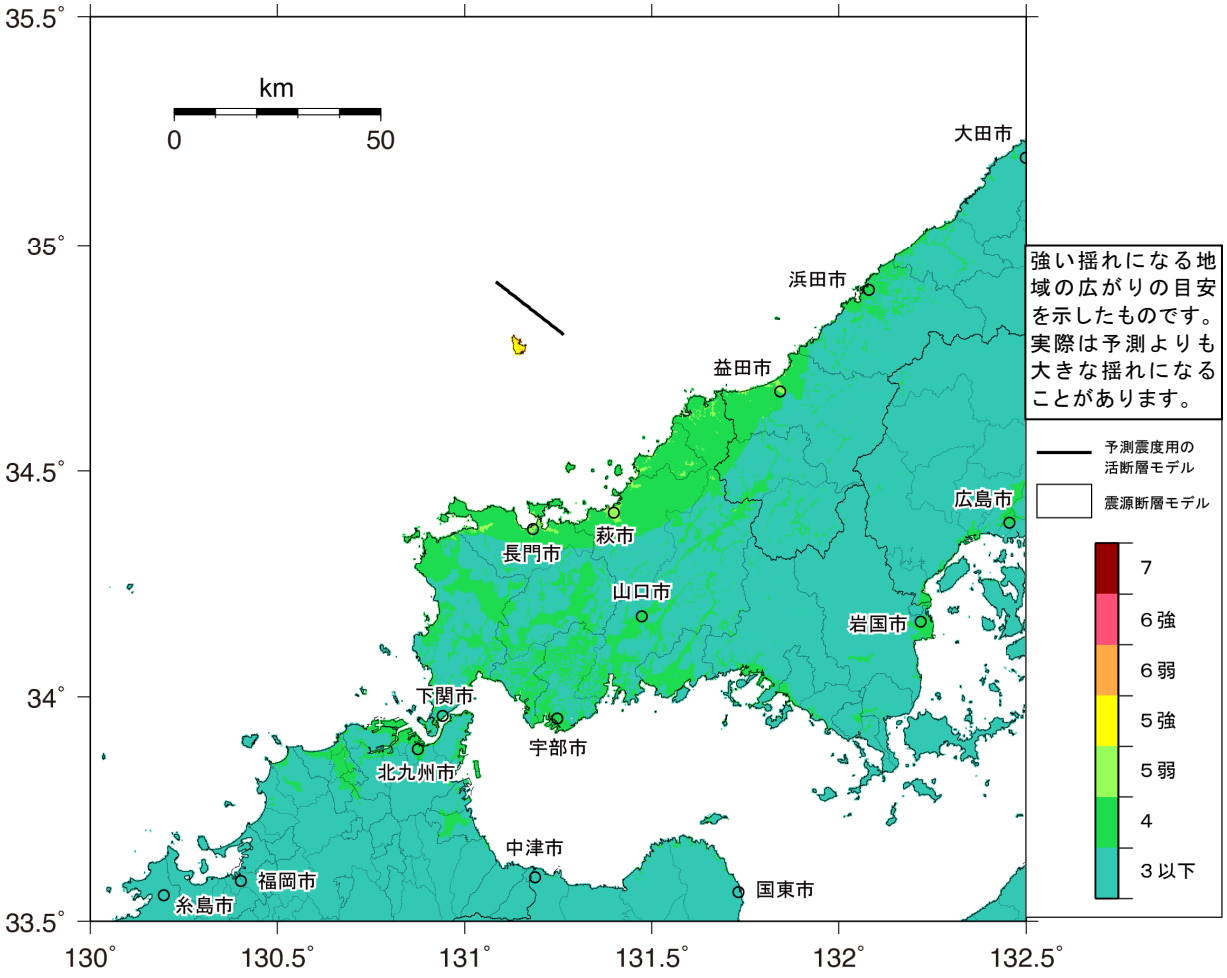
須佐沖断層帯は、見島の東方約 20 km に分布する北北西－南南東走向の長さ約 49 km の左横ずれ断層です。構造の違いにより、長さ約 29 km の北部区間と長さ約 20 km の南部区間に区分されています。

北部区間が活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間が活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.7 程度の地震が発生する可能性があります。31－33 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

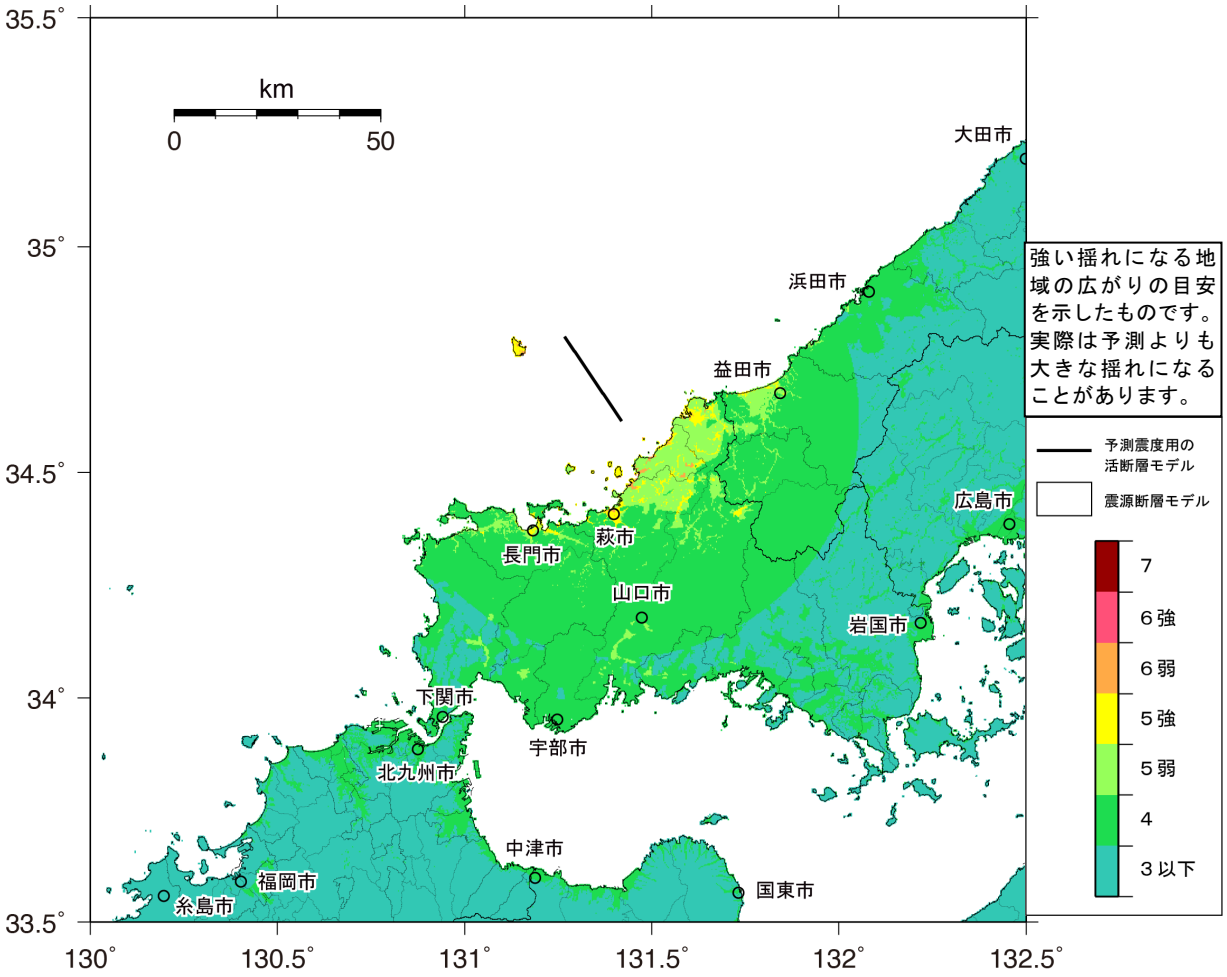
【参考】モドロ岬沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北部区間



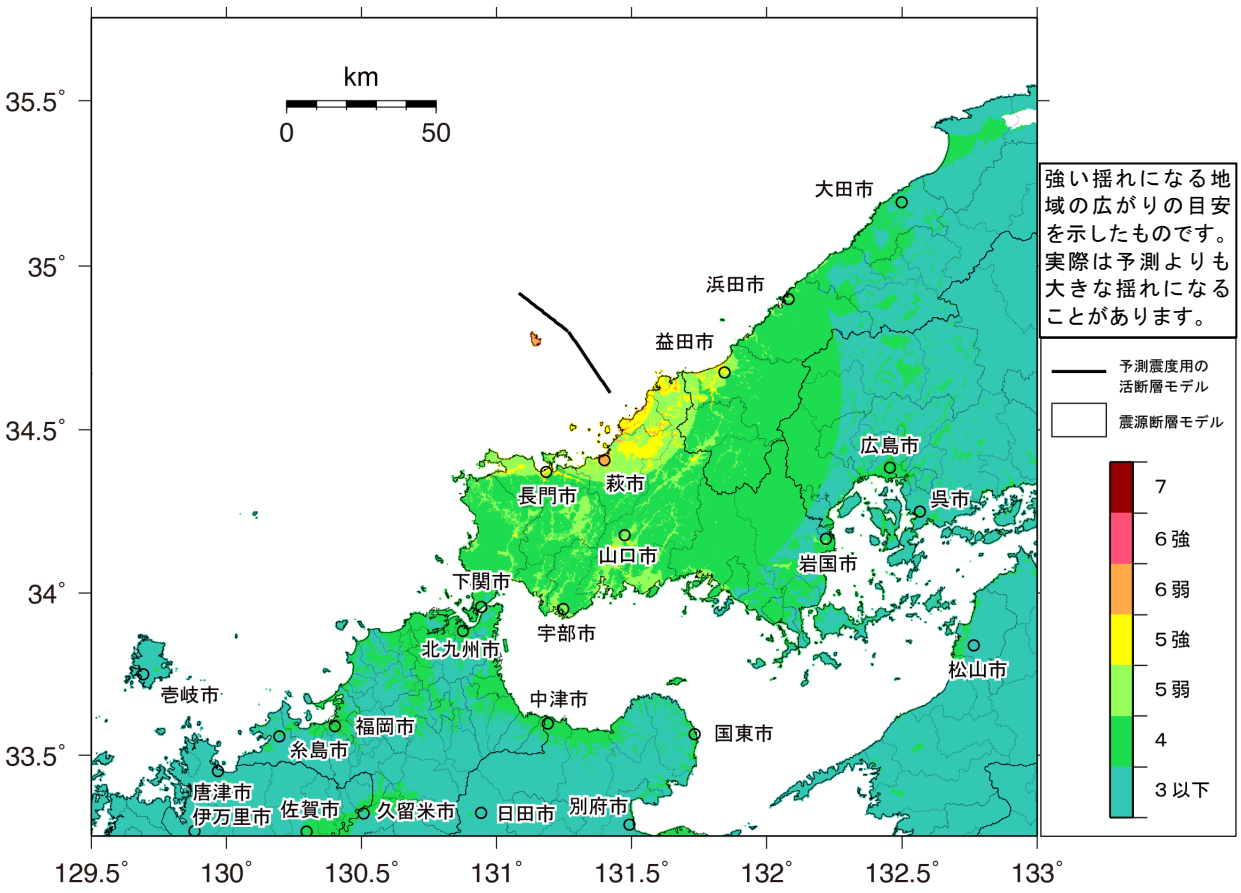
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

南部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

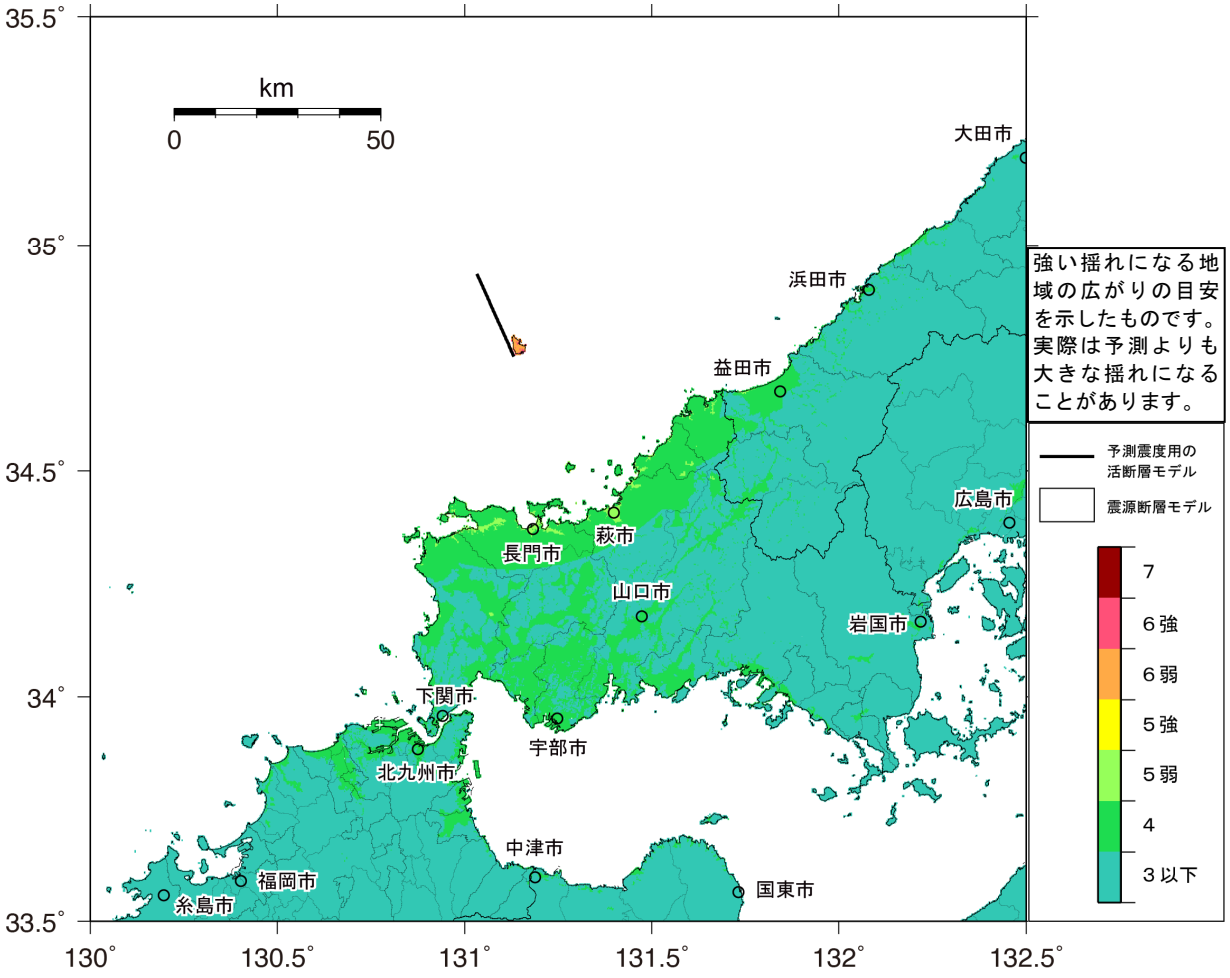
モドロ岬沖断層帯は、見島の東方約 10 km に位置する、北北西－南南東走向の長さ約 45 km もしくはそれ以上の左横ずれ断層です。ただし、南東端は確認できていないため、さらに陸側に延びる可能性があります。地溝状の変形を伴う北部区間と、幅の狭い背斜構造を伴う南部区間に区分されています。

北部区間は長さ約 21 km で、この区間が活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間は長さ約 25 km もしくはそれ以上で、この区間が活動した場合、M7.2 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.6 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。34－36 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】見島近海断層の地震による予測震度分布（簡便法）

見島近海断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

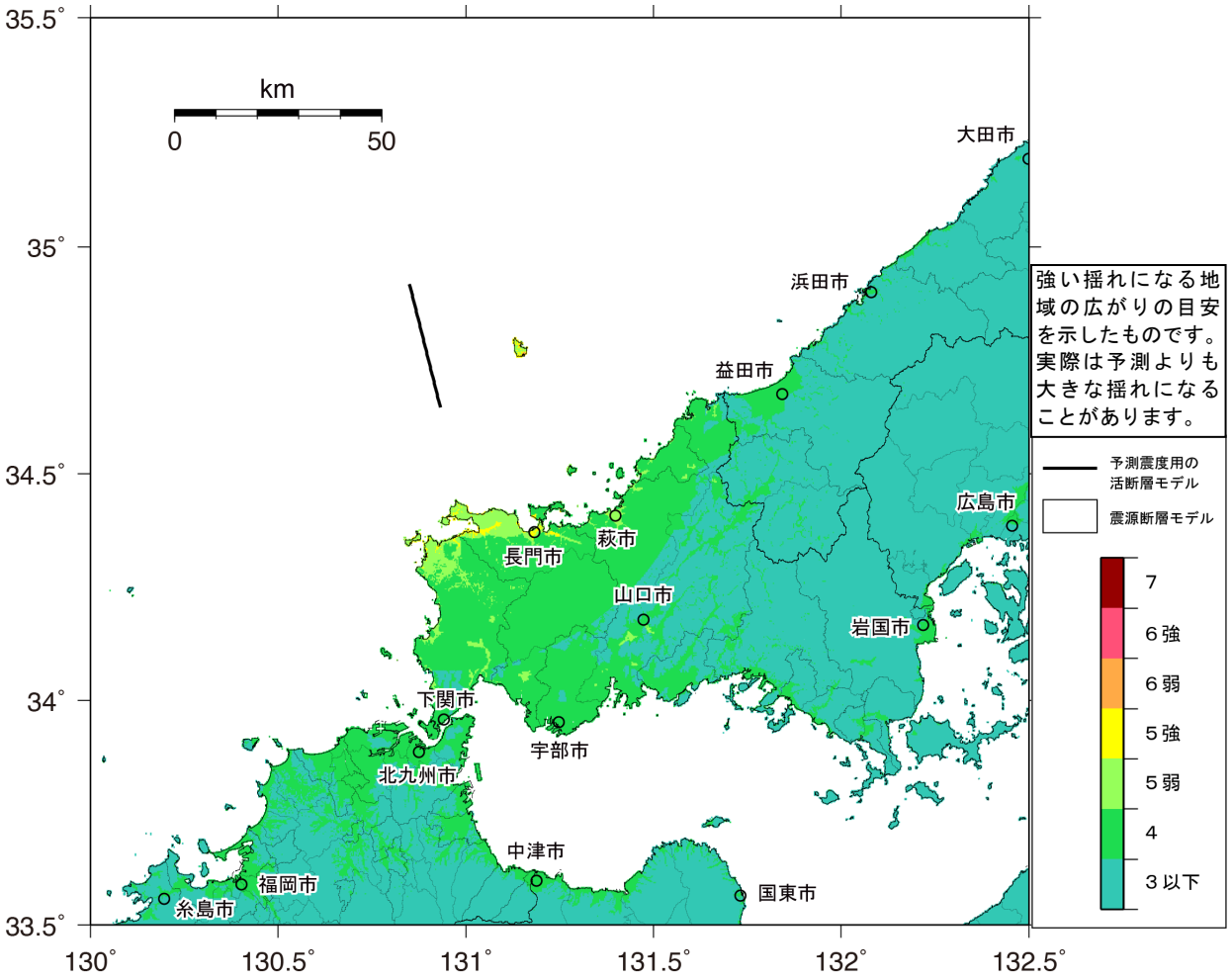
見島近海断層は、山口県萩市沖にある見島のすぐ西側を通過する北北西－南南東走向の長さ約 22 km の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】卯持ノ瀬東方断層の地震による予測震度分布（簡便法）

卯持ノ瀬東方断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

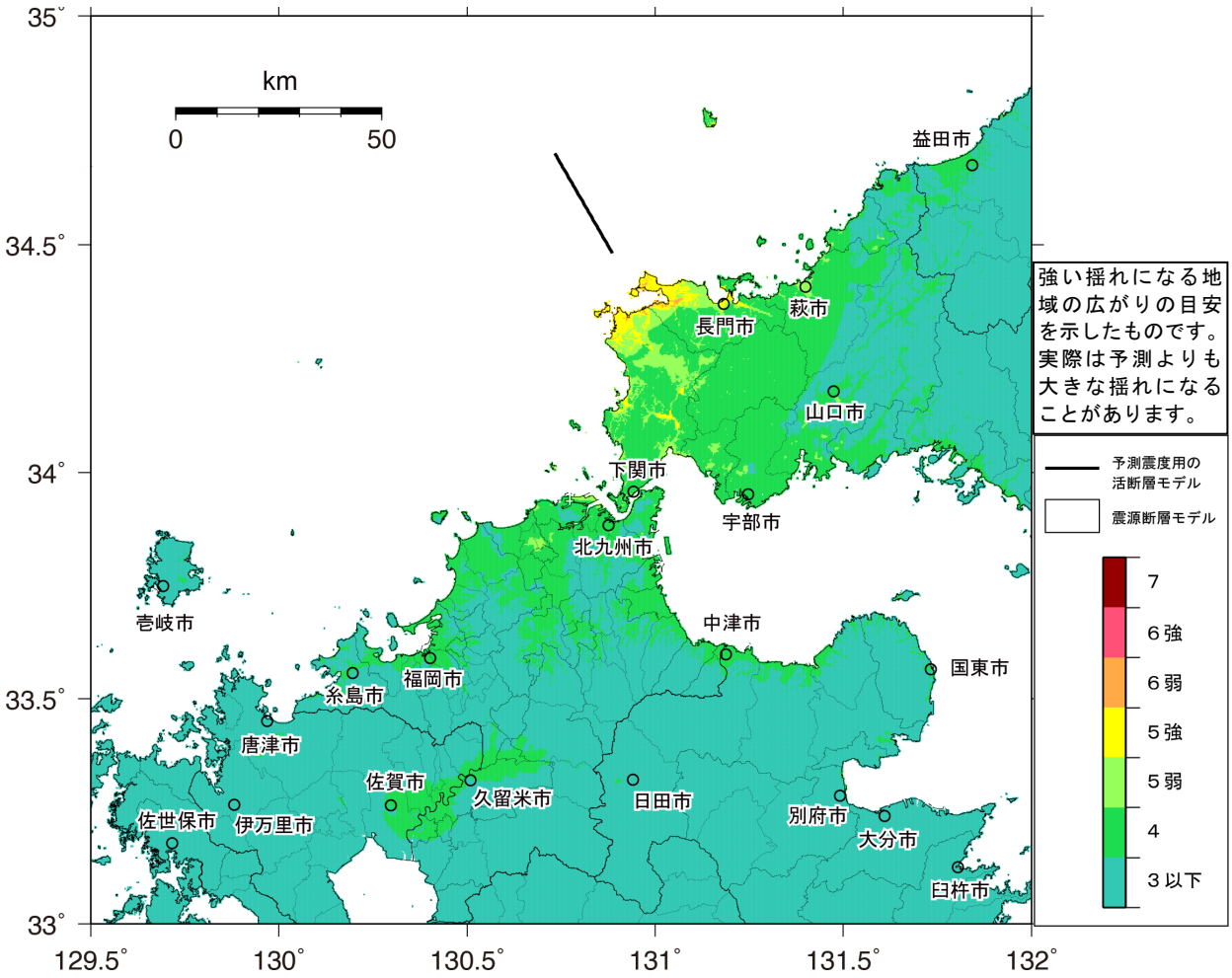
卯持ノ瀬東方断層は、見島の西方約 20 km に位置し、断層北部は北北西－南南東走向、断層南部はほぼ南北走向を持つ全長約 31 km の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】向津具沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

向津具沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

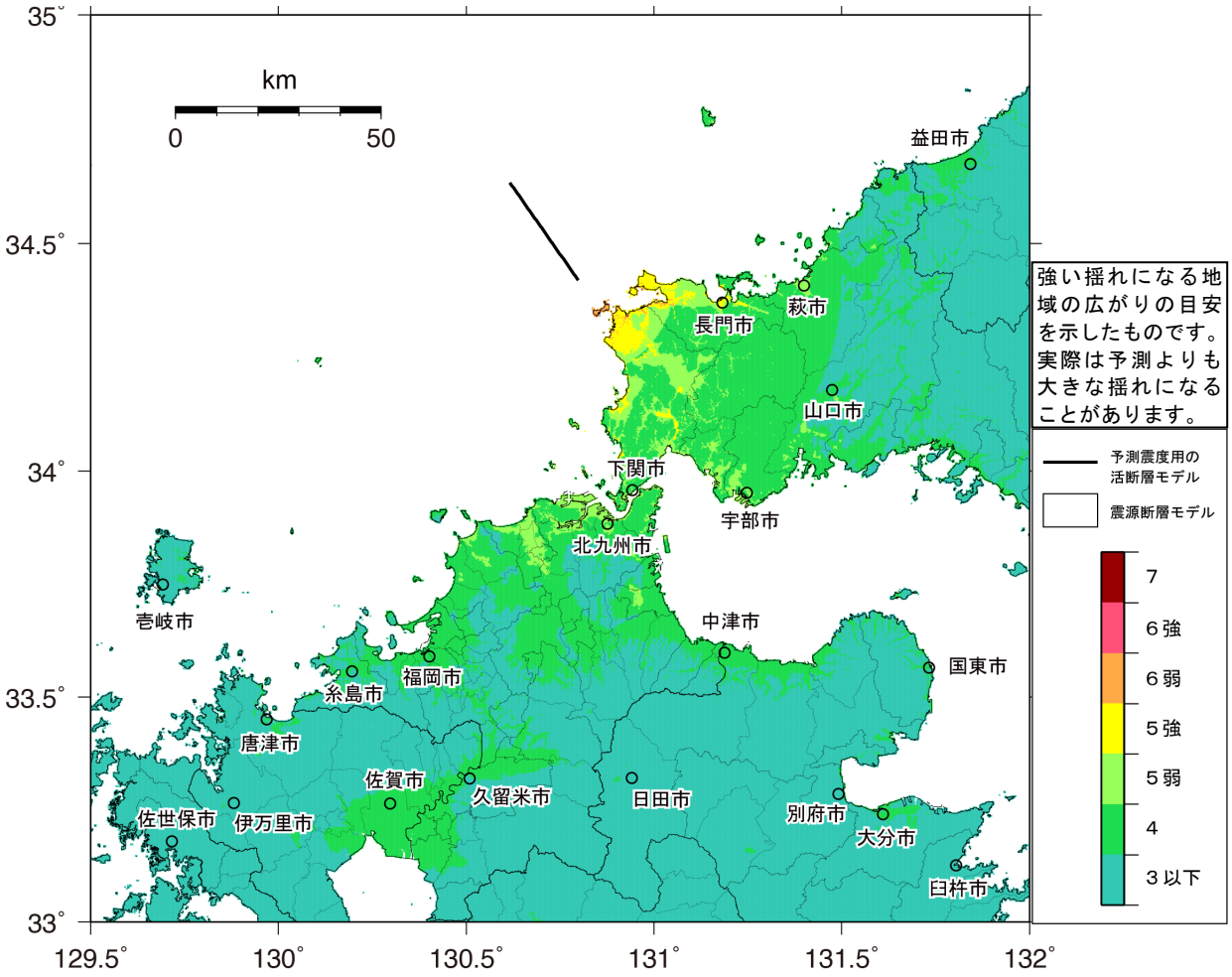
向津具沖断層は、山口県向津具（むかつく）半島の北西沖約 10 km 付近を南東端とし、北西－南東走向の長さ約 28 km の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】角島沖東断層の地震による予測震度分布（簡便法）

角島沖東断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

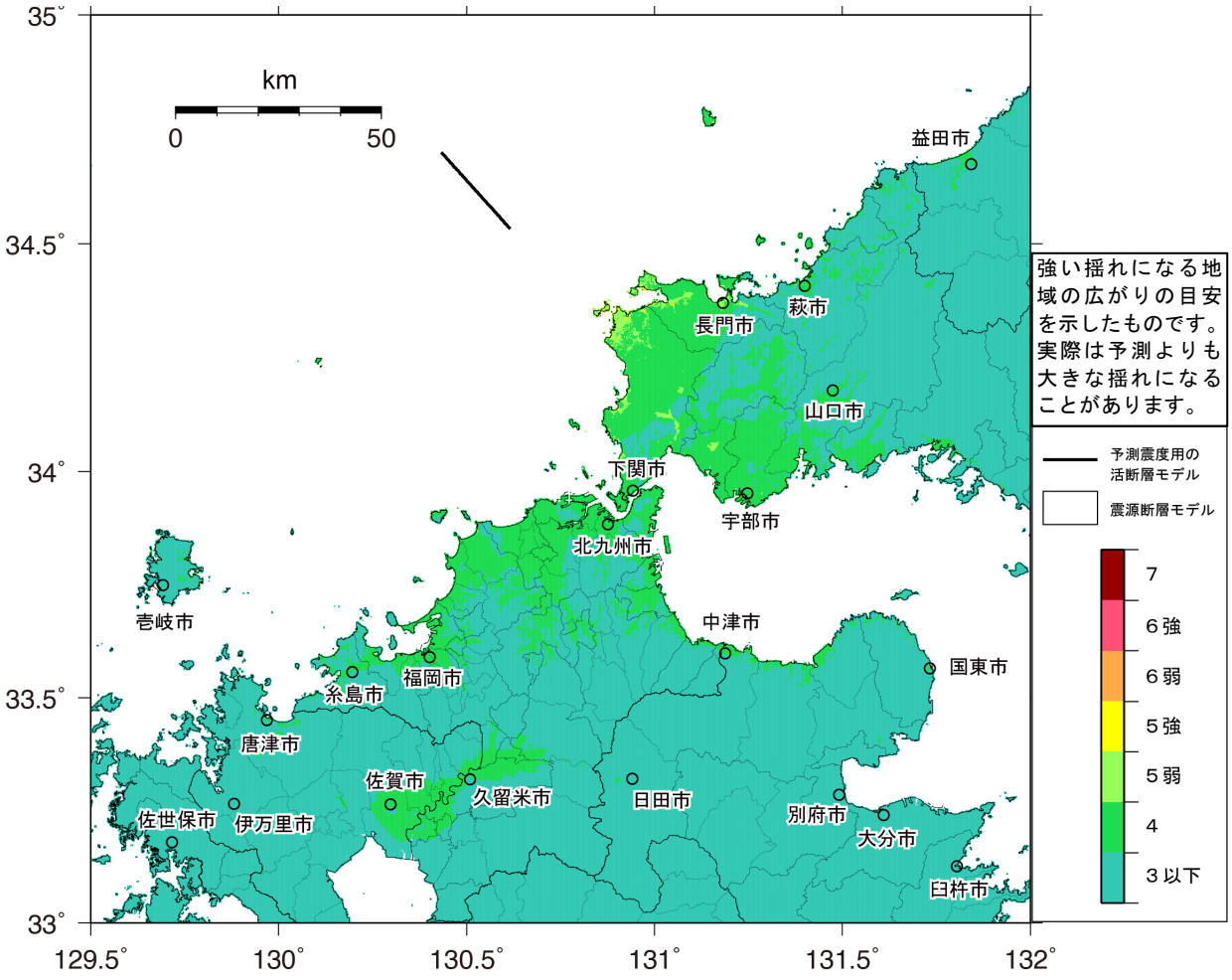
角島沖東断層は、向津具沖断層の約 10 km 西方に位置し、山口県の北西端に位置する角島（つのしま）の北北西沖約 11 km 付近まで断層南東部が確認できる北西－南東走向の長さ 29 km もしくはそれ以上の左横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.3 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

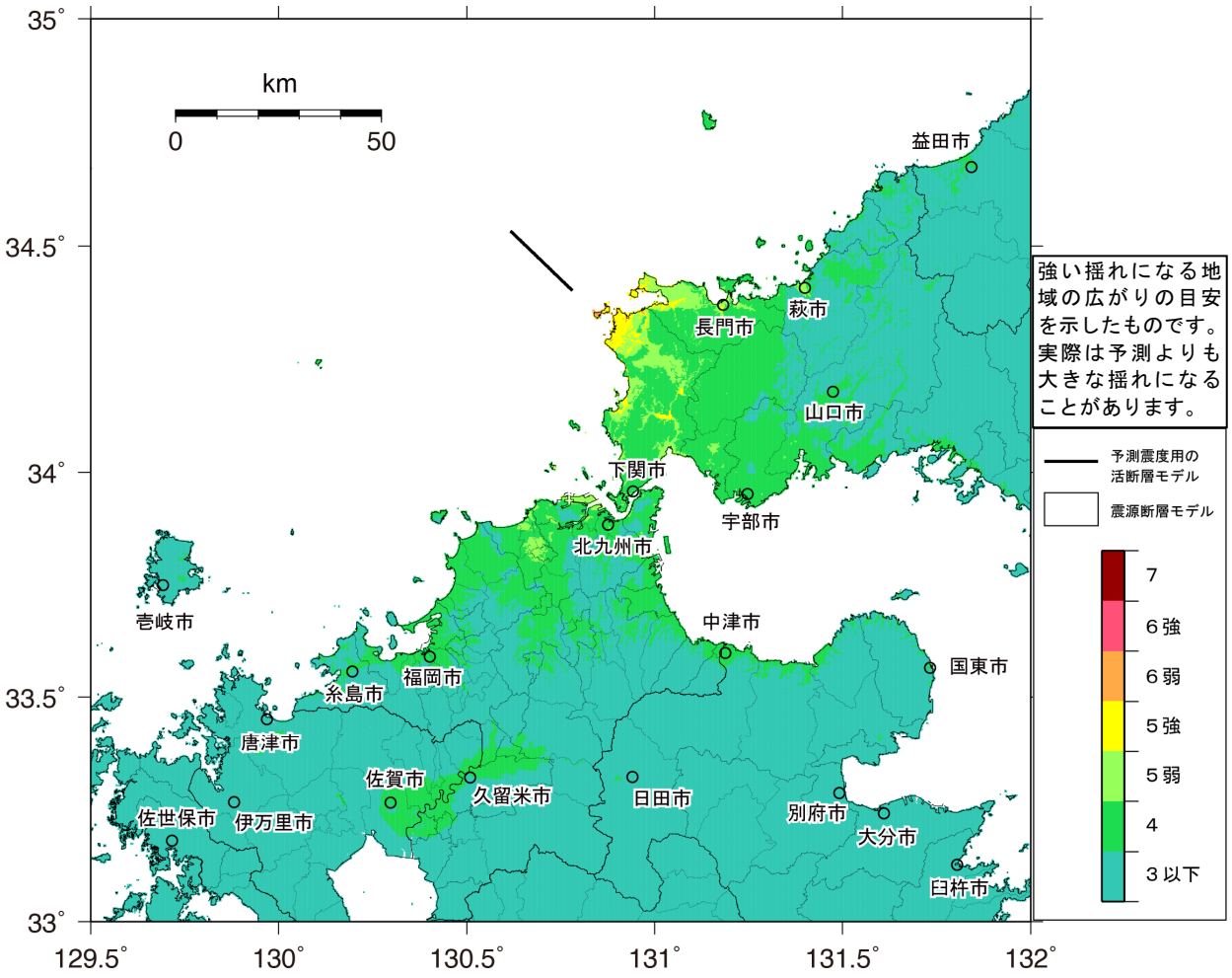
【参考】角島沖西断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北部区間



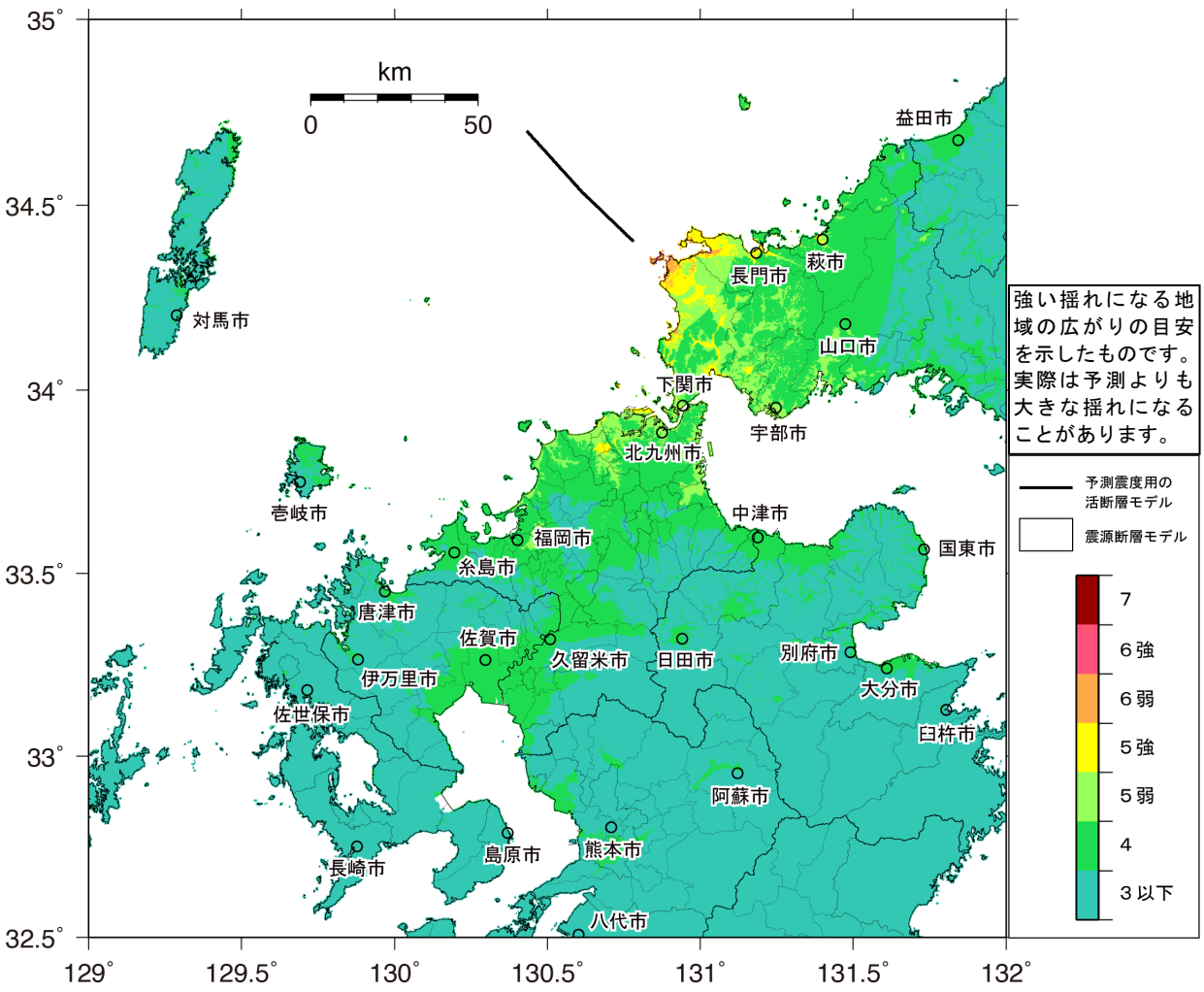
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

南部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

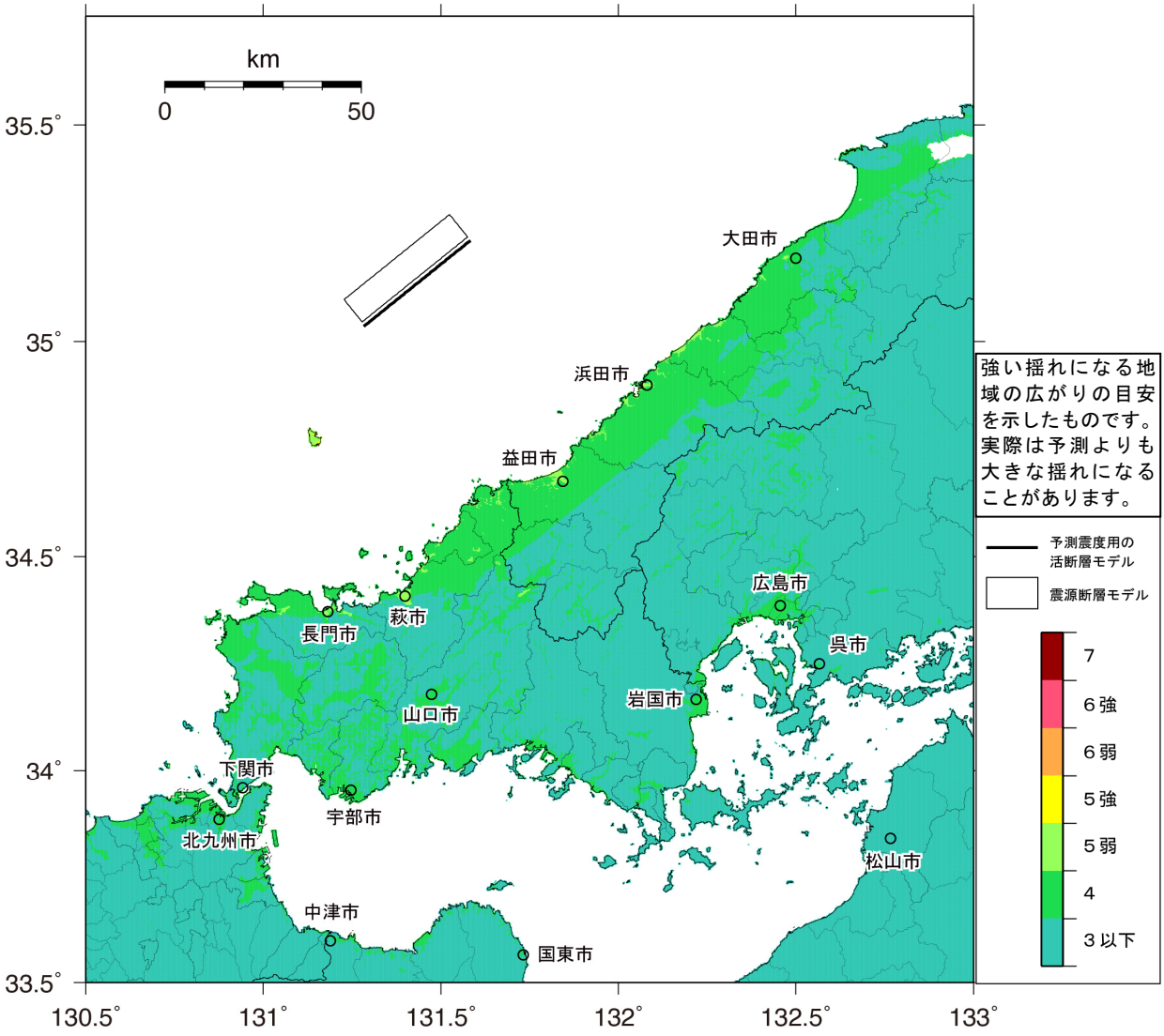
角島沖西断層帯は、角島沖東断層の 5－10 km 西方に位置し、角島の北西沖約 10 km 付近に断層南東部が確認できる北西－南東走向の長さ約 46 km もしくはそれ以上の左横ずれ断層です。南東端は確認できていないため、さらに陸側に延びる可能性があります。重力異常の分布から、北部区間と南部区間に区分されています。

北部区間は長さ約 25 km で、この区間が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間は長さ約 21 km もしくはそれ以上で、この区間が活動した場合、M7.0 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.6 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。41－43 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】益田沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

益田沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

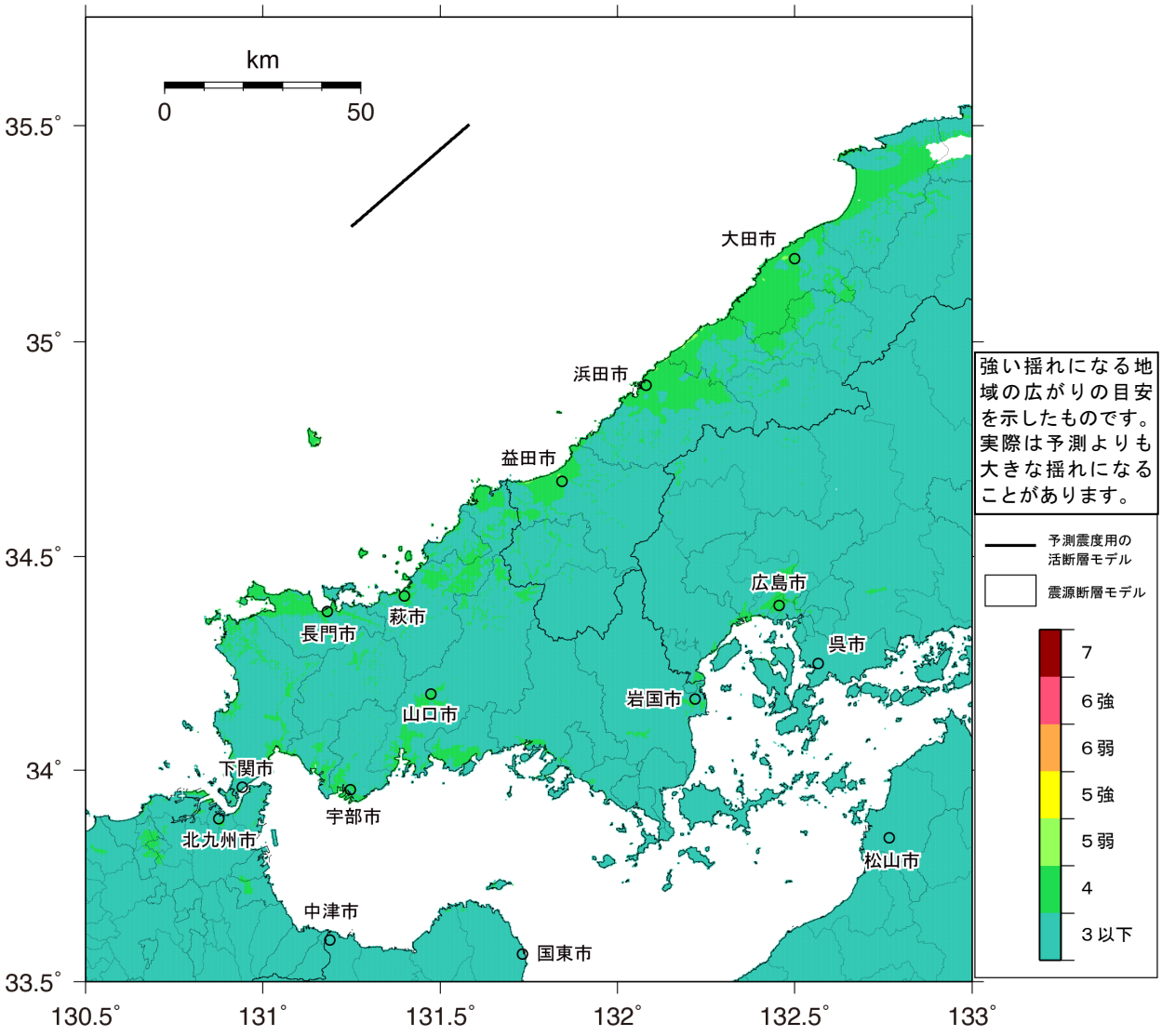
益田沖断層は、島根県益田市の海岸から 50－60 km 沖合に分布する、北東－南西走向の長さ約 35 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】千里ヶ瀬東方南断層の地震による予測震度分布（簡便法）

千里ヶ瀬東方南断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

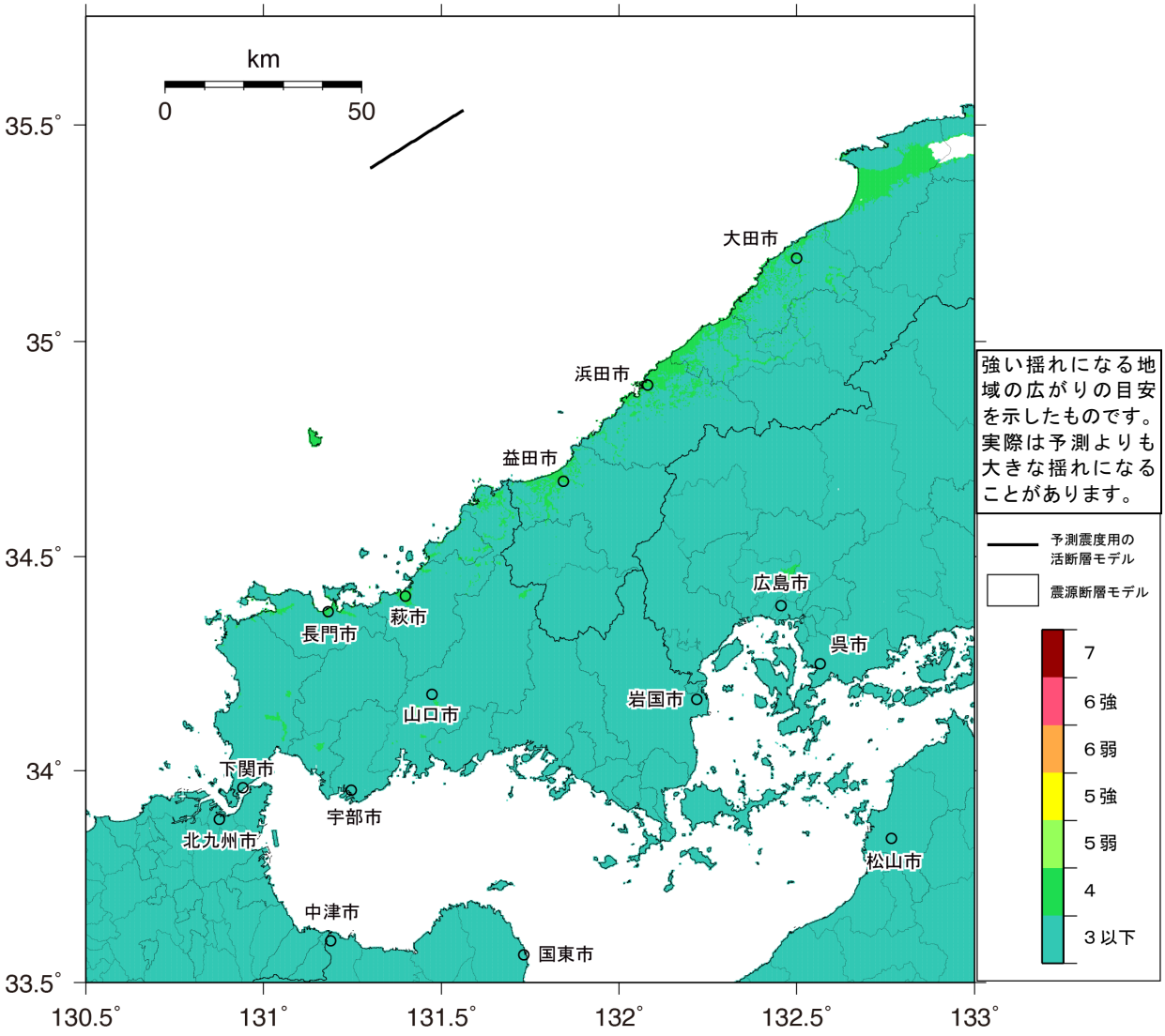
千里ヶ瀬東方南断層は、益田市の北方約 80 km に位置する北東－南西走向の長さ約 40 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】千里ヶ瀬東方北断層の地震による予測震度分布（簡便法）

千里ヶ瀬東方北断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

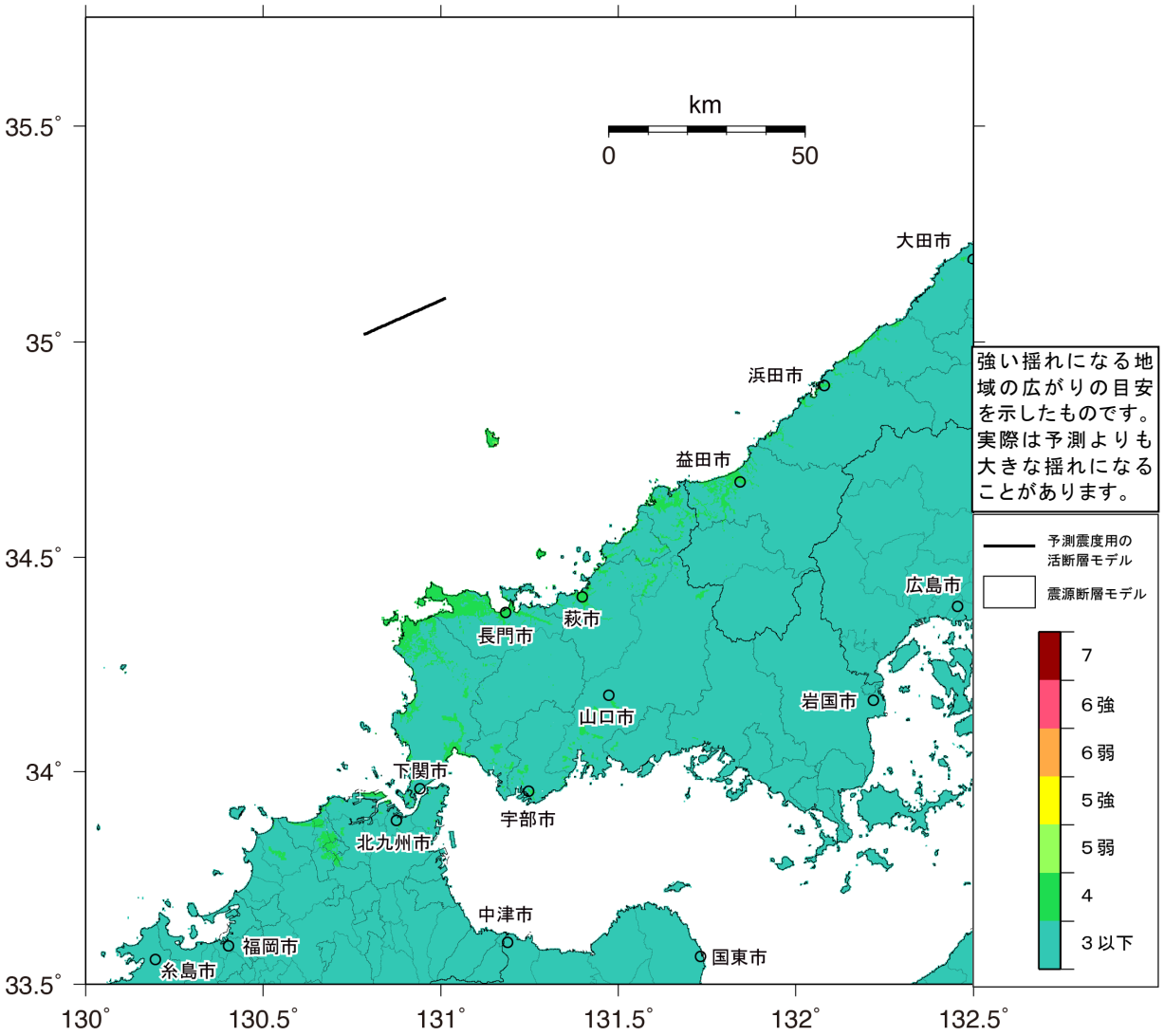
千里ヶ瀬東方北断層は、千里ヶ瀬東方南断層の北約 10 km に位置する北東－南西走向の長さ約 28 km の右横ずれ断層であり、千里ヶ瀬東方南断層にほぼ並行して分布します。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】タツモチ東方断層の地震による予測震度分布（簡便法）

タツモチ東方断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

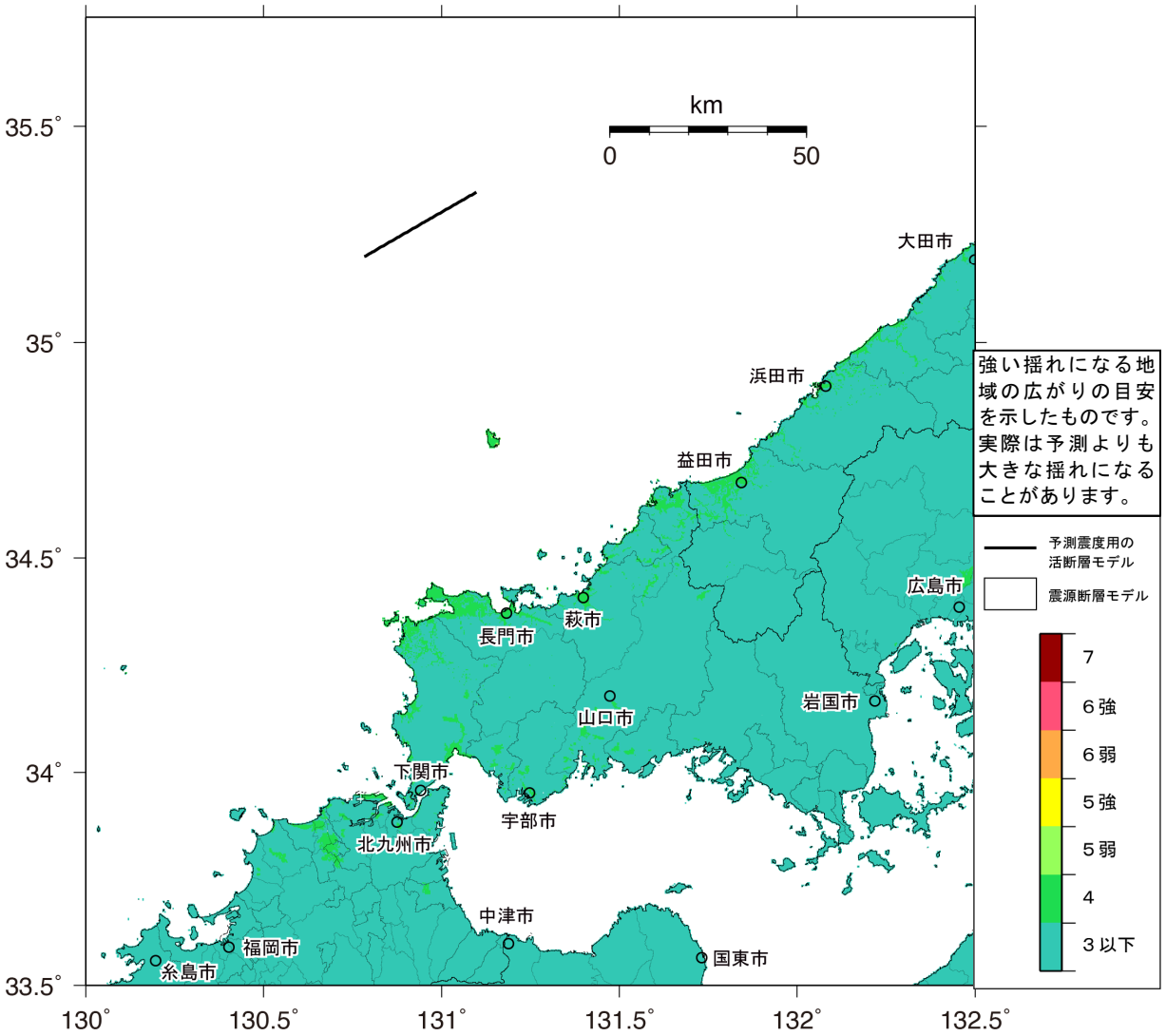
タツモチ東方断層は、山口県萩市見島の約 40 km 北方沖に分布し、東北東－西南西走向の長さ約 23 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】ウマモチ北西断層の地震による予測震度分布（簡便法）

ウマモチ北西断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

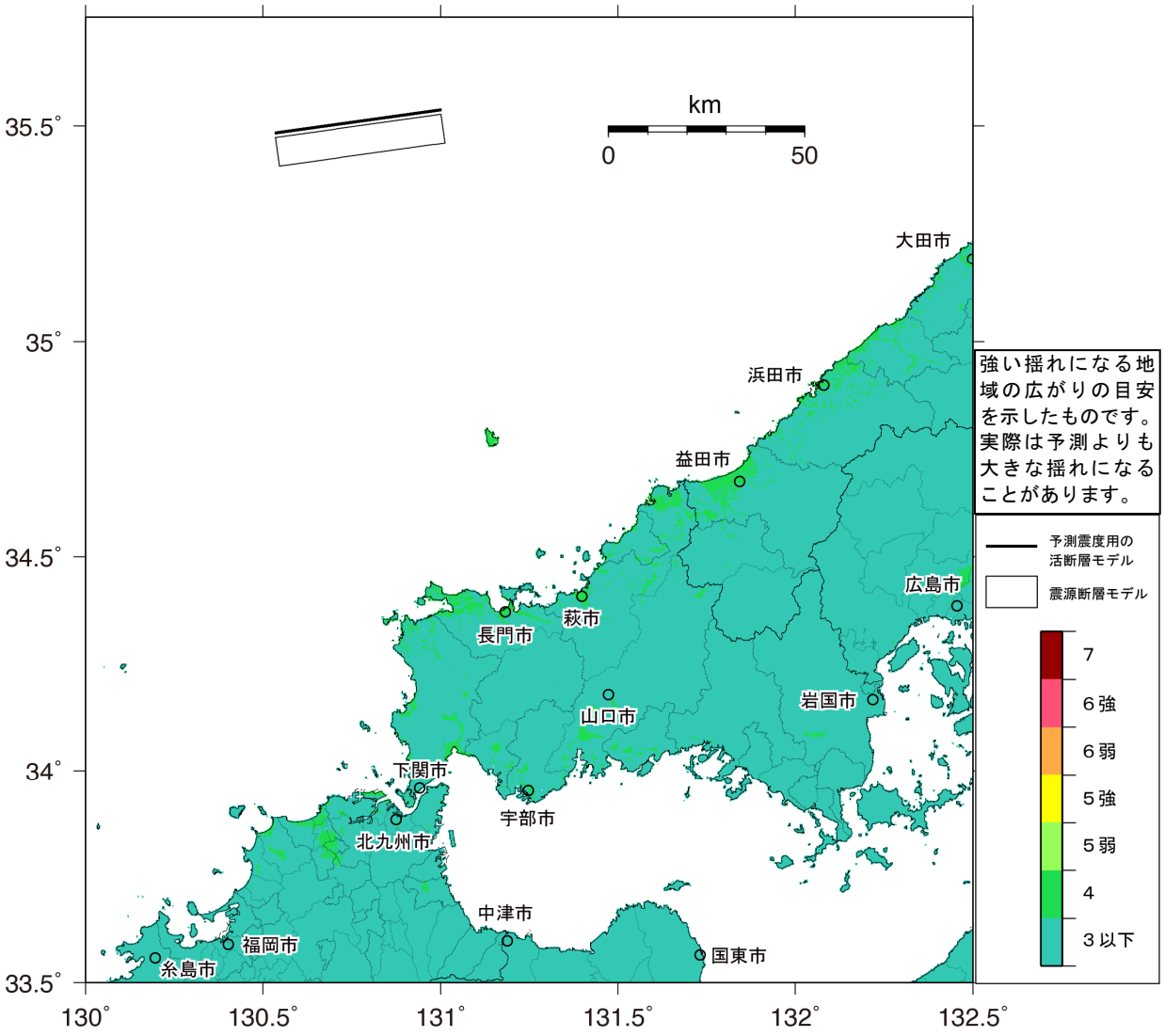
ウマモチ北西断層は、山口県萩市見島の約 60 km 北方沖に分布する東北東―西南西走向、長さ約 33 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬海盆南方断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬海盆南方断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

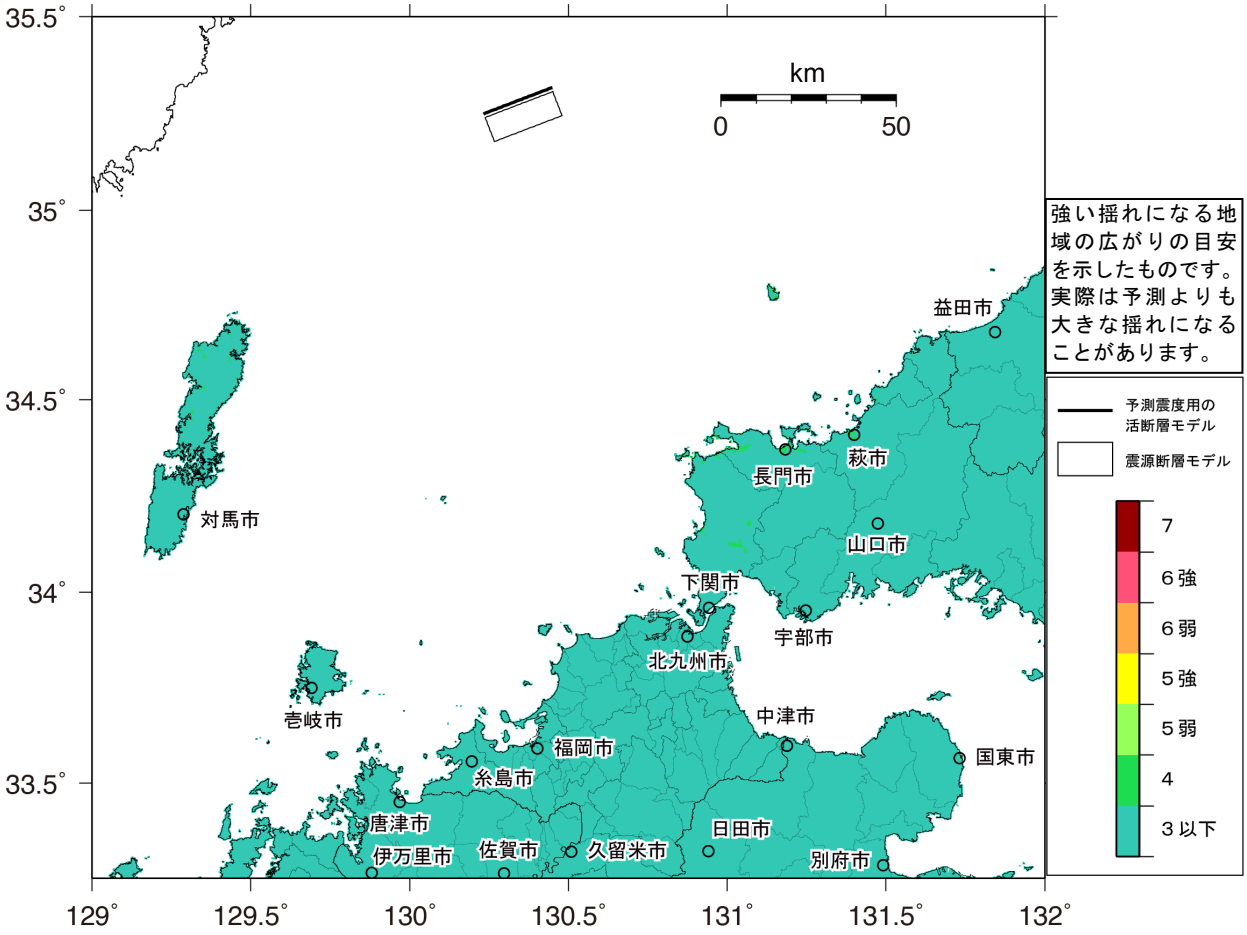
対馬海盆南方断層は、ウマモチ北西断層の北側約 25－30 km、対馬海盆の南側に位置する東北東－西南西走向の長さ約 43 km もしくはそれ以上の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.6 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】長門はるか沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

長門はるか沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

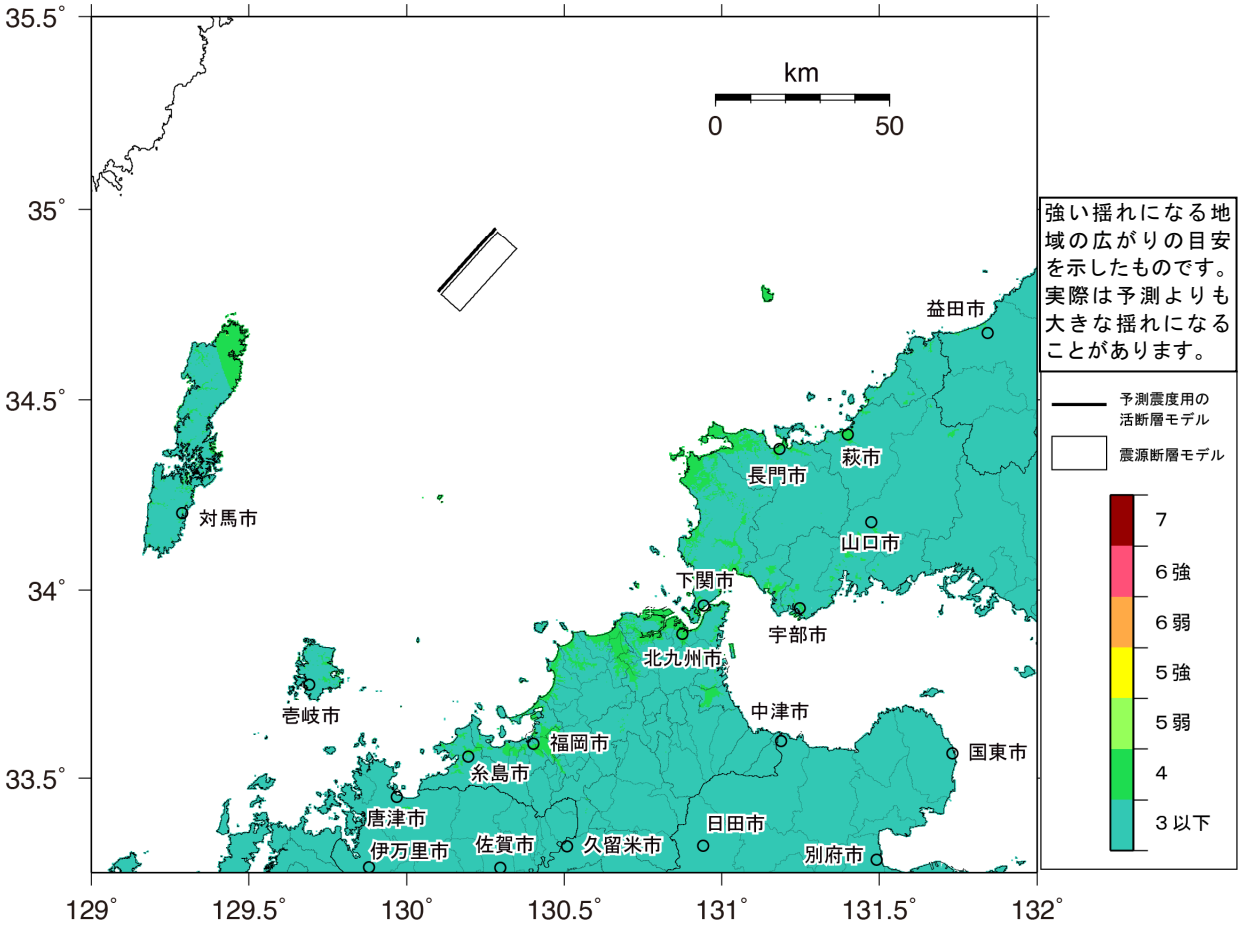
長門はるか沖断層は、見島の北西約 90 km に位置する東北東－西南西走向の長さ約 21 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬北東沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬北東沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

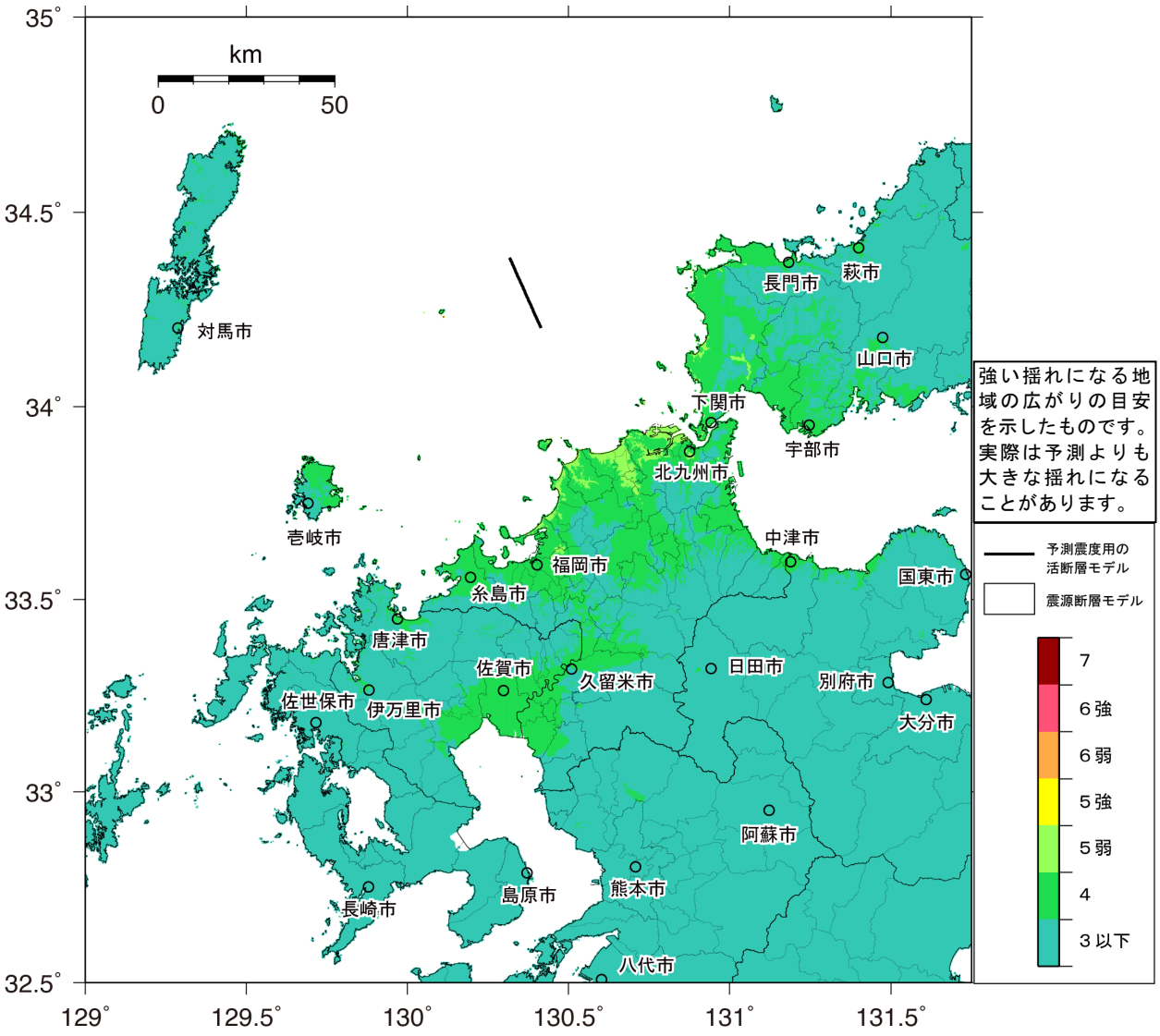
対馬北東沖断層は、角島から北西約 80 km 沖合に分布する北東－南西走向の長さ約 25 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

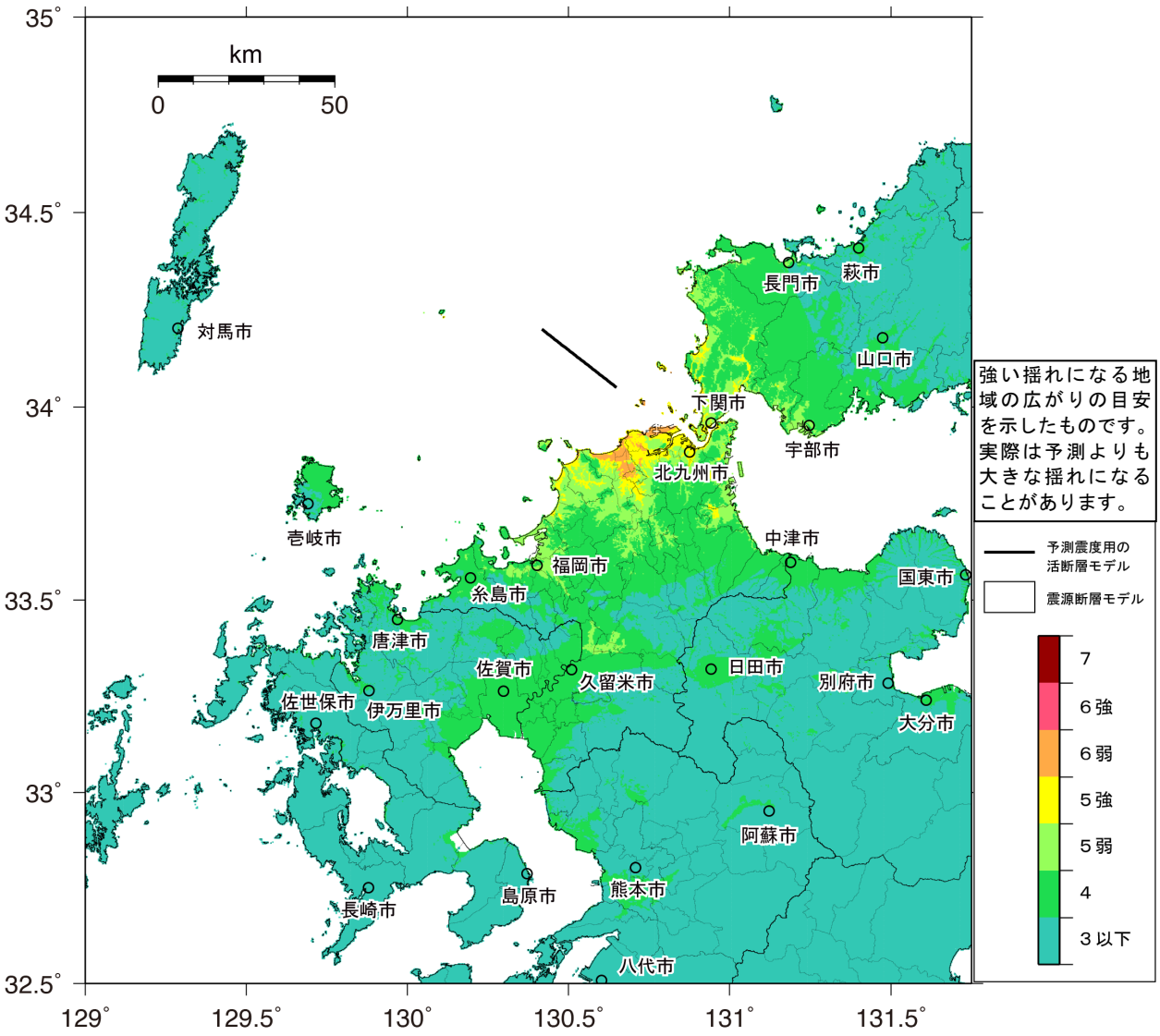
【参考】白島沖断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北部区間



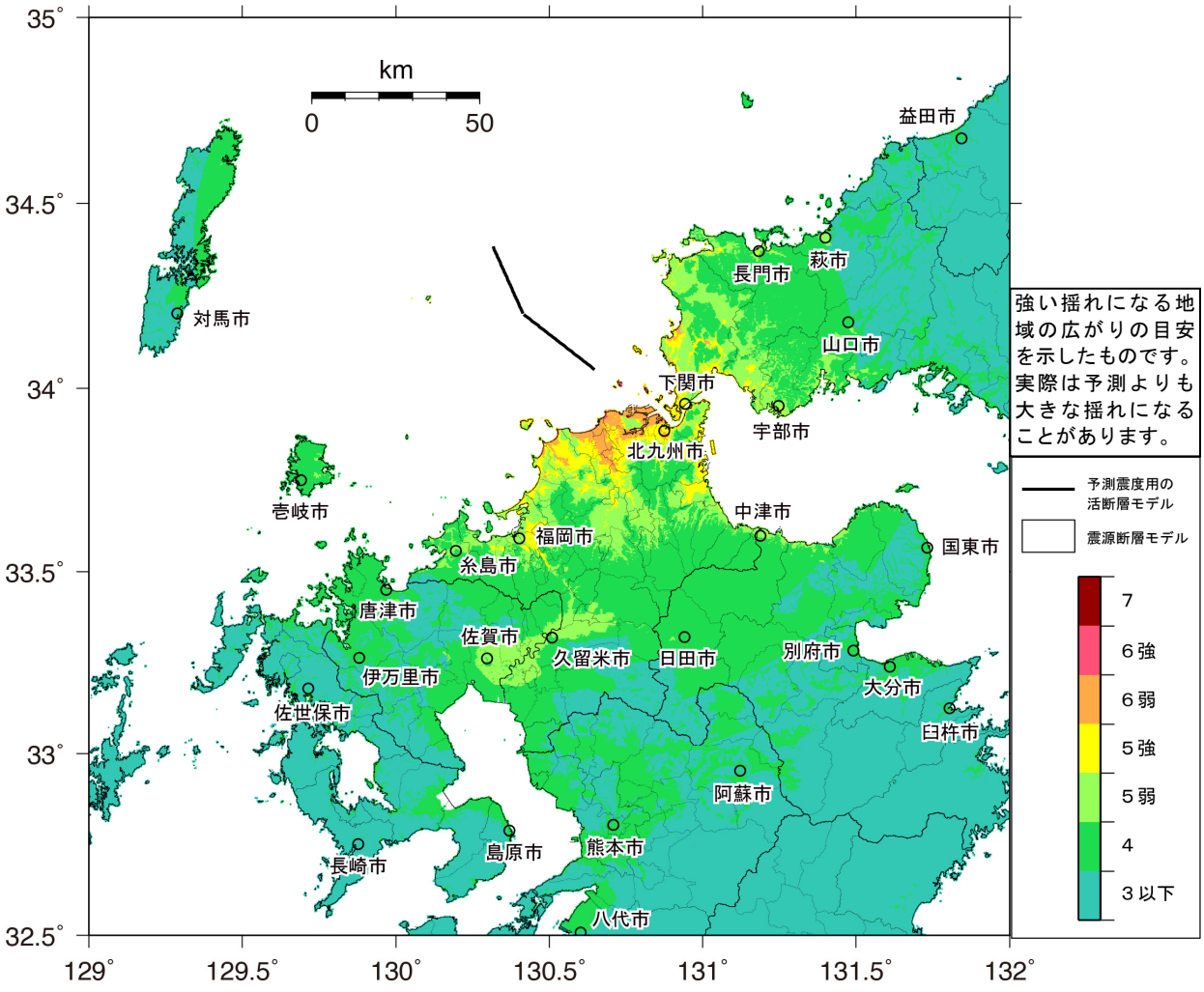
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

南部区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

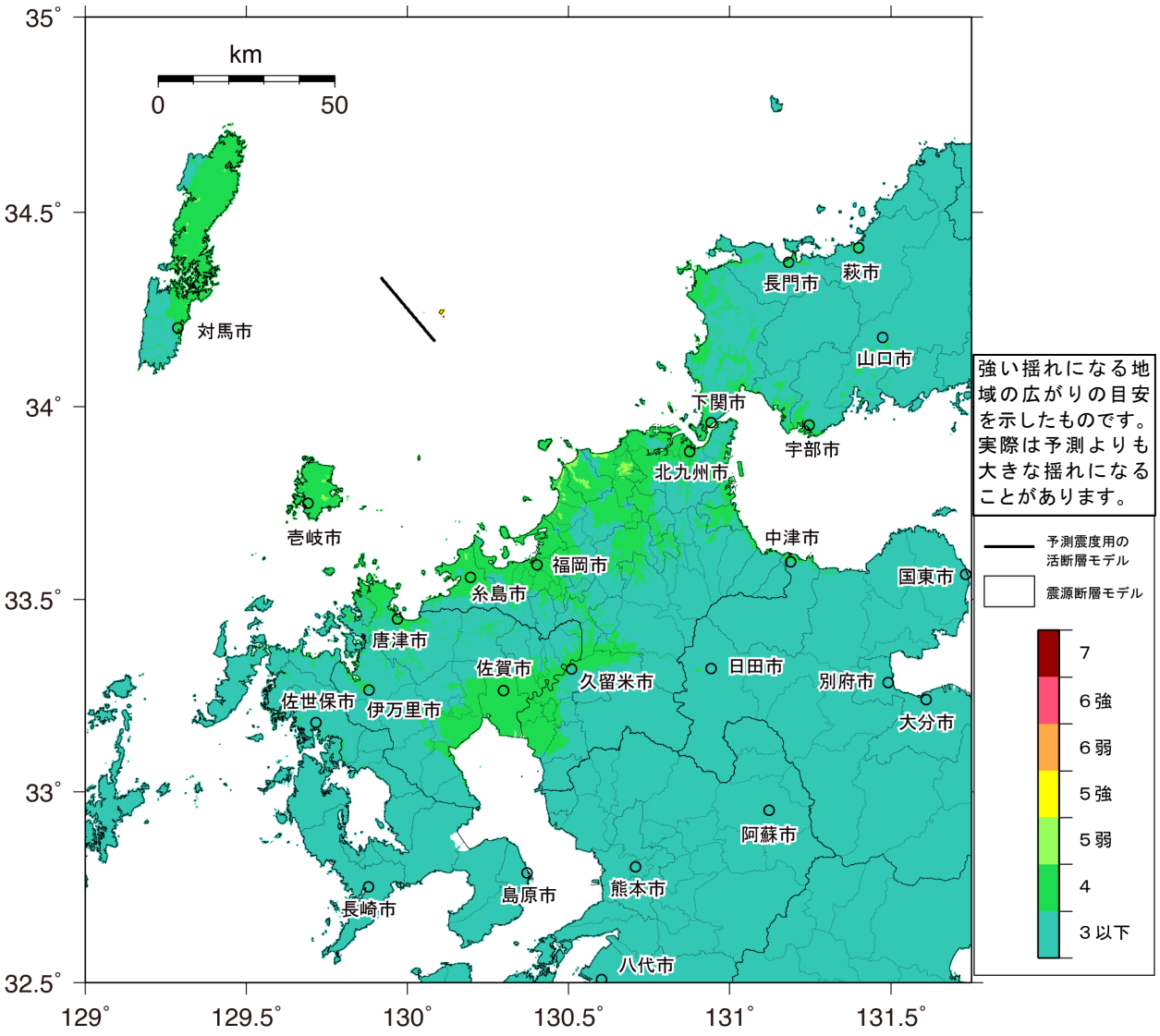
白島沖断層帯は、福岡県北九州市若松区の北岸から約 10 km 程度の沖合を南端とする、北北西－南南東走向の長さ約 48 km の左横ずれ断層です。重力異常の分布から北部区間と南部区間に区分されています。

北部区間は長さ約 22 km で、この区間が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間は長さ約 27 km で、この区間が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.6 程度の地震が発生する可能性があります。52－54 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】沖ノ島近海断層の地震による予測震度分布（簡便法）

沖ノ島近海断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

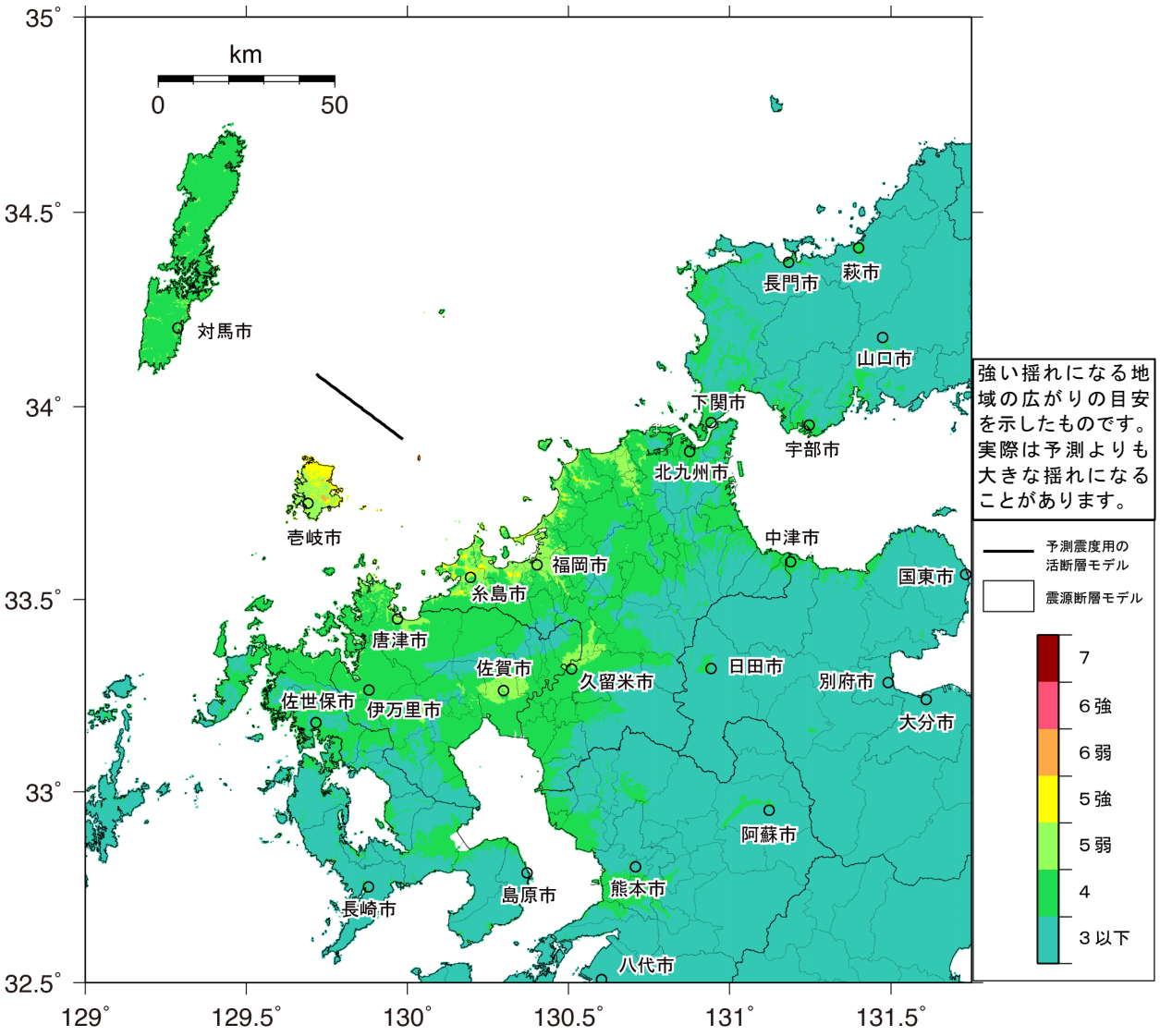
沖ノ島近海断層は、西山断層帯大島沖区間の北西側延長部周辺にある沖ノ島の西方から北西に連続する北西－南東走向の長さ約 24 km の左横ずれ断層です。なお、今後の調査研究によっては西山断層帯を構成する区間になる可能性もあります。

この断層が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

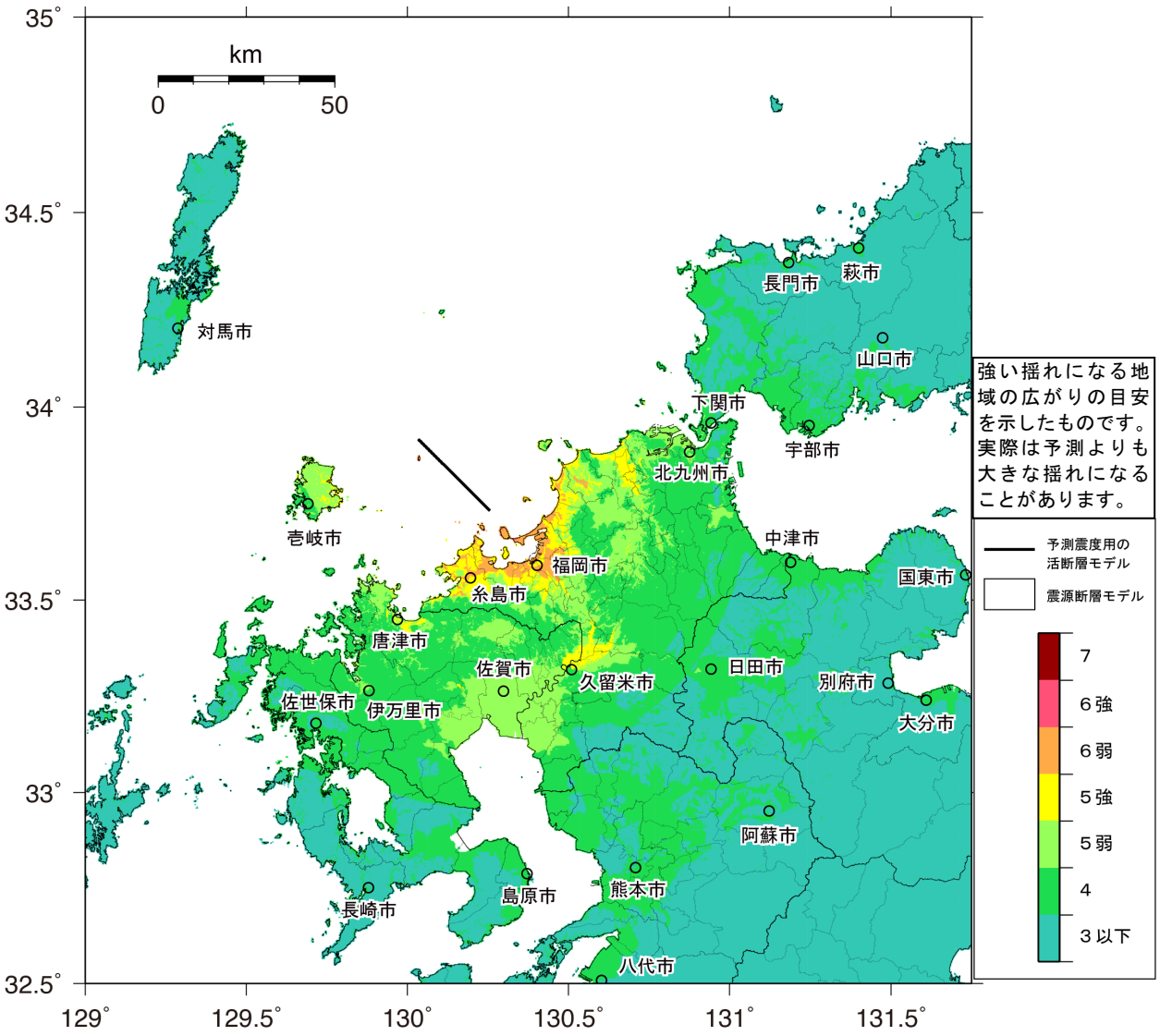
【参考】小呂島近海断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北西沖区間



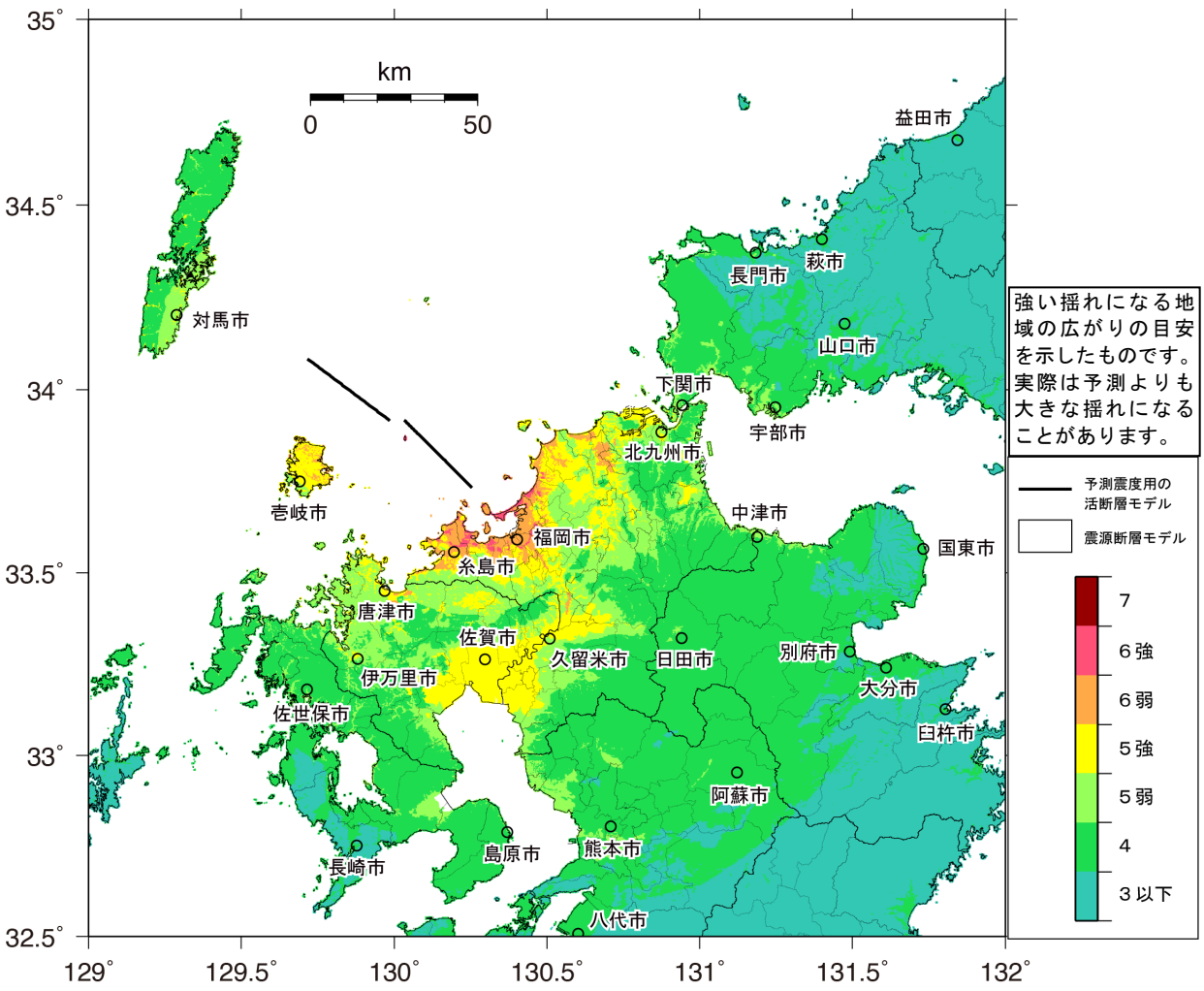
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

東方沖区間



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北西沖区間・東方沖区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

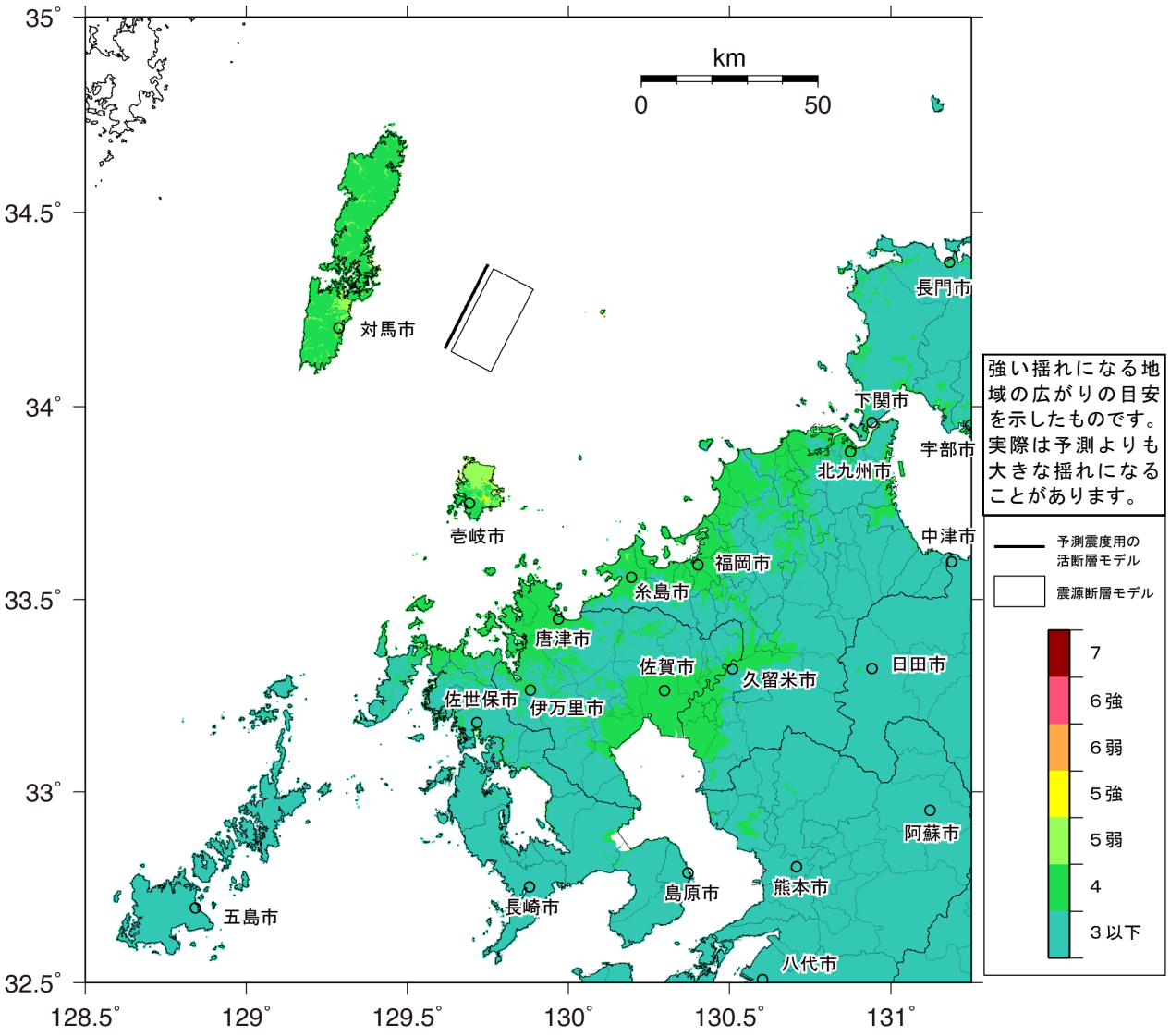
小呂島近海断層帯は、2005 年福岡県西方沖の地震の震源域の北側から東側にかけて位置する北西－南東走向の長さ約 63 km の左横ずれの断層で、警固断層帯周辺海域に位置しています。小呂島付近に断層トレースのギャップが存在することから、北西沖区間と東方沖区間に区分されています。なお、今後の調査研究によっては、東方沖区間及び北西沖区間は警固断層帯を構成する区間になる可能性もあります。

北西沖区間は長さ約 36 km で、この区間が活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。東方沖区間は長さ約 28 km で、この区間が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。これらの評価単位区間が連動した場合、M7.8 程度の地震が発生する可能性があります。56－58 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬東水道断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬東水道断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

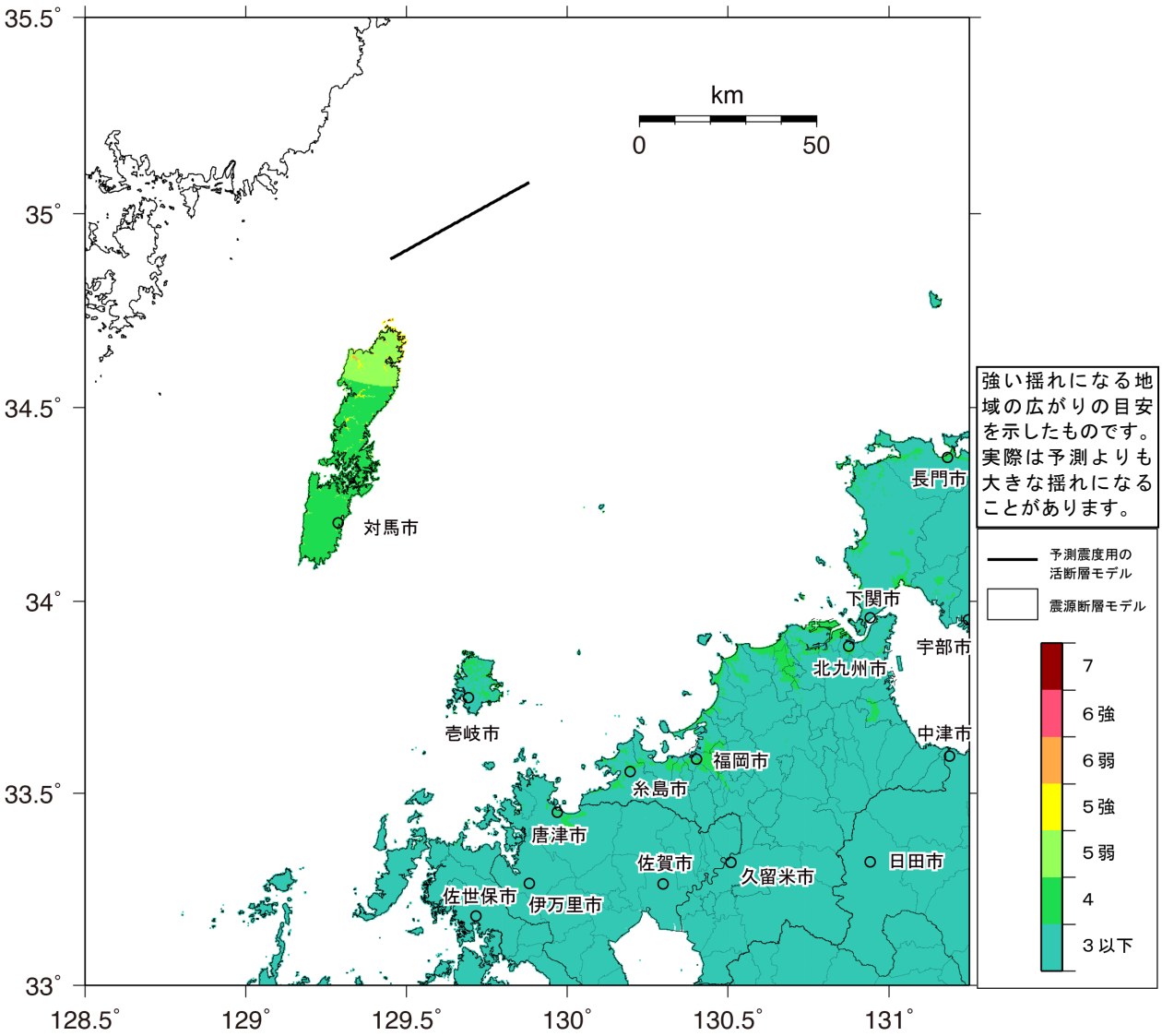
対馬東水道断層は、対馬の東方約 27 km の沖合に分布する北北東－南南西走向の長さ約 27 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬北方沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬北方沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

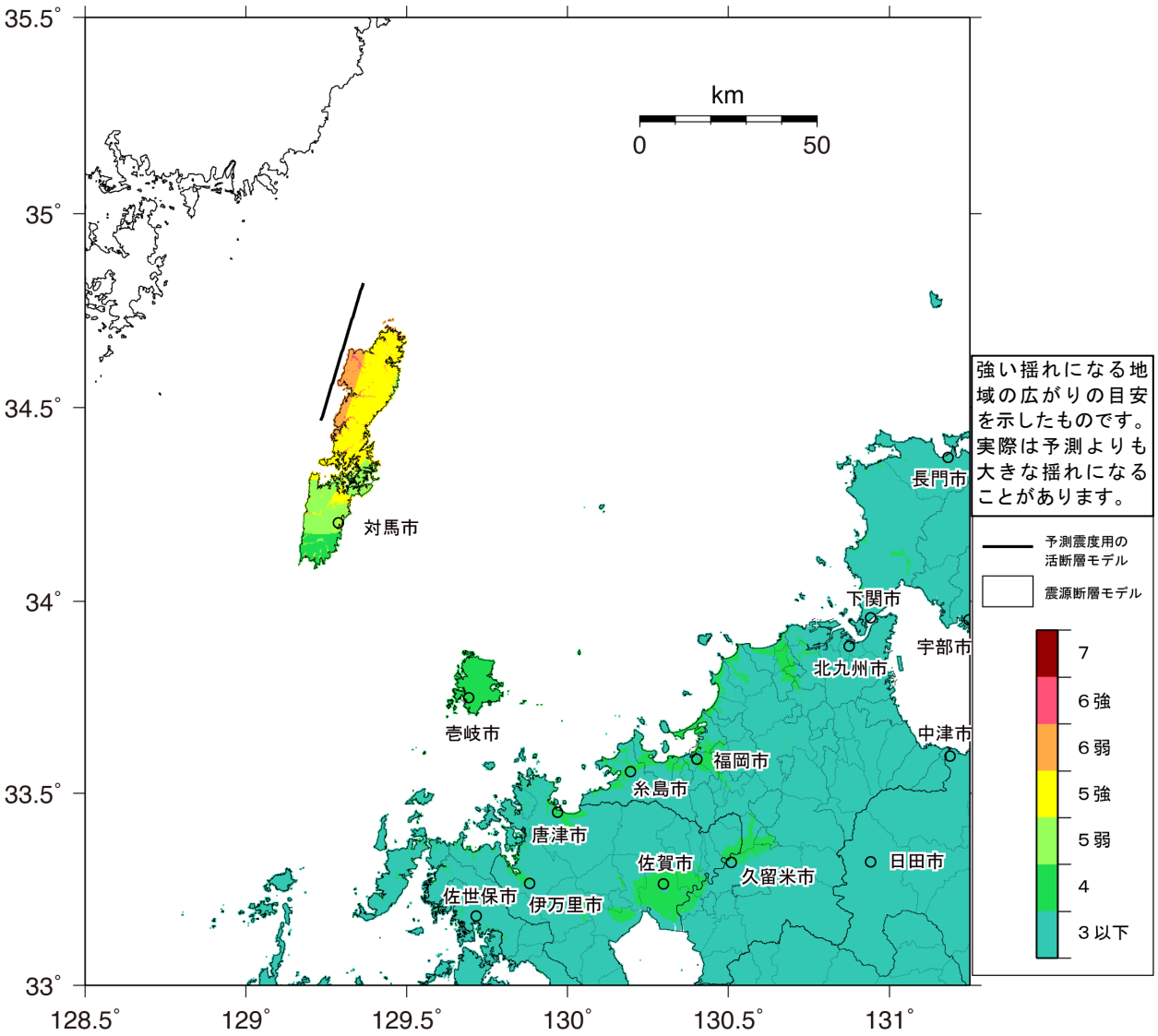
対馬北方沖断層は、対馬の北方沖に分布する北東－南西走向の長さ約 45 km もしくはそれ以上の右横ずれ断層です。なお、断層端点の位置の信頼度は低く、断層長はさらに長い可能性があります。

この断層が活動した場合、M7.6 程度もしくはそれ以上の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬上県西方沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬上県西方沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

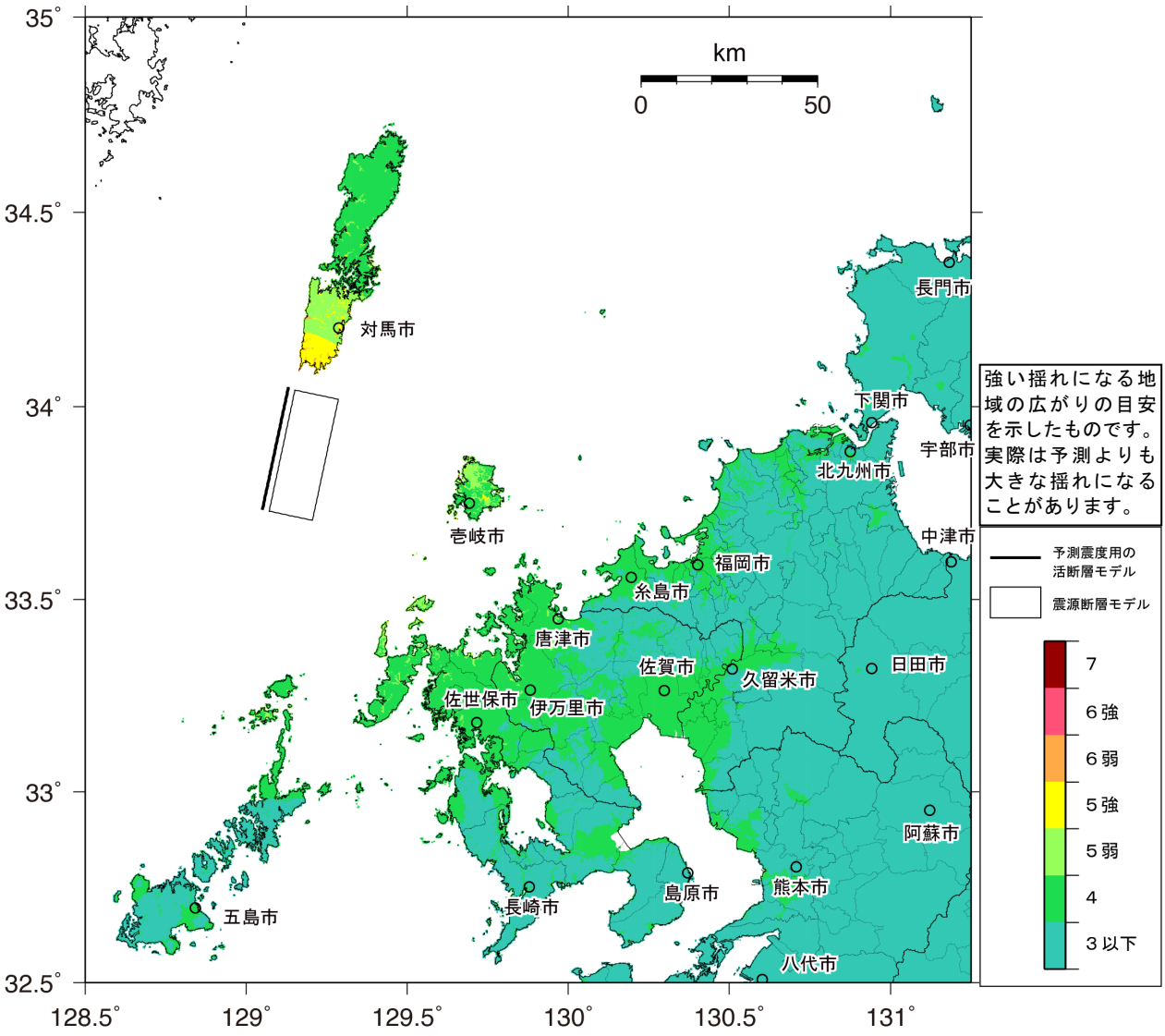
対馬上県西方沖断層は、対馬上県の西方沖に分布する北北東－南南西走向の長さ約 41 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】対馬南方沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

対馬南方沖断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

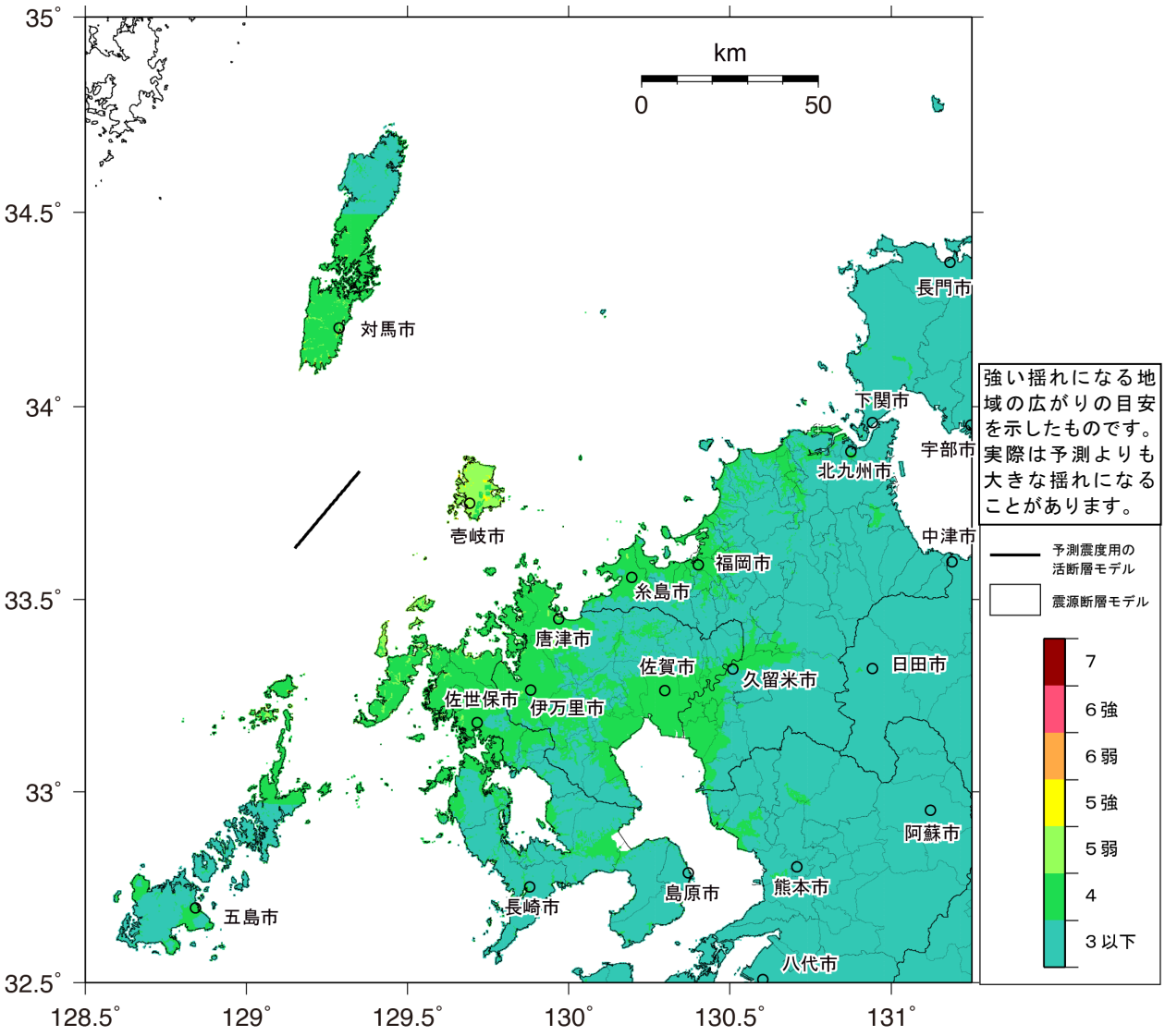
対馬南方沖断層は、対馬の南方 5 km 程度の沖合に分布する北北東－南南西走向の長さ約 36 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】七里ヶ曾根断層の地震による予測震度分布（簡便法）

七里ヶ曾根断層



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

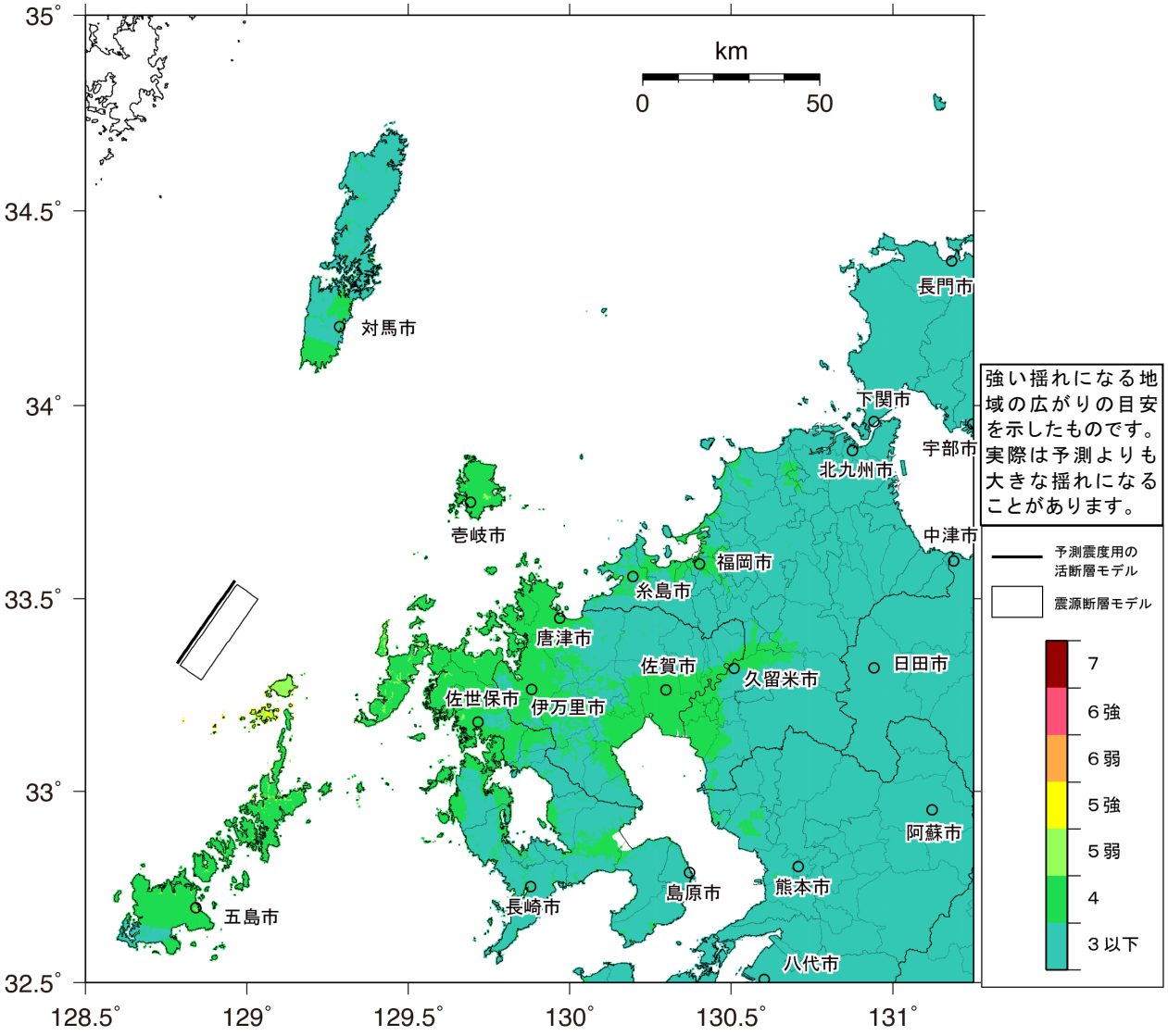
七里ヶ曾根断層は、対馬の南方 30 km 程度の沖合に分布する北東－南西走向の長さ約 29 km の右横ずれ断層です。

この断層が活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも１～２ランク程度大きくなる場合があります。

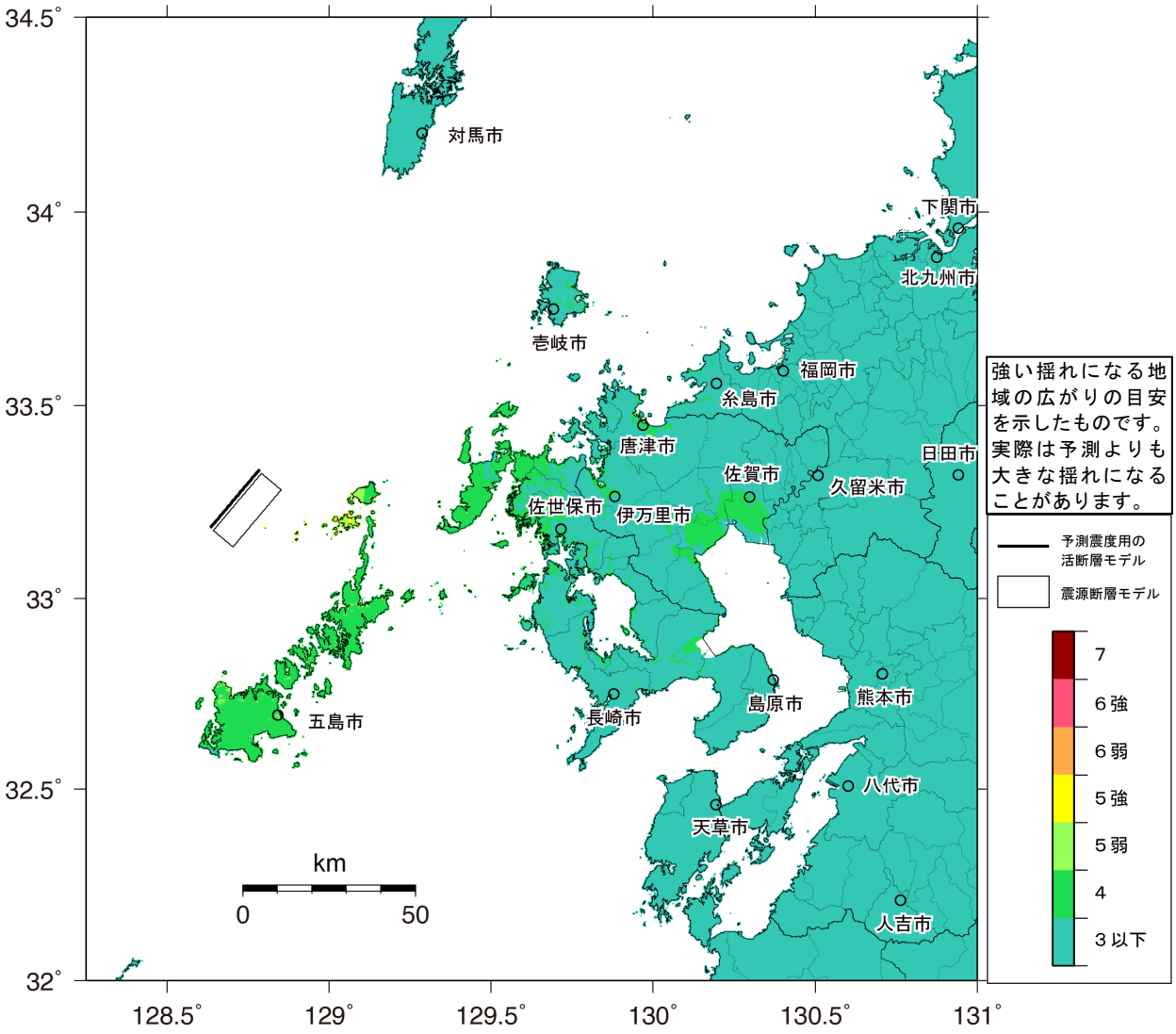
【参考】第１五島堆断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

北部区間



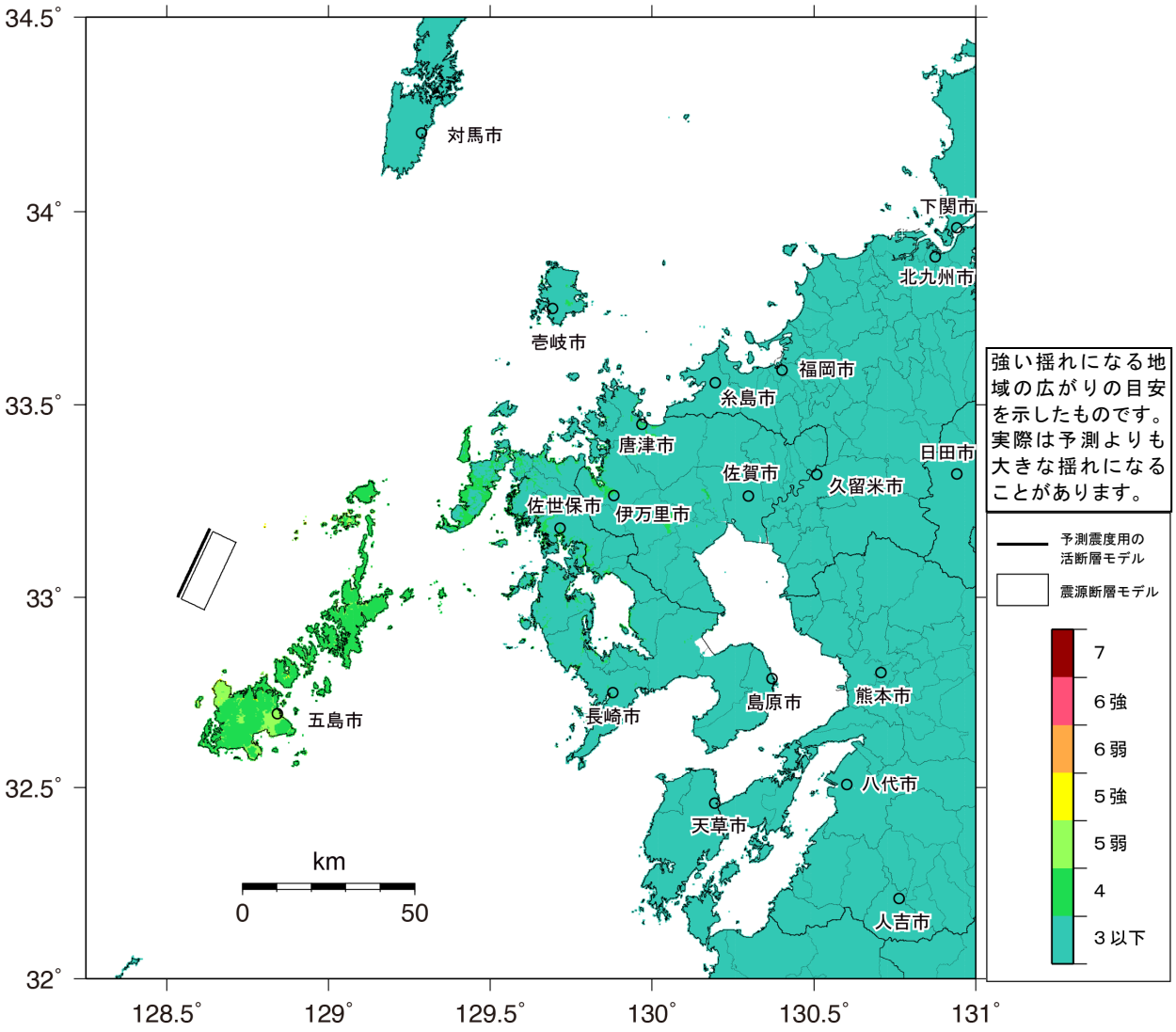
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

中部区間



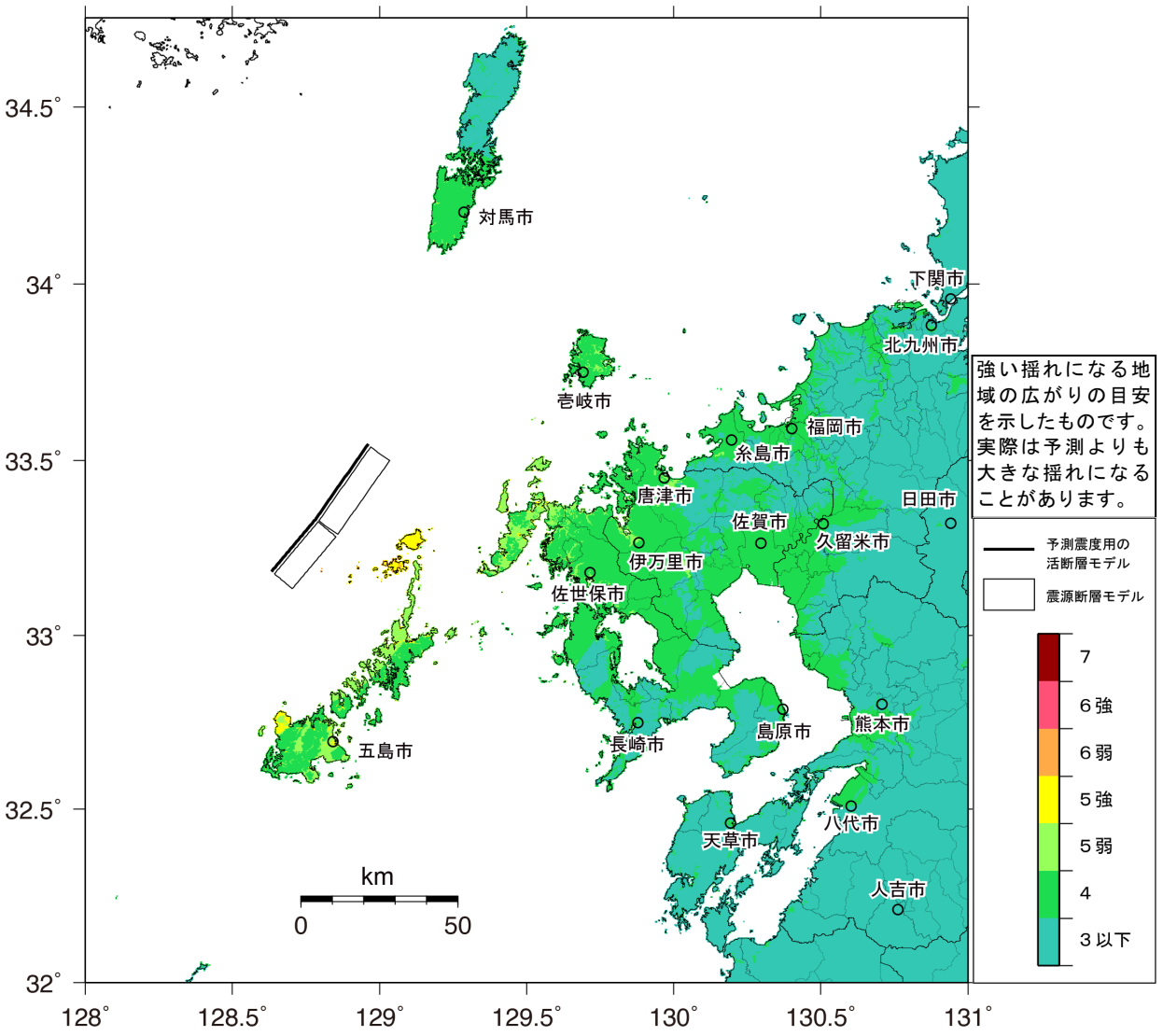
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

南部区間



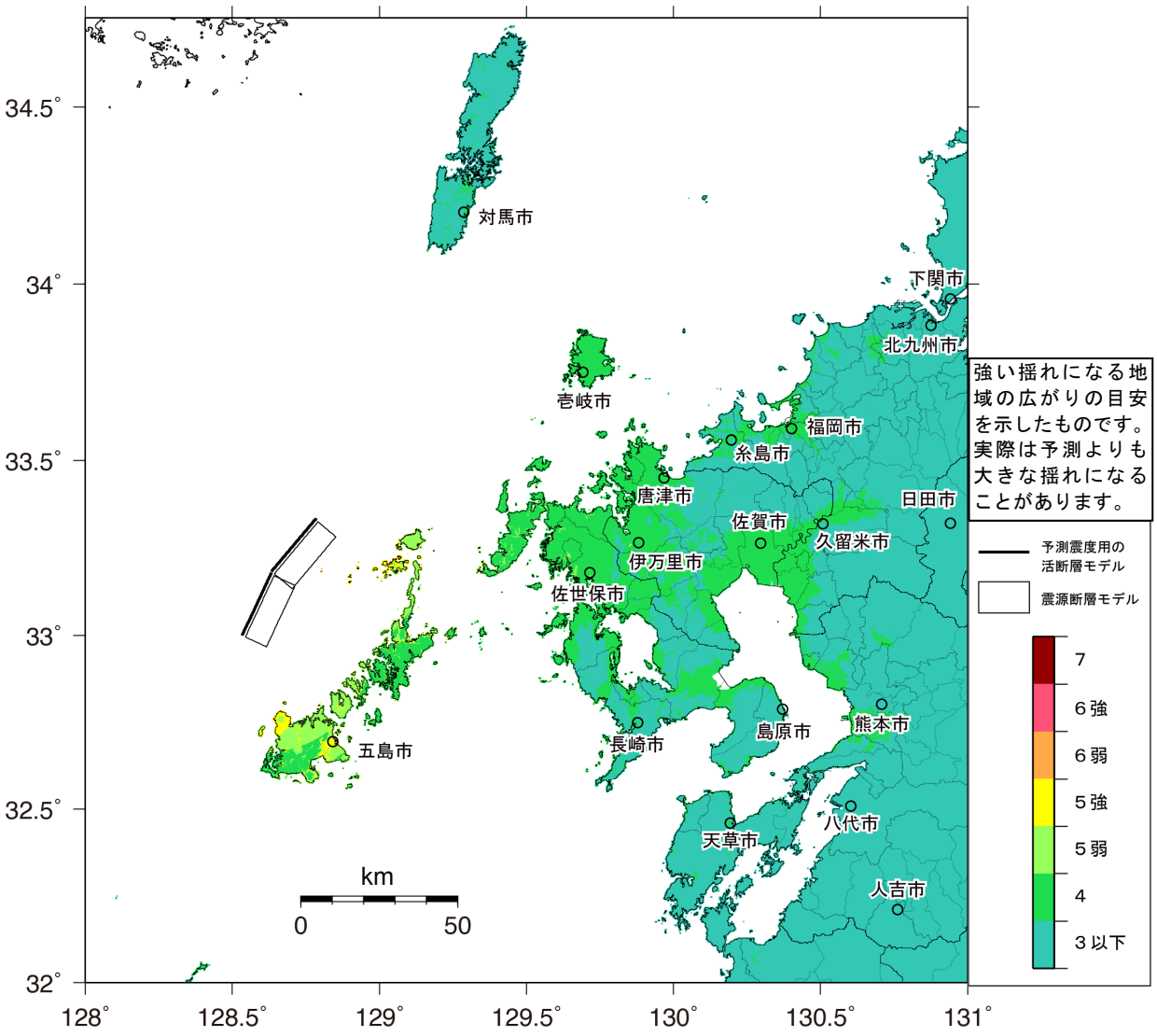
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・中部区間）



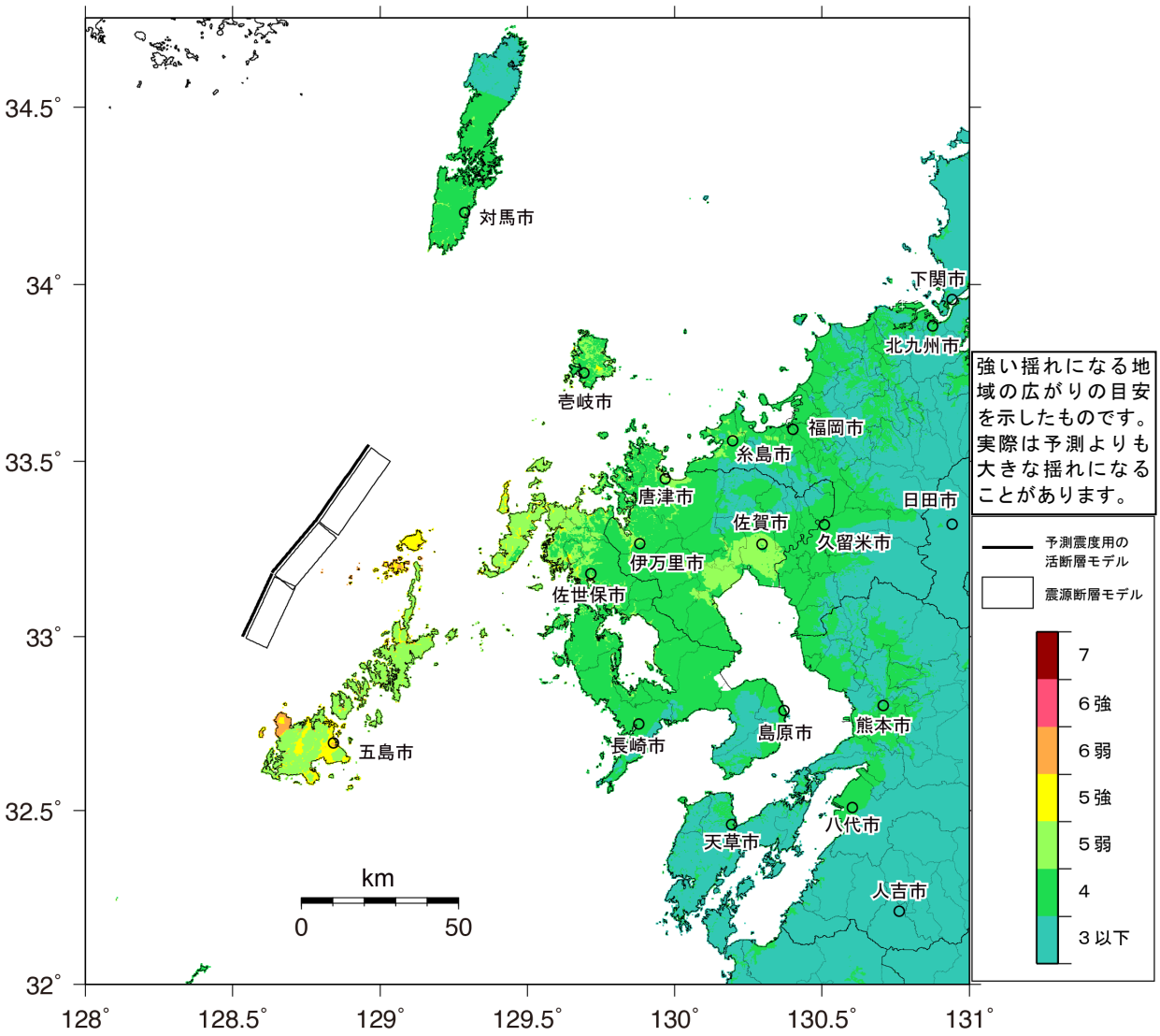
活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（中部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（北部区間・中部区間・南部区間）



活断層モデル　：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解　説

第 1 五島堆断層帯は、対馬の南方 65 km 程度沖合に分布する北東－南西走向の長さ約 73 km の右横ずれ断層です。断層の構造から北部区間、中部区間、南部区間に区分されています。

北部区間は長さ約 29 km で、この区間が活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。中部区間は長さ約 22 km で、この区間が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間は長さ約 22 km で、この区間が活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。また、これらの評価単位区間が連動した場合、M7.9 程度の地震が発生する可能性があります。64－69 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1 ～ 2 ランク程度大きくなる場合があります。

○計算の前提について

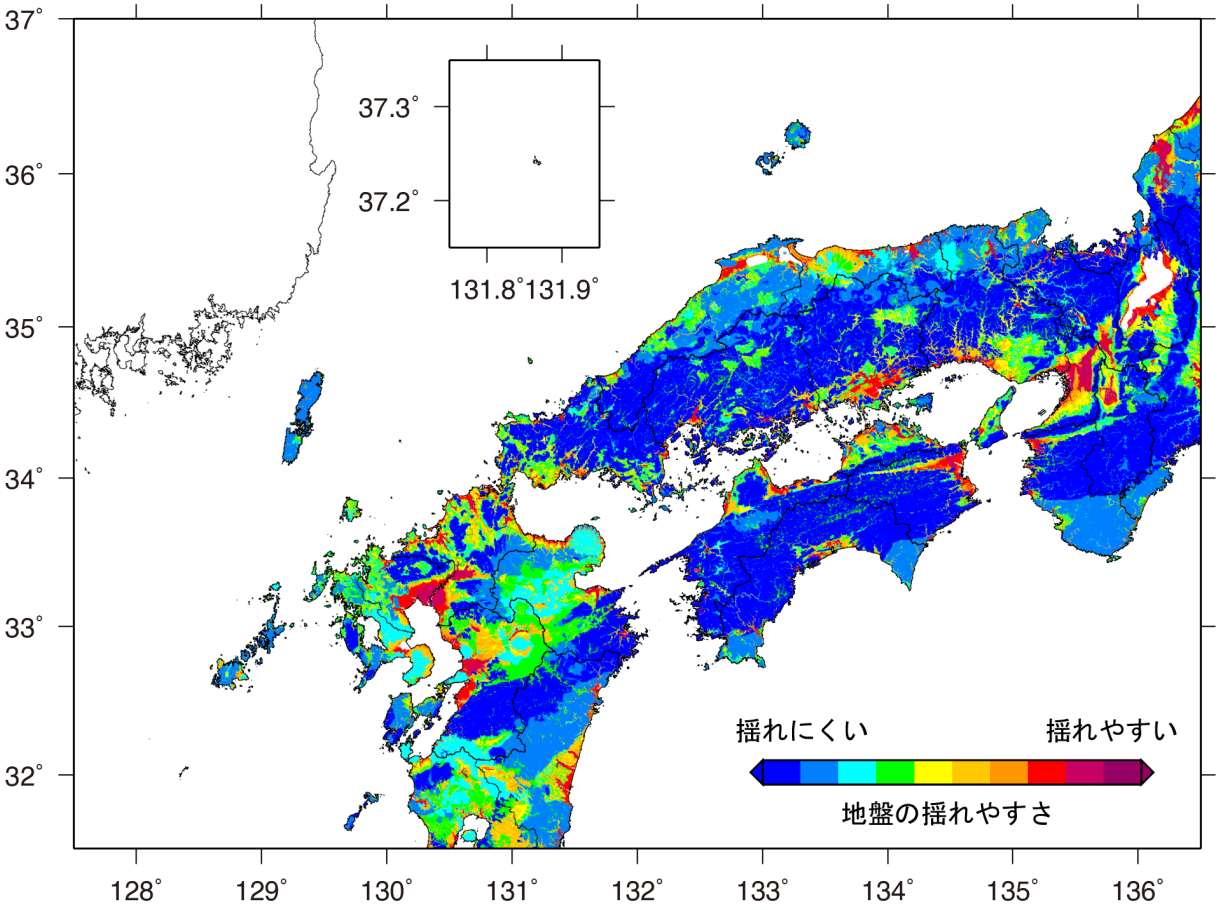
地震調査委員会で実施している強震動の計算には、地震の規模及び断層からの距離を用いて震度を計算する方法（簡便法）と、震源断層の破壊過程や深部の地下構造などをモデル化して地震動を詳細に計算する方法（詳細法）があります（次項参照）。

断層で発生する地震には様々なパターンがありますが、今回はそれらの平均的な揺れの程度を示すことを目的に、主に約 250 m 四方毎の震度を簡便法で計算しました。個々の地点での震度ではなく、強い揺れになる地域の広がり具合などに着目してご利用ください。

実際の揺れは、地震の発生の仕方や地盤の影響などにより、ここで予測されたものよりも１～２ランク程度、大きくなる場合がありますので、ご注意ください。

○地盤の影響について

揺れの大きさは、地震の規模や断層からの距離に加え、地盤の軟らかさやその厚さなどによって大きく変わります。下の図は浅い地盤での揺れの増幅率で、暖色ほど揺れやすくなることを示しています。



全国地震動予測地図 2020 年版（地震調査研究推進本部地震調査委員会, 2021）で用いたデータを使用

参考

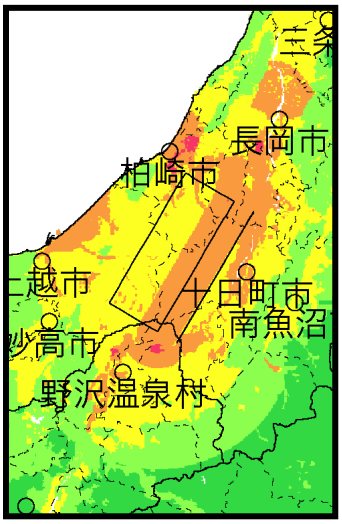
簡便法と詳細法による予測震度分布の計算結果の違いについて

～　十日町断層帯西部の地震の例　～

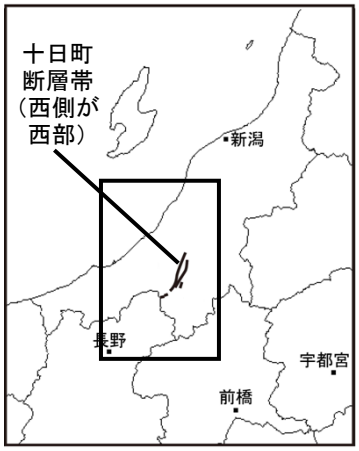
十日町断層帯西部の地震を想定した予測震度分布の例を以下に示します。

簡便法（左図）では、主に地震の規模と断層面からの距離および浅い地盤での揺れの増幅を考慮して計算を行っています。この方法による予測震度は、微細な様子を示すものではなく、震度分布の大要を表したものと言えます。

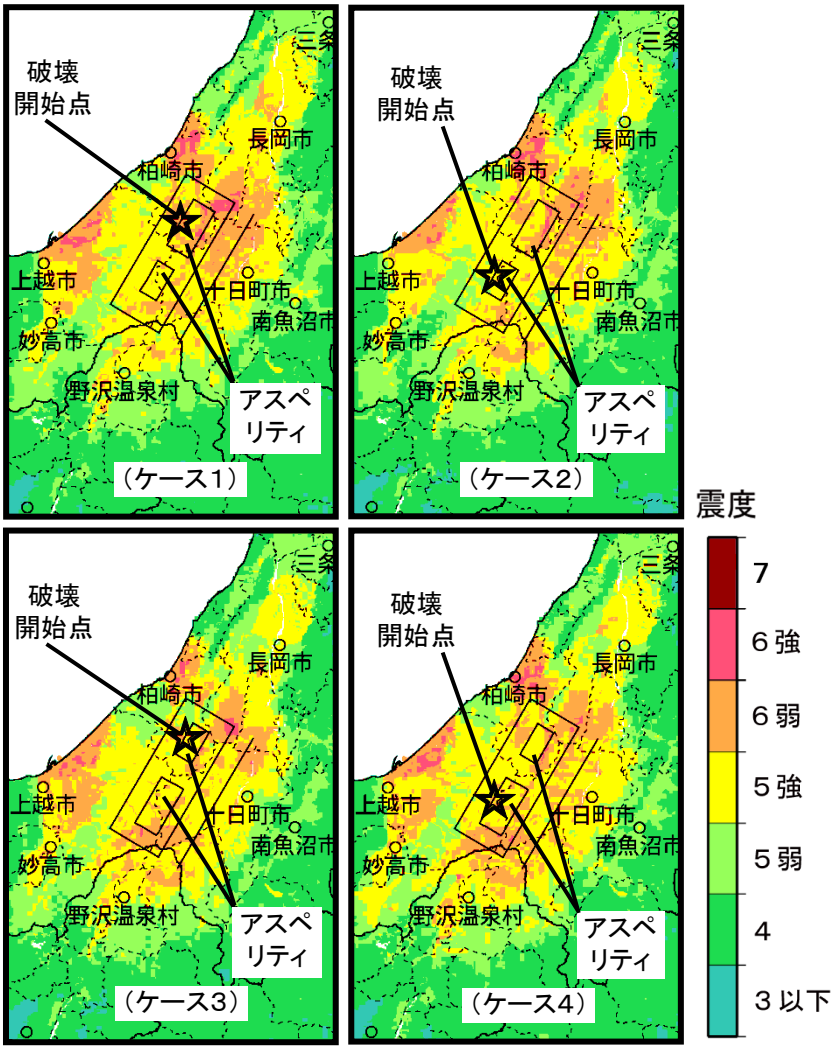
これに対し、詳細法（右４枚の図）では、破壊が始まる場所や、強い地震波を出す領域（アスペリティ）の位置を仮定して、複雑な地盤構造を考慮した計算を行っています。この方法によれば、簡便法に比べて、より詳細に実際の地震の起こり方を想定した震度分布を予測することができます。



簡便法による予測震度分布
（今回適用した方法）



十日町断層帯西部での計算結果
の表示範囲（地図の黒枠内）



詳細法による予測震度分布
（震源の設定が異なる4ケースを計算）